

令和5年度
新潟県立看護大学
自己点検評価報告書

－専任教員の活動業績－
－各種委員会等の活動報告－

令和6年3月



新潟県立看護大学
Niigata College of Nursing

専任教員の活動業績

1 研究、社会及び学内教育活動業績

(1) 制作要件

「研究活動」と「社会活動」及び「学内教育活動」について、令和5年4月から令和6年3月までの12ヶ月間の期間について、本学の在職各教員から申告のあった国内外における活動（業績）の一覧である。

ア 令和5年12月末日までに退職ないし転職している教員のものは含まない。

イ 原則として、各教員から提出されたものを修正せず掲載する。

ウ 掲載の順番は領域順・科目群順とし、個人は令和6年3月現在の職位順ついで採用順に掲載する。

エ 掲載に際して職位名等は入れず、氏名のみを表示とする。

オ 令和5年4月以降12月までに着任した専任教員の業績についても、ウに従って掲載する。

(2) 活動業績掲載順	小児看護学 大久保 明子…………… 38
【共通科目】	山田 恵子…………… 40
I 人間環境科学領域	伊藤 ひかる…………… 42
社会科学 渡辺 弘之…………… 1	小林 宏至…………… 43
徐 淑子…………… 2	母性看護学 常盤 洋子…………… 44
情報科学 中村 義実…………… 4	・助産学 西川 美樹…………… 46
永吉 雅人…………… 5	八巻 ちひろ…………… 48
エルダトン・サイモン… 8	上田 恵…………… 49
	伊藤 美由紀…………… 50
II 自然科学領域	五十畑 麻奈美…………… 51
生物・医学 堀江 正男…………… 10	黒崎 美月…………… 52
石井 角保…………… 11	
葛城 美徳…………… 13	V 地域生活看護学領域
【専門科目】	老年看護学 小長谷 百絵…………… 53
III 基礎看護学領域	原 等子…………… 55
看護管理学 伊豆上 智子…………… 14	東條 紀子…………… 58
基礎看護学 岡村 典子…………… 16	青山 拓夢…………… 60
川島 良子…………… 18	金井 香織…………… 61
谷内田 潤子…………… 19	精神看護学 谷本 千恵…………… 62
山岸 美奈子…………… 20	佐々木 三和…………… 63
池田 よし江…………… 21	舩山 健二…………… 64
山田 彩乃…………… 22	安達 寛人…………… 67
	早藤 夕子…………… 68
IV 臨床看護学領域	地域看護学 高林 知佳子…………… 69
成人看護学 石田 和子…………… 23	野口 裕子…………… 71
高柳 智子…………… 25	関 睦美…………… 73
酒井 禎子…………… 26	前川 絵里子…………… 75
樺澤 三奈子…………… 28	久保野 裕子…………… 76
小林 綾子…………… 30	野村 優希…………… 77
石原 千晶…………… 31	
石岡 幸恵…………… 32	【学長】 神田 清子…………… 78
相澤 達也…………… 34	
坂田 智佳子…………… 35	
佐藤 咲子…………… 37	

渡辺 弘之

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(なし)
5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

なし

【社会活動】

- ・国立クイホア病院スタッフセミナー“Quality of life scale as an outcome measure and its application to routine health examinations”講師

【学内教育活動】

学 部：基礎ゼミナール, 社会福祉概論, 社会学, ふれあい実習, 地域社会と住民組織（新カリ）, 地域社会と住民組織（旧カリ）, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ
博士前期課程：なし
博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

学生委員会委員, 国際交流委員会委員

学年担任, アウトドアサークル、ほしみサークル、手話サークル、バンドサークル、広告研究会サークル顧問

【外部資金獲得】

- 1) 渡辺 弘之(研究代表者)
(2019～2023)：ベトナムのハンセン病元患者の子どもが持つ「傷つきやすさ」とエンパワーメント支援, 科学研究費助成事業(基盤研究C)
- 2) 渡辺 弘之(研究代表者)
(2023～2025)：ベトナムの元ハンセン病患者の子どもたちが抱える潜在因子としての脆弱性の分析, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

徐 淑子

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(1件)
 - 1) 樽井正義, 生島嗣, 徐淑子, 田中五八生, 林神奈, 山本大(2023.3): HIV 陽性者と薬物使用者への支援策と感染・薬物使用予防策の検討, 厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業「地域におけるMSMのHIV感染・薬物使用予防策と支援策の研究」(研究代表者・樽井正義) 令和4年度総括・分担報告書, 令和4年度総括・分担報告書, pp95 - 99(査読無)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(5件)
 - 1) 徐淑子(2023.6): カンボジアにおける仏教を支柱にした保健医療福祉活動～HIV/AIDS および薬物使用の問題を中心に～, 第19回日本仏教看護・ビハーラ学会年次大会(大栄寺(新潟県新潟市))
 - 2) 徐淑子(2023.10): 2023年のカンボジア, 第5回PTG研究会(東京大学東洋文化研究所)(オンライン)
 - 3) 徐淑子(2023.12): キャンパスリカバリーとは, 「大学におけるアディクションへの対応: 処分からキャンパスリカバリーへ」研究会(静岡大学文学部)(オンライン)
 - 4) 徐淑子(2024.3): 質問紙の集票過程と, その思わぬ影響, 合同研究会『グローバル/グローバル共生を考える-教育、文化、スポーツ、福祉、経済の視点から-』(共催: 筑波大学人文社会系リサーチユニット、大沼義彦科研、徐淑子科研、筑波大学メンター会、国際公共政策学位プログラム)(筑波大学東京キャンパス(東京都文京区))
 - 5) 徐淑子(2024.3): 2023年のカンボジア II, 「日本における多文化共生」研究会(コリアナ会議室(東京都町田市))
5. その他の研究活動(1件)
 - 1) 白井千晶, 徐淑子, 森田展彰, 大谷保和, 渡邊洋次郎: 障害に関するリテラシーおよび環境構築の向上を目指す取り組み-大学におけるアディクションへの対応: 処分からキャンパスリカバリーへ, 静岡大学1)

【学会等における活動】

- ・日本保健医療行動科学会 評議員・査読者
- ・日本保健医療社会学会 会員
- ・日本エイズ学会 会員
- ・日本アルコール関連問題学会 会員
- ・日本仏教看護・ビハーラ学会
- ・日本精神保健福祉士協会・学会 会員
- ・第19回日本仏教看護・ビハーラ学会年次大会学術大会

【社会活動】

- ・新潟ダルク
- ・一般社団法人り・ぼん(長岡)
- ・認定NPO法人ふれいす東京
- ・一般財団法人バツハの森
- ・助言/ヒアリング協力(博報堂・厚労省・薬物乱用防止・大麻制度見直しに関するデジタル広報啓発事業)
- ・非常勤講師・津田塾大学「健康教育」
- ・非常勤講師・東京女子医科大学大学院「家族論」
- ・非常勤講師・筑波大学社会学類「医療社会学」

【学内教育活動】

学 部: 基礎ゼミナール, 文化人類学, ふれあい実習, 保健・医療行動科学, ジェンダーとセクシュアリティ, 専門ゼミナールI, 専門ゼミナールII
博士前期課程: 健康社会学, 精神看護学援助論 I
博士後期課程: なし

【学内委員会等の活動】

倫理委員会委員, 研究推進委員会委員, 国際交流委員会委員

国際交流委員会・企画担当：2023 年度 国際交流セミナー（後期）「日本から出て視野を広げることで見える景色」, 研究推進委員会・RPC カフェ：ファシリテーター

【外部資金獲得】

1) 徐淑子(研究代表者)

池田 光穂, 黄 順姫, 酒井 幸子, 諏訪 茂樹 (2021～2024) : 支援プログラムの「しきい」を下げる : 薬物使用者の求助行動とサービスアクセスの研究, 科学研究費助成事業 (挑戦的研究萌芽)

2) 井沢 泰樹(研究代表者)

徐淑子(2021～2025) : 在日コリアンにおける自殺予防対策に関する研究, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

3) 樽井正義(研究代表者)

生島嗣、野坂祐子、徐淑子他(2021～2023) : 「地域における MSM の HIV 感染・薬物使用予防策と支援策の研究」, その他 (厚生労働科学研究費補助金)

中村 義実

1. 原著論文(1件)
 - 1) 中村 義実(2023.5) : オーセンティックな教材がもたらす教育的効果の考察Ⅱ - 複数教材の相互補完性が生み出す効果, ヒューマンスティック英語教育研究会紀要第3号, 3, pp133 - 150(査読有)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(なし)
5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・ヒューマンスティック英語教育研究会
- ・全国看護英語教育学会
- ・異文化コミュニケーション学会

【社会活動】

- ・敬和学園大学非常勤講師「言語コミュニケーション論1」
- ・新潟日報：県立看護大学「新潟学」紹介記事（2023年8月5日）
- ・上越市創造行政研究所ニュースレターNo. 53：地域資源情報の編集と活用（コラム）
- ・信越県境地域づくり交流会
- ・高等教育問題研究会（FMICS）

【学内教育活動】

学 部：総合英語Ⅰ・Ⅱ, 基礎ゼミナール, 専門ゼミナール, 新潟学, ふれあい実習
博士前期課程：なし
博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

入試・広報委員会委員長, 入試実施本部会議副委員長, 教務委員会委員, 入学委員会委員, 研究科委員会委員
大学院説明会 英語試験について説明（2回）, 進路ガイダンス講師 村上高校（2023.5.26）, 出前講義講師
六日町高校（2023.11.2）

【外部資金獲得】

- 1) 柳田 綾(研究代表者)
三浦孝、加賀田哲也、永倉由里、中村義実、他(2021~2024) : 英語コミュニケーション能力と人間性を高める英語授業の活動・タスク・授業モデル開発, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

永吉 雅人

1. 原著論文(6 件)

- 1) 永吉雅人(2023. 5) : 児童・生徒の化学物質過敏症様症状に関する実態—2005、2010、2017 年の調査結果—, 計画行政, 46(2), pp15 - 20(査読有)
- 2) Masato Nagayoshi and Hisashi Tamaki (2023.7) : A Dynamic Nurse Scheduling Approach Using Reinforcement Learning to Address Sudden Absences of an Unknown Nurse, Journal of Advances in Artificial Life Robotics, 3(3), pp174 - 178(査読有)
- 3) 留目宏美, 永吉雅人, 大庭重治(2023. 8) : メンタルヘルスに関する問題を抱える児童生徒に対する支援の実態—精神科学校医の配備の有無による比較—, 上越教育大学研究紀要, 43, pp249 - 258(査読有)
- 4) 永吉雅人, 留目宏美, 大久保明子, 伊藤ひかる, 境原三津夫, 大庭重治(2023. 8) : 化学物質過敏症の児童生徒に対する支援の実態および香害についての児童生徒とその保護者の認識, 上越教育大学研究紀要, 43, pp231 - 258(査読有)
- 5) 本田ひとみ, 佐久間あゆ美, 小野希里子, 石川肇, 松井弥咲, 酒井禎子, 永吉雅人(2023. 7) : 関節リウマチ患者における手洗いの実態調査, 臨床リウマチ, 35(1), pp44 - 52(査読有)
- 6) 留目宏美, 藤井和子, 岩本佳世, 永吉雅人, 内海まゆみ(2024. 2) : 通級指導を受ける児童生徒への養護教諭の個別支援の現状と課題—小・中学校の養護教諭に対する質問紙調査から—, 上越教育大学教職大学院研究紀要, 11, pp275 - 284(査読有)

2. その他論文(3 件)

- 1) 北條祥子, 浦野真弥, 水越厚史, 鈴木高弘, 永吉雅人, 黒岩義之(2023. 8) : 環境過敏症分科会 2023 年度第 1 回オンライン勉強会の報告, 室内環境, 26(2), pp129 - 132(査読有)
- 2) 永吉雅人(2024. 1) : PS1-PS8: 学生ポスターセッション, 電気学会 電子・情報・システム部門 News Letter, 144(1)付録, pp16 - 17(査読無)
- 3) 北條祥子, 浦野真弥, 水越厚史, 鈴木高弘, 永吉雅人, 黒岩義之(2023. 12) : 環境過敏症分科会 2023 年度第 2 回オンライン勉強会の報告, 室内環境, 26(2), 26(3), pp213 - 218(査読有)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(15 件)

- 1) 永吉雅人(2023. 4) : 児童・生徒の環境過敏症に関する全国規模の調査について, 2023 年度第 1 回日本臨床環境医学会環境過敏症分科会, 室内環境学会環境過敏症分科会, 生活環境と健康研究会合同オンライン勉強会(on line)
- 2) 黒岩義之, 平井利明, 北條祥子, 水越厚史, 中里直美, 鈴木高弘, 永吉雅人, 柳田徹郎, 浦野真弥, 横田俊平(2023. 6), 脳科学者から見た環境過敏症の発症メカニズム仮説と今後の展望, 第 31 回日本臨床環境医学会学術集会(東大阪)
- 3) 黒岩義之, 平井利明, 北條祥子, 水越厚史, 中里直美, 鈴木高弘, 永吉雅人, 柳田徹郎, 浦野真弥, 横田俊平(2023. 6) : 環境過敏症・自己免疫疾患・癌・生活習慣病 有病率の性差から何が見えてくるのか, 第 31 回日本臨床環境医学会学術集会(東大阪)
- 4) 黒岩義之, 平井利明, 北條祥子, 水越厚史, 中里直美, 鈴木高弘, 永吉雅人, 柳田徹郎, 浦野真弥, 横田俊平(2023. 6) : 環境と医学の接点 物理環境、化学環境、生物環境、心理社会的環境の健康との関わり, 第 31 回日本臨床環境医学会学術集会(東大阪)
- 5) 永吉雅人, 北條祥子, 菅原正則, 水越厚史, 黒岩義之(2023. 6) : 児童生徒の環境過敏(香害など)に関する全国規模の実態調査—環境過敏を評価するための簡易版調査票の検討—, 第 31 回日本臨床環境医学会学術集会(東大阪)
- 6) 永吉雅人, 北條祥子, 水越厚史, 黒岩義之(2023. 6) : 児童生徒の環境過敏(香害など)に関する全国規模の実態調査—保護者の認識が与える影響—, 第 31 回日本臨床環境医学会学術集会(東大阪)

- 7) 北條祥子, 黒岩義之, 春山康夫, 水越厚史, 永吉雅人, 近藤哲哉, 中吉隆之, 小橋元(2023.6) : 中枢神経感作症候群としての環境過敏症 —化学物質過敏症および自己申告電磁過敏症患者の合併症に関する調査—, 第31回日本臨床環境医学会学術集会(東大阪)
 - 8) "Masato Nagayoshi(2023.6)" : Survey Results of Multiple Chemical Sensitivity-Like Symptoms in School Students in 2005, 2010, and 2017, 第31回日本臨床環境医学会学術集会(東大阪)
 - 9) Sachiko Hojo, Yoshiyuki Kuroiwa, Atsushi Mizukoshi, Kentaro Watai, Masato Nagayoshi, Minoru Osawa, Hideo Ogura, Tetsuya Kondo, Gen Kobashi, Yasuo Haruyama, Naomi Nakasato, Takahiro Suzuki, Xi Lu, Naomi Tsurikisawa, Kou Sakabe(2023.6) : Environmental Hypersensitivity in Japan Current Status and Future Prospects from an Epidemiological Perspective, 第31回日本臨床環境医学会学術集会 日台国際交流シンポジウム(東大阪)
 - 10) Yoshiyuki Kuroiwa, Toshiaki Hirai, Sachiko Hojo, Atsushi Mizukoshi, Naomi Nakasato, Takahiro Suzuki, Masato Nagayoshi, Tetsuro Yanagida, Shinya Urano, Shumpei Yokota(2023.6) : A Neuroscientist's Hypothesis of the Pathogenesis of Environmental Hypersensitivity and Future Prospects, 第31回日本臨床環境医学会学術集会 日台国際交流シンポジウム(東大阪)
 - 11) 永吉雅人, 玉置久(2023.9) : 勤務パターンの評価の異なる看護師を考慮した強化学習を用いた構築型ナーススケジューリング, 2023年電気学会電子・情報・システム部門大会(札幌)
 - 12) 永吉雅人(2023.9) : 児童生徒(小1~中3)の環境過敏(香害など)に関する全国規模の実態調査, 2023年度第2回日本臨床環境医学会環境過敏症分科会, 室内環境学会環境過敏症分科会, 生活環境と健康研究会合同オンライン勉強会(on line)
 - 13) 川瀬晃弘, 永吉雅人(2023.12) : アンケート調査の反復実施は回答者の化学物質過敏症に対する認知を高めたか?, 2023年室内環境学会学術大会(那覇)
 - 14) 永吉雅人, 北條祥子, 水越厚史, 黒岩義之(2023.12) : 上越市の化学物質に過敏な児童・生徒における性差:2017年度調査結果から, 2023年室内環境学会学術大会(那覇)
 - 15) Masato Nagayoshi and Hisashi Tamaki(2024.2) : Constructive Nurse Scheduling Using Reinforcement Learning Considering Variations in Nurse Work Patterns, The 2024 International Conference on Artificial Life and Robotics (ICAROB2024) (Oita)
5. その他の研究活動(1件)
- 1) 永吉雅人, Elderton Simon, 大久保明子, 高林知佳子, 野口裕子, 関睦美, 前川絵里子, 久保野裕子, 野村優希, 留目宏美 : 上越市における高校生・大学生を対象とした「香害」および環境過敏症に関する実態調査, 令和5年度新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

- ・電気学会 電子・情報・システム部門 編修委員会 副委員長
- ・電気学会 電子・情報・システム部門 役員会 役員
- ・電気学会 電子・情報・システム部門 論文委員会 編修長
- ・システム制御情報学会
- ・計測自動制御学会
- ・電気学会
- ・室内環境学会
- ・日本臨床環境医学会
- ・日本公衆衛生学会
- ・日本精神保健看護学会
- ・日本看護科学学会
- ・"The 2024 International Conference on Artificial Life and Robotics (ICAROB2024), OS12 Machine Learning and its Applications Organizer & Chair"
- ・2023年電気学会電子・情報・システム部門大会 大会論文委員会 委員
- ・2023年電気学会電子・情報・システム部門大会 大会委員会 委員

- ・2024年電気学会電子・情報・システム部門大会 大会委員会 委員

【社会活動】

- ・香料のにおいで不調「悩み知って」, 朝日新聞, 2023年8月26日(夕刊), 7面
- ・その香り、私には苦痛・・・, 日本経済新聞, 第49407号(2023年10月17日発行), 38面
- ・児童生徒の「香害」どう対応?給食用エプロンなどが原因に, online記事, 教育新聞(2023.12.18発行)
- ・給食白衣 広がる「持参型」, 朝日新聞, 49351号(日刊), 32面(2023.11.19発行)
- ・給食当番、「自宅エプロンOK」柔軟剤など影響 選択制の学校拡大, online記事, 朝日新聞(2023.11.18発行)。
- ・NPO法人 関川水辺クラブ
- ・NPO法人 新潟県難病相談支援センター
- ・電気学会 電子・情報・システム部門 システム技術委員会 先端システムの超知能化を指向した機械学習技術協同研究委員会 委員
- ・清泉女学院大学 非常勤講師「保健と看護統計学」(学部2年生, 後期)
- ・日本臨床環境医学会環境過敏症分科会 幹事
- ・室内環境学会環境過敏症分科会 幹事
- ・生活環境と健康研究会 幹事

【学内教育活動】

学 部：情報処理演習, 情報科学, 人間工学, ふれあい実習, 基礎ゼミナール, 保健統計演習, 保健統計演習Ⅰ, 保健統計演習Ⅱ, ボランティア活動

博士前期課程：看護情報統計学

博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

情報ネットワーク特別委員会委員長, 情報ネットワーク実行部会委員長, 入試・広報委員会委員, 看護研究交流センター地域社会貢献部門員

水研究, ソフトテニス, バスケットボールサークル顧問

【外部資金獲得】

1) 永吉雅人(研究代表者)

(2019～2023)：強化学習によるメンバーシップ向上に寄与する共創的ナース・スケジューリングシステム, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

エルダトン・サイモン

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(なし)
5. その他の研究活動(1件)
 - 1) 永吉雅人, エルダトン・サイモン, 大久保明子, 高林知佳子, 野口 裕子, 関 睦美, 前川絵里子, 久保野裕子, 野村 優希, 留目 宏美: "上越市における高校生・大学生を対象とした「香害」および環境過敏症に関する実態調査", 令和5年度学内共同研究助成

【学会等における活動】

- 22q11.2 Society
- The Japan Association of Language Teachers
- College and University Education SIG
- Pragmatics SIG
- 日本遺伝看護学会
- 全国看護英語教育学会
- Conversation Analysis Network—Kanto 会員

【社会活動】

- NPO 法人親子の未来を支える会第6回 22q11.2 Nagano Zoo ふれあいWeb 交流会 学習・教育サポーター
- NSN 通信 Vol.12 「国際交流活動」
- NPO 法人親子の未来を支える会 22q11.2 学習サポートチームメンバー
- 他大学・機関の教員の多数の研究の翻訳および英語の指導 R5 年度の件数: 6 件
- 上越教育大学 非常勤講師
- 日本キリスト者医科連盟 (JCMA: Japan Christian Medical Association の月刊誌「医学と福音」の英文監修
- 十日町看護専門学校 非常勤講師

【学内教育活動】

学 部: コミュニケーション英語ⅠA, コミュニケーション英語ⅠB, コミュニケーション英語ⅡA, コミュニケーション英語ⅡB, コミュニケーション英語Ⅲ, 基礎ゼミナール4, ふれあい実習, (旧カリキュラム) 英語コミュニケーションⅢ, (旧カリキュラム) 英語コミュニケーションⅣ, 国際看護演習 (NZ 看護研修の実際の時間: 2 週間約 336 時間) , (旧カリキュラム) ボランティア活動

博士前期課程: なし

博士後期課程: なし

【学内委員会等の活動】

国際交流委員会副委員長, 学生委員会副委員長, 紀要委員会委員
バレーボール、吹奏楽団サークル顧問

【外部資金獲得】

- 1) 小島 美里 (研究代表者)

宮園 真美、吉田 大悟、角森 輝美、加峯 奈々、エルダトン・サイモン(2023～2027)：看護職が創るコミュニティケアモデル【日本版ビュートゾルフ】の構築とその介入効果, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

堀江 正男

1. 原著論文(1件)

- 1) Keisuke Watanabe, Masao Horie, Manabu Hayatsu, Yoshikazu Mikami, Noboru Sato(2023.9) : Spatiotemporal expression patterns of R-spondins and their receptors, Lgrs, in the developing mouse telencephalon, Gene Expression Patterns, 49, pp1193334(査読有)

2. その他論文(なし)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(1件)

- 1) 堀江正男、渡辺啓介、榊間春利、佐藤昇、柴田昌宏(2024.3) : マウス延髄網様体から顎口腔顔面筋支配神経核への投射解析, 第129回日本解剖学会全国学術集会(那覇市)

5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・日本解剖学会 代議員

【社会活動】

- ・看護研究交流センターいきいきサロン講師

【学内教育活動】

学 部 : 形態機能学 I, 形態機能学 II, 基礎生物化学, 基礎ゼミナール, ふれあい実習

博士前期課程 : なし

博士後期課程 : なし

【学内委員会等の活動】

図書委員会委員長, 災害時看護支援特別委員会委員長, 入試広報委員会副委員長, 情報ネットワーク特別委員会委員, 自己点検評価特別委員会委員

【外部資金獲得】

- 1) 堀江正男(研究代表者)

(2023~2023) : 南相馬市の児童・生徒におけるゲーム・インターネットの使用状況に関する調査
その他(福島復興支援内藤賞(研究助成金))

石井角保

1. 原著論文(1件)

- 1) Yuki Fujiwara, Izuki Amano, Sumiyasu Ishii, Mikiko Kishi, Noriyuki Koibuchi(2023.12) :
Online Physiology Practice with Team-Based Learning During the COVID-19 Pandemic.
Advances in medical education and practice, 14, pp1435 - 1443(査読有)

2. その他論文(なし)

3. 著書(2件)

- 1) 日本甲状腺学会編集(2023.4) : "甲状腺ホルモン不応症診療の手引き, 全96ページ", 南江堂(東京)
- 2) 日本生理学会用語委員会編集(2024.3) : 生理学用語ハンドブック, 丸善出版(東京)

4. 学会発表(2件)

- 1) Ayane Ninomiya, Izuki Amano, Michifumi Kokubo, Yusuke Takatsuru, Sumiyasu Ishii, Hirokazu Hirai, Nobutake Hosoi, Noriyuki Koibuchi(2023.12) : The indispensable role of thyroid hormone during development in the maintenance of cerebellar function in adulthood, International Symposium on Molecular Thyroidology. (金沢)
- 2) 二ノ宮彩音、天野出月、小久保倫文、高鶴裕介、石井角保、平井宏和、細井延武、鯉淵典之(2023.6) : 変異甲状腺ホルモン受容体を発現させたマウスプルキンエ細胞では、長期抑圧誘発刺激は長期増強を惹起する, 第96回 日本内分泌学会学術集会(名古屋)

5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・アジアオセアニア甲状腺学会 会計補佐
- ・日本内分泌学会 評議員
- ・日本甲状腺学会 評議員
- ・日本甲状腺学会 臨床重要課題「甲状腺ホルモン不応症診断基準」委員長
- ・Endocrine Journal 誌 査読委員
- ・日本生理学会 用語委員会
- ・日本内科学会
- ・日本糖尿病学会
- ・第66回日本甲状腺学会学術集会 演題選定委員
- ・第66回日本甲状腺学会学術集会 座長
- ・第66回日本甲状腺学会学術集会 招待講演
- ・第33回臨床内分泌代謝Update 招待講演

【社会活動】

- ・厚生労働省難治性疾患政策研究事業「ホルモン受容機構異常に関する調査研究班」班員
- ・群馬大学医学部非常勤講師
- ・上毛新聞「甲状腺ホルモン不応症 診療の手引書刊行」
- ・あかぎ会(日本糖尿病協会所属糖尿病友の会)
- ・日本ホルモンステーション
- ・日本甲状腺協会
- ・International Journal of Molecular Sciences 誌論文査読2件
- ・Thyroid Science 誌論文査読1件

【学内教育活動】

学 部：臨床病態学Ⅰ, 臨床病態学Ⅱ, 臨床病態学Ⅲ, 基礎ゼミナール6, ふれあい実習

博士前期課程：フィジカルアセスメント

博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

研究推進委員会委員長, 入試広報委員会委員, 倫理委員会委員, 感染対策本部委員, 衛生管理者委員

学校医, 研究計画洗練コンサルテーション研修会コーディネーター

【外部資金獲得】

1) 石井角保(研究代表者)

(2021～2023)：HDAC3 の甲状腺機能低下症における機能解明と新規手法開発によるゲノム区画化検討, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

2) 大藪恵一(研究代表者)

石井角保, 井上大輔, 小川渉, 田部勝也, 海老原健, 三宅吉博, 古川安志, 難波範行(2021～2023)：ホルモン受容機構異常に関する調査研究, その他(厚生労働科学研究費補助金)

葛城 美德

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(なし)
5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

なし

【社会活動】

- ・ 上越教育大学 研究倫理審査委員会 委員

【学内教育活動】

学 部：臨床生化学, 感染学, 臨床栄養学, 基礎生物化学, 基礎ゼミナール8, ふれあい実習

博士前期課程：なし

博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

研究推進委員会副委員長, ハラスメント相談員

学年担任, R. P. C. CAFE ファシリテーター

【外部資金獲得】

なし

伊豆上 智子

1. 原著論文(1 件)

- 1) 伊豆上智子, 大河内敦子, 林さとみ (2023. 4) : 看護学科海外交流プログラムにおけるグローバル人材育成上の課題, 帝京大学医療技術学部紀要, 8・9, pp27 - 35(査読有)

2. その他論文(なし)

3. 著書(2 件)

- 1) 秋山 智弥, 木村 チヅ子, 中西 睦子, 他 23 名 (2023. 4) : 看護管理学習テキスト第 3 版第 2 巻看護サービスの質管理 2022 年版, 第 6 章 看護サービスの質管理と記録 論点 2: 臨床現場の看護情報の特徴と活用, 日本看護協会出版会(東京都)
- 2) 荒井 俊行, 伊豆上 智子, 井上 智子, 他 13 名 (2023. 11) : 看護業務をめぐる法律相談, 安全で質の高い看護を効果的・効率的に提供するための看護チームのあり方とは, 他 17 題, 新日本法規出版株式会社(東京)

4. 学会発表(4 件)

- 1) 伊豆上智子(2023. 8) : 入院医療サービスに対する患者の期待と経験の比較, 第 27 回日本看護管理学会学術集会(東京都)
- 2) 北島泰子, 伊豆上智子, 前田樹海 (2023. 8) : 医療資格のなりすまし犯罪事例の実態調査第 1 報, 日本フォレンジック看護学会第 10 回学術大会(和歌山県)
- 3) 伊豆上智子, 前田樹海, 北島泰子 (2023. 8) : 医療資格のなりすまし犯罪事例の実態調査第 2 報;看護職のなりすまし手口, 日本フォレンジック看護学会第 10 回学術大会(和歌山県)
- 4) 前田樹海, 北島泰子, 伊豆上智子 (2023. 8) : 医療資格のなりすまし犯罪事例の実態調査第 3 報;犯罪の顕在化を阻む要因の分析, 日本フォレンジック看護学会第 10 回学術大会(和歌山県)

5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・日本看護管理学会 学会誌編集委員
- ・日本看護学会 学会誌査読委員
- ・第 27 回日本看護管理学会学術集会 トワイライトセミナー(学会誌編集委員会企画)
- ・新潟県看護協会看護学会 特別講演 座長

【社会活動】

- ・上越市情報公開・個人情報保護制度等審議会委員
- ・長野県看護協会 2023 年度認定看護管理者教育課程(セカンドレベル)「質管理Ⅱ(看護サービスの質管理)」講師
- ・新潟県看護協会 2023 年度認定看護管理者教育課程(セカンドレベル)「質管理Ⅱ(看護サービスの質管理)」講師
- ・新潟県看護協会 2023 年度認定看護管理者教育課程(ファーストレベル)「組織管理論Ⅰ(組織マネジメント概論)」講師
- ・国立病院機構 2023 年度認定看護管理者教育課程(セカンドレベル)「医療・看護におけるクオリティマネジメント(エビデンスを用いた質管理)」講師
- ・新潟県看護協会 2023 年度一般研修「看護マネジメント」講師
- ・A 県内の病院における看護研究への取り組みに関する研究
- ・確認不足によるインシデントの分析と対策

【学内教育活動】

学 部：専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ, 看護管理, 総合科目, 人間工学, 国際看護演習

博士前期課程：看護管理学特論, 看護学研究法

博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

国際交流委員会委員長, 入試・広報委員会委員長, 看護研究交流センター看護職学習支援部門長

【外部資金獲得】

1) 前田樹海(研究代表者)

伊豆上智子, 望月聡一郎, 北島泰子(2022～2025)：出生年による看護師の就業行動の差とその要因, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

岡村 典子

1. 原著論文(1 件)

- 1) 柳森 弥生, 岡村 典子(2024. 3) : 看護師の腰痛予防対策に関する研究 ―腰痛のない看護師を対象にして―, 日本看護科学会誌, 43, pp698 - 708(査読有)

2. その他論文(2 件)

- 1) 相澤達也, 坂田智佳子, 酒井禎子, 樺澤三奈子, 山岸美奈子, 岡村典子, 高柳智子(2024. 3) : クリティカルケア看護における臨床推論力を育成するための教育実践の内容・方法とその効果に関する文献研究 ―国内外の看護基礎教育に焦点をあてて―, 新潟看護ケア研究学会誌, 10 (1) , pp32 - 39(査読有)
- 2) 樺澤三奈子, 相澤達也, 山岸美奈子, 酒井禎子, 岡村典子, 坂田智佳子, 高柳智子(2024. 3) : クリティカルケア看護における臨床推論の実態に関する文献レビュー―臨床推論力を高めるための看護基礎教育プログラムの構築に向けて―, 新潟看護ケア研究学会誌, 10 (1) , pp22 - 31(査読有)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(なし)

5. その他の研究活動(1 件)

- 1) 酒井禎子, 相澤達也, 坂田智佳子, 樺澤三奈子, 高柳智子, 山岸美奈子, 岡村典子, 堀江正男, 境原三津夫, 村松卓弥, 長井卓也 : クリティカルケアにおける「臨床推論力」を育成する看護基礎教育プログラムの構築, 令和4年度新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

- ・日本看護科学学会
- ・日本看護学教育学会
- ・日本看護研究学会
- ・日本看護技術学会
- ・日本カウンセリング学会
- ・日本カウンセリング学会カウンセリング心理士会
- ・日本心身医学会
- ・日本在宅ケア学会
- ・仏教看護・ビハーラ学会
- ・東京医科歯科大学お茶の水医学会
- ・聖路加看護学会
- ・日本精神保健看護学会
- ・日本看護管理学会
- ・お茶の水看護学会
- ・新潟看護ケア研究学会
- ・日本看護教育学会
- ・第54回(2023年度)日本看護協会学術集会 抄録選考委員

【社会活動】

- ・新潟県立中央病院看護部教育アドバイザー
- ・厚生連上越総合病院 看護師特定行為研修管理委員会 外部委員
- ・新潟県立中央病院 新人看護師メンタルヘルス研修、第1回から第3回、講師
- ・新潟県看護協会 新人看護職員研修における教育担当者研修、講師
- ・令和5年度 新潟県看護職員臨地実習指導者養成講習会 「実習指導方法論」、講師
- ・新潟県看護協会 「看護師基礎教育を考える会」、シンポジスト

- ・A 県内の病院における看護研究実施状況および支援体制に関する実態調査
- ・新型コロナウイルス感染症専用病棟に勤務する看護師が感じている身体的・精神的影響に関する実態調査

【学内教育活動】

学 部：看護学概論, 看護援助論Ⅰ, 看護援助論Ⅱ, 基礎看護技術演習Ⅰ, 基礎看護学演習Ⅱ, 基礎看護学技術演習Ⅲ, 基礎看護学実習Ⅰ, 基礎看護学実習Ⅱ, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ, 総合実習, ライフステージと看護, 看護倫理

博士前期課程：看護理論, 基礎看護学特別研究, フィジカルアセスメント, 看護研究法

博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

教務委員会委員長, ハラスメント防止特別委員会委員, 自己点検・評価特別委員会委員, 教学委員会委員, 看護研究交流センター特別研究部門長

茶道サークル顧問

【外部資金獲得】

1) 岡村典子(研究代表者)

(2017～2023)：感情を的確にマネジメントする為のスキル習得に向けた看護管理者向けプログラムの構築, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

川島 良子

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(なし)
5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・日本看護学教育学会
- ・日本看護研究学会
- ・日本看護科学学会
- ・日本教師学学会
- ・日本協同教育学会
- ・北関東医学会
- ・聖路加看護学会

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

学 部：看護学概論, 基礎看護技術演習Ⅰ, 基礎看護技術演習Ⅱ, 基礎看護技術演習Ⅲ, 看護援助論Ⅰ, 基礎看護学実習Ⅰ, 基礎看護学実習Ⅱ, 総合実習, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ

博士前期課程：なし

博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

災害時看護支援特別委員会委員, 学生委員会委員, 国家試験対策・就職委員会委員
学年担任

【外部資金獲得】

なし

谷内田 潤子

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(なし)
5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

なし

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

学 部：基礎看護技術演習Ⅰ, 基礎看護技術演習Ⅱ, 基礎看護技術演習Ⅲ, 看護援助論Ⅱ, 基礎看護学実習Ⅰ,
基礎看護学実習Ⅱ, 総合実習, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ

博士前期課程：なし

博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

実習委員会委員, 国家試験対策・就職委員会委員

【外部資金獲得】

なし

山岸 美奈子

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(2件)

- 1) 樺澤三奈子, 相澤達也, 山岸美奈子, 酒井禎子, 岡村典子, 坂田智佳子, 高柳智子(2024. 3) : クリティカルケア看護における臨床推論の実態に関する文献レビュー—臨床推論力を高めるための看護基礎教育プログラムの構築に向けて—, 新潟看護ケア研究学会誌, 10, pp22 - 31(査読有)
- 2) 相澤達也, 坂田智佳子, 酒井禎子, 樺澤三奈子, 山岸美奈子, 岡村典子, 高柳智子(2024. 3) : クリティカルケア看護における臨床推論力を育成するための教育実践の内容・方法とその効果に関する文献研究—国内外の看護基礎教育に焦点をあてて—, 新潟看護ケア研究学会誌, 10, pp32 - 39(査読有)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(なし)

5. その他の研究活動(1件)

- 1) 酒井禎子, 相澤達也, 坂田智佳子, 樺澤三奈子, 高柳智子, 山岸美奈子, 岡村典子, 堀江正男, 村松卓弥, 長井卓也, 境原三津夫 : クリティカルケアにおける「臨床推論力」を育成する看護基礎教育プログラムの構築, 令和4年度新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

- ・日本看護科学学会
- ・日本看護学教育学会
- ・北関東医学会
- ・新潟看護ケア研究学会

【社会活動】

- ・上越圏域看護部長会主催 「高齢者の特徴を捉えたフィジカルアセスメント研修会」ファシリテーター
- ・A 県内の病院に勤務する看護師の臨床における看護研究活動の課題と適切な支援の検討

【学内教育活動】

学 部 : 看護援助論Ⅰ, 看護援助論Ⅱ, 基礎看護技術演習Ⅰ, 基礎看護技術演習Ⅱ, 基礎看護技術演習Ⅲ, 基礎看護学実習Ⅰ, 基礎看護学実習Ⅱ, 総合実習, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ

博士前期課程 : フィジカルアセスメント

博士後期課程 : なし

【学内委員会等の活動】

FD委員会委員, ハラスメント防止特別委員会委員

保健指導員, 合唱サークルサークル顧問

【外部資金獲得】

なし

池田よし江

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(なし)
5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・日本看護科学学会 会員
- ・日本看護学教育学会 会員
- ・日本緩和医療学会 会員
- ・日本ニューロサイエンス看護学会 会員
- ・第11回日本ニューロサイエンス看護学会学術集会 運営・実行委員

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

学 部：基礎看護技術演習Ⅰ, 基礎看護技術演習Ⅱ, 基礎看護技術演習Ⅲ, 基礎看護学実習Ⅰ, 基礎看護学実習Ⅱ, 総合実習, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ, 看護学概論, 看護援助論Ⅰ, 看護援助論Ⅱ, ライフステージと看護

博士前期課程：なし

博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

入試・広報委員会委員, 看護研究交流センター看護職学習支援部門員

【外部資金獲得】

- 1) 池田よし江(研究代表者)

宮林郁子(2022～2025)：看護学基礎教育における薬理学の強化から臨床判断力を育成するストラテジーの構築, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

山田彩乃

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(なし)
5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・第32回日本看護教育学学会 実行委員

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

学 部：看護学概論, 看護援助論Ⅰ, 看護援助論Ⅱ, 基礎看護技術演習Ⅰ, 基礎看護技術演習Ⅱ, 基礎看護技術演習Ⅲ, 基礎看護学実習Ⅰ, 基礎看護学実習Ⅱ, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ, 総合実習, ライフステージと看護

博士前期課程：なし

博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

看護研究交流センター看護職学習支援部門員

【外部資金獲得】

なし

石田 和子

1. 原著論文(4件)

- 1) 横川史穂子, 石岡幸恵, 石田和子, 西堀藍(2024. 3) : 外来化学療法を受ける患者の救急外来受診の愁訴と看護支援, 長野市民病院医学雑誌, 8, pp15 - 24(査読有)
- 2) 横川史穂子, 石岡幸恵, 藤本登志子, 吉越美穂, 石田和子(2024. 3) : 悪い知らせを伝えるインフォームド・コンセントに同席する看護師の患者・家族への意思決定支援, 長野市民病院医学雑誌, 8, pp25 - 32(査読有)
- 3) 杉山潤, 酒井禎子, 石田和子(2024. 3) : 終末期がん患者の「食べること」の意味づけ, 日本がん看護学会誌, 38 巻, pp34 - 42(査読有)
- 4) 横川史穂子, 石岡幸恵, 石田和子, 塩ノ谷美津子(2024. 3) : 外来化学療法センターで治療を受ける患者への全人的な看護実践における看護師の認識と行動, 長野市民病院医学雑誌, 8 巻, pp33 - 38(査読有)

2. その他論文(2件)

- 1) 斎藤千恵子, 山崎祐梨花, 田原純一, 長野実沙, 石田和子(2024. 3) : 新人看護師が経験したリアリティショックとそれを乗り越えた要因, 新潟県立看護大学紀要(研究報告), 第13巻, pp8 - 15(査読有)
- 2) 石岡幸恵, 横川史穂子, 石田和子(2024. 2) : 治療中の若年層乳がん患者が折り合いをつけながら生活を送るプロセス, THE KITAKANTO MEDICAL JOURNAL (資料), 78 巻, pp79 - 89(査読有)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(7件)

- 1) Mitiko Nakasima, Kazuko Ishida, et all(2023. 6) : Periodontal Disease Symptoms and Consultation Behavior of Pregnant Women in Japan, ICM 2023(Bari, Indonesia)
- 2) Kazuko Ishida, Yuto Sasage, Mitiko Nakasima, et all(2023. 9) : Perceptions of colorectal cancer patients treated with anticancer outpatient setting, International Conference on Cancer Nursing 2023 (Glasgow, United Kingdom)
- 3) 渡邊たつよ, 石田和子(2023. 12) : 潰瘍性大腸炎患者の病いと共に生きるための対処行動, 第43回日本看護科学学会学術集会(下関)
- 4) 幅雄基, 石田和子(2023. 12) : 男性看護師の就業継続に与える職務上の困難とそれを乗り越えた要因, 第43回日本看護科学学会学術集会(下関)
- 5) 高橋美英子, 中島通子, 石田順子, 石田和子(2023. 12) : 実習指導者が男子看護学生の母性看護学実習への認識, 第43回日本看護科学学会学術集会(下関)
- 6) 川田智美, 石田和子(2024. 2) : がん化学療法を受ける患者のコントロールを必要とする事象や要因の分析, 第38回日本がん看護学会学術集会(神戸)
- 7) 樋口伸子, 相場沙織, 桃井明仁, 太田千尋, 石田和子(2024. 2) : 在宅で最期を過ごすことを希望されたAYA世代卵巣がん再発患者の療養支援へ向けた調整とその課題, 第38回日本がん看護学会学術集会(神戸)

5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・日本死の臨床研究会関東甲信越地区 役員
- ・日本がん看護学会 地方分科会委員会
- ・日本死の臨床研究会関東甲信越地区 役員
- ・日本がん看護学会 地方分科会委員会
- ・新潟がん看護研究会

【社会活動】

- ・本庄児玉看護専門学校 (2年) 看護研究の基礎 (質的研究) 講師
- ・本庄児玉看護専門学校 (2年) 看護研究の基礎 (事例研究) 講師
- ・本庄児玉看護専門学校 (2年) 看護研究の基礎 (介入研究他) 講師
- ・本庄児玉看護専門学校 (3年) 看護研究の基礎 最終論文およびまとめ方 講師

【学内教育活動】

学 部：成人看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ, 成人看護学演習, 専門ゼミナールⅠ・Ⅱ, 成人看護学実習, 総合科目, ライフステージと看護, 家族看護論

博士前期課程：看護学研究法, 看護コンサルテーション論, 臨床薬理学, 看護倫理学特論, がん高度実践看護学実習Ⅰ・Ⅱ, がん高度実践看護学実習Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ, 専門分野別課題研究, 看護学領域別特別研究

博士後期課程：看護学特別研究

【学内委員会等の活動】

研究科委員会委員長, 教学委員会委員長, 大学院教育課程検討委員会委員委員長, 図書委員会副委員長, 自己点検委員, 大学院入学委員会委員

【外部資金獲得】

1) 石田和子(研究代表者)

石田順子、石岡幸恵、神田清子、石原千晶、佐藤充子、川田智美、樺澤 三奈子、坂田智佳子(2022～2026)：大腸がん患者の健康管理行動を活性化する在宅型継続支援モデルの開発と効果, 科学研究費助成事業(基盤研究B)

2) 樺澤三奈子(研究代表者)

酒井禎子・石田和子(2023～2026)：進行肺がん患者の倦怠感セルフマネジメントを支える外来型 Keep-Moving 看護支援の開発, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

3) 坂田智佳子(研究代表者)

石田和子(2022～2025)：在宅療養への移行をつなぐ終末期がん患者の地域包括型看護ケアプログラム構築, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

4) 渡邊たつよ(研究代表者)

北村千章 石田和子(2020～2023)：潰瘍性大腸炎患者のその人らしさを支える総合支援アセスメントモデルの開発とその検証, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

5) 石原千晶(研究代表者)

石岡幸恵 石田和子 相澤達也(2020～2025)：分子標的薬治療による皮膚障害に対する生活支援マネジメントモデルの開発, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

6) 川田智美(研究代表者)

佐藤充子 石田和子(2019～2023)：がん化学療法患者の社会生活を支えるコントロール感覚獲得支援モデルの開発とその評価, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

高柳 智子

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(1件)

- 1) 高柳智子(2023.9)：脳震盪により救急外来受診後に帰宅する児童生徒とその家族に対する看護実践および学校との連携上の課題, 日本脳神経看護研究学会誌, 46(1), pp81 - 86(査読有)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(なし)

5. その他の研究活動(1件)

- 1) 酒井禎子、相澤達也、坂田智佳子、樺澤三奈子、高柳智子、山岸美奈子、岡村典子、堀江正男、境原三津夫、村松卓弥、長井卓也：クリティカルケアにおける「臨床推論力」を育成する看護基礎教育プログラムの構築, 令和4年度新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

- ・日本リハビリテーション看護学会 査読委員
- ・日本リハビリテーション看護学会研修会講師
- ・新潟看護ケア学会 査読委員

【社会活動】

- ・上越地域消防事務組合情報公開・個人情報保護制度審議会委員
- ・新潟県立新井高等学校 出前講義

【学内教育活動】

学 部：ライフステージと看護, 成人看護学Ⅰ, 成人看護学Ⅱ, 成人看護学Ⅳ, 成人看護学演習, 成人看護学実習, 人間工学, 看護倫理(旧カリ), 看護倫理(新カリ), 総合実習, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ
博士前期課程：看護学研究法
博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

学生委員会委員長, 入学委員会委員長, 教学委員会委員, 大学院教育課程検討委員会委員

【外部資金獲得】

- 1) 高柳智子(研究代表者)

なし(2023~2026)：移乗時に転倒した回復期脳卒中患者の「単独での移乗継続」を判断する指標の開発, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

酒井 禎子

1. 原著論文(1 件)

- 1) 本田ひとみ, 佐久間あゆ美, 小野希里子, 石川肇, 松井弥咲, 酒井禎子, 永吉雅人(2023. 7) : 関節リウマチ患者における手洗いの実態調査, 臨床リウマチ, 35(1) , pp44 - 52(査読有)

2. その他論文(2 件)

- 1) 樺澤三奈子, 相澤達也, 山岸美奈子, 酒井禎子, 岡村典子, 坂田智佳子, 高柳智子(2024. 3) : クリティカルケア看護における臨床推論の実態に関する文献レビューー臨床推論力を高めるための看護基礎教育プログラムの構築に向けてー, 新潟看護ケア研究学会誌, 10, pp22 - 31(査読有)
- 2) 相澤達也, 坂田智佳子, 酒井禎子, 樺澤三奈子, 山岸美奈子, 岡村典子, 高柳智子(2024. 3) : クリティカルケア看護における臨床推論力を育成するための教育実践の内容・方法とその効果に関する文献研究ー国内外の看護基礎教育に焦点をあててー, 新潟看護ケア研究学会誌, 10, pp32 - 39(査読有)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(1 件)

- 1) 樺澤三奈子, 酒井禎子, 坂田智佳子(2024. 2) : がん薬物療法中の高齢がん患者の動ける力を支えるための運動介入に関する文献レビュー, 第 38 回日本がん看護学会学術集会(神戸市)

5. その他の研究活動(1 件)

- 1) 酒井禎子, 相澤達也, 坂田智佳子, 樺澤三奈子, 高柳智子, 山岸美奈子, 岡村典子, 堀江正男, 村松卓弥, 長井卓也, 境原三津夫 : クリティカルケアにおける「臨床推論力」を育成する看護基礎教育プログラムの構築, 令和 4 年度新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

- ・日本看護科学学会
- ・日本がん看護学会
- ・日本緩和医療学会 教育・研修委員会, ELNEC-J コアカリキュラム WPG 員長
- ・日本死の臨床研究会 世話人
- ・聖路加看護学会
- ・日本在宅ケア学会
- ・日本老年看護学会
- ・日本放射線看護学会
- ・日本看護シミュレーションラーニング学会
- ・新潟看護ケア研究学会

【社会活動】

- ・上越地域人生の最終段階における医療・ケア協議会委員, 実行委員会委員
- ・一般財団法人 新潟県地域医療推進機構 魚沼基幹病院 看護部特任教育コーディネーター
- ・新潟県看護協会上越地区支部 令和 5 年度記念講演会「アドバンス・ケア・プランニングを進めるためにー看護職の役割と上越地域の取り組み」講師
- ・令和 5 年度新潟県立がんセンター新潟病院 ELNEC-J コアカリキュラム看護師教育プログラム 講師・ファシリテーター
- ・第 11 回 ELNEC-J コアカリキュラム看護師教育プログラム in 上越 講師, ファシリテーター
- ・第 28 回 ELNEC-J コアカリキュラム指導者養成プログラム講師・ファシリテーター
- ・新潟県立看護大学看護研究交流センター 看護職学習支援公開講座「高齢者のエンド・オブ・ライフ・ケア」講師
- ・糸魚川市在宅医療・介護連携協議会研修会「専門職として必要な ACP の基本的な知識」講師

- ・新潟県看護協会上越地区支部「令和5年度上越地域人生会議サポーター研修」講師
- ・ELNEC-J コアカリキュラム看護師教育プログラム in KANAGAWA 2024 講師・ファシリテーター
- ・看護研究交流センター出前講座「“人生会議”を始めてみませんか？」講師

【学内教育活動】

学 部：成人看護学Ⅰ,成人看護学Ⅲ,成人看護学演習,成人看護学実習,総合実習,専門ゼミナールⅠ,専門ゼミナールⅡ,看護倫理

博士前期課程：がん高度実践看護学実習Ⅰ,がん高度実践看護学実習Ⅱ

博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

実習委員会委員長,教務委員会委員,FD委員会委員

VSPサークル顧問

【外部資金獲得】

1) 酒井禎子(研究代表者)

(2018～2023)：化学放射線療法を行う高齢がん患者の「食べて動ける力」を支える集学的ケアモデル構築,科学研究費助成事業(若手研究)

2) 本城由美(研究代表者)

西本葵,山田雅子,中山和弘,酒井禎子,小高恵実,桃井雅子,相澤達也(2018～2023),実践知を基盤とした「安楽」をもたらす包括的コンピテンシー・プログラムの開発,科学研究費助成事業(基盤研究B)

3) 酒井禎子(研究代表者)

坂田智佳子,樺澤三奈子(2021～2024)：地方都市の高齢がん患者の「食べて動ける力」を支える集学的ケアモデルの臨床評価,科学研究費助成事業(基盤研究C)

4) 樺澤三奈子(研究代表者)

酒井禎子,石田和子(2023～2026)：進行肺がん患者の倦怠感セルフマネジメントを支える外来型 Keep-Moving 看護支援の開発,科学研究費助成事業(基盤研究C)

樺澤 三奈子

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(2件)

- 1) 樺澤三奈子、相澤達也、山岸美奈子、酒井禎子、岡村典子、坂田智佳子、高柳智子(2024. 3) : クリティカルケア看護における臨床推論の実態に関する文献レビュー —臨床推論力を高めるための看護基礎教育プログラムの構築に向けて—, 新潟看護ケア研究学会誌, 10 (1), pp22 - 31(査読有)
- 2) 相澤達也、坂田智佳子、酒井禎子、樺澤三奈子、山岸美奈子、岡村典子、高柳智子(2024. 3) : クリティカルケア看護における臨床推論力を育成するための教育実践の内容・方法とその効果に関する文献研究—国内外の看護基礎教育に焦点をあてて—, 新潟看護ケア研究学会誌, 10 (1), pp32 - 39(査読有)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(3件)

- 1) 大石ふみ子、前田絵美、白鳥さつき、葉山有香、小池万里子、樺澤三奈子(2023. 12) : 化学療法を受ける乳がん患者の味覚障害 —患者の主観的感じ方と客観的測定の比較—, 第43回日本看護科学学会学術集会(山口県下関市)
- 2) 樺澤三奈子、酒井禎子、坂田智佳子(2024. 2) : がん薬物療法中の高齢がん患者の動ける力を支えるための運動介入に関する文献レビュー, 第38回日本がん看護学会学術集会(兵庫県神戸市)
- 3) 石岡幸恵、横川史穂子、酒井禎子、関谷めぐみ、樺澤三奈子、石原千晶、相澤達也、坂田智佳子、石田和子(2023. 11) : 高齢がん患者への意思決定支援における看護師の困難, 第7回新潟がん看護研究会学術集会(新潟県新潟市(オンライン))

5. その他の研究活動(1件)

- 1) 酒井禎子、相澤達也、坂田智佳子、樺澤三奈子、高柳智子、山岸美奈子、岡村典子、堀江正男、境原三津夫、村松卓弥、長井卓也 : クリティカルケアにおける「臨床推論力」を育成する看護基礎教育プログラムの構築, 令和4年度新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

- ・日本がん看護学会
- ・第38回日本がん看護学会学術集会
- ・せいおい看護学会
- ・新潟がん看護研究会
- ・日本高齢者虐待防止学会 上越退大会
- ・新潟がん看護研究会・上越がんプロジェクト共催 第15回認定看護師・専門看護師懇話会

【社会活動】

- ・公益社団法人新潟県看護協会主催 第2回専門看護師フォローアップ研修会(共催:新潟県立看護大学) 企画実行委員
- ・新潟県上越地域振興局健康福祉環境部・新潟県立看護大学看護研究交流センター共催「上越地域看護研究発表会・地域課題研究発表会」企画実行委員
- ・上越5e協議会 e-health care 部会 遠隔医療等検討メンバー
- ・日本緩和ケア学会 ELNEC-J コアカリキュラム看護師教育プログラム(新潟県立看護大学) : 講師
- ・日本緩和ケア学会 ELNEC-J コアカリキュラム看護師教育プログラム(横浜市立大学) : ファシリテーター
- ・A県内の病院における看護研究実施状況および支援体制に関する実態調査
- ・外来透析に通院する高齢患者の透析通院継続における困難と取り組み

- ・2023年度リレー・フォー・ライフ・ジャパンにいがた in 新潟県立看護大学 実行委員
- ・上越がんプロジェクト 事例検討および英論文抄読会(計6回/年)事務局
- ・上越がんプロジェクト・新潟がん看護研究会共催 第15回認定看護師・専門看護師懇話会：コーディネーター

【学内教育活動】

学 部：成人看護学Ⅰ,成人看護学Ⅲ,成人看護学演習,成人看護学実習,総合実習(成人看護学 がん看護・緩和ケア実習),専門ゼミナールⅠ,専門ゼミナールⅡ,看護研究法
 博士前期課程：がん高度実践看護学実習Ⅰ,がん高度実践看護学実習Ⅱ,がん高度実践看護学実習Ⅲ,がん高度実践看護学実習Ⅳ,がん高度実践看護学実習Ⅴ,看護倫理特論
 博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

倫理委員会委員,研究推進委員会委員,ハラスメント委員,看護研究交流センター 特別研究部門委員,看護研究交流センター 専門性の高い看護職育成部門委員,高度実践看護師教育課程(がん看護専攻)更新申請ワーキング委員,看護研究交流センター地域課題研究開発部門長
 R.P.C.CAFE ファシリテーター,優れた研究計画書の作成研修会 コーディネーター,研究コンサルテーション研修会 コーディネーター

【外部資金獲得】

- 1) 樺澤三奈子(研究代表者)
酒井禎子、石田和子(2023～2026)：進行肺がん患者の倦怠感セルフマネジメントを支える外来型 Keep-Mooving 看護支援の開発,科学研究費助成事業(基盤研究C)
- 2) 樺澤三奈子(研究代表者)
森一恵(2019～2023)：補助化学療法を受ける肺がん患者の倦怠感セルフマネジメント促進プログラムの臨床評価,科学研究費助成事業(基盤研究C)
- 3) 酒井禎子(研究代表者)
樺澤三奈子、坂田智佳子(2021～2024)：地方都市の高齢がん患者の「食べて動ける力」を支える集学的ケアモデルの臨床評価,科学研究費助成事業(基盤研究C)
- 4) 石田和子(研究代表者)
石田順子、石岡幸恵、神田清子、石原千晶、佐藤充子、川田智美、樺澤 三奈子、坂田智佳子(2022～2026)：大腸がん患者の健康管理行動を活性化する在宅型継続支援モデルの開発と効果,科学研究費助成事業(基盤研究B)

小林 綾子

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(1件)
 - 1) 小林綾子、山田礼子、武田織枝、秋山史大(2024.3) : 長期高齢透析患者の栄養状態と食事摂取量の実態, 日本腎不全看護学会, 26, pp1 - 7(査読有)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(なし)
5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

なし

【社会活動】

- ・上越市食育推進委員会 委員
- ・新潟県立中央病院 糖尿病患者の看護相談 1回/月 3時間程度 実施

【学内教育活動】

学 部：成人看護学Ⅲ, 成人看護学Ⅳ, 成人看護学演習, 成人看護学実習, 専門ゼミⅠ, 専門ゼミⅡ, 総合実習
博士前期課程：なし
博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

紀要委員会副委員長, 看護研究交流センター看護職学習支援部門員
保健指導員

【外部資金獲得】

なし

石原千晶

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(なし)
5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・日本看護研究学会
- ・日本がん看護学会
- ・日本看護学教育学会

【社会活動】

- ・乳房再建手術における前頸部皮膚障害予防への取り組みー統一された看護を実践するためにー
- ・上越がんプロジェクト：リレー・フォー・ライフ・ジャパン開催準備スタッフ

【学内教育活動】

学 部：成人看護学Ⅱ, 成人看護学Ⅳ, 成人看護学演習, 成人看護学実習, 総合実習, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ, 災害看護活動論

博士前期課程：なし

博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

FD 委員会副委員長, 災害時看護支援特別委員会委員, 衛生委員会委員, 看護研究交流センター地域課題研究開発部門員

【外部資金獲得】

- 1) 石原千晶(研究代表者)

石岡幸恵, 石田和子, 相澤達也(2020～2025)：分子標的薬治療による皮膚障害に対する生活支援マネジメントモデルの開発, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

- 2) 石田和子(研究代表者)

石田順子, 石岡幸恵, 神田清子, 石原千晶, 佐藤充子, 川田智美, 樺澤 三奈子, 坂田智佳子(2022～2026)：大腸がん患者の健康管理行動を活性化する在宅型継続支援モデルの開発と効果, 科学研究費助成事業(基盤研究B)

石岡 幸恵

1. 原著論文(3件)

- 1) 横川史穂子, 石岡幸恵, 石田和子, 西堀藍(2024.3): 外来化学療法を受ける患者の救急外来受診の愁訴と看護支援, 長野市民病院医学雑誌, 8, pp15 - 24(査読有)
- 2) 横川史穂子, 石岡幸恵, 石田和子, 塩ノ谷美津子(2024.3): 外来化学療法センターで治療を受ける患者への全人的な看護実践における看護師の認識と行動, 長野市民病院医学雑誌, 8, pp33 - 38(査読有)
- 3) 横川史穂子, 石岡幸恵, 藤本登志子, 吉越美穂, 石田和子(2024.3): 悪い知らせを伝えるインフォームド・コンセントに同席する看護師の患者・家族への意思決定支援, 長野市民病院医学雑誌, 8, pp25 - 32(査読有)

2. その他論文(1件)

- 1) 石岡幸恵, 横川史穂子, 石田和子(2024.2): 治療中の若年層乳がん患者が折り合いをつけながら生活を送るプロセス, THE KITAKANTO MEDICAL JOURNAL, 74 (1), pp79 - 89(査読有)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(2件)

- 1) 石岡幸恵, 吉越美穂, 横川史穂子(2023.11): 終末期まで治療継続を望む患者家族への意思決定支援の検討, 第19回長野県緩和医療研究会(長野)
- 2) 石岡幸恵, 横川史穂子, 酒井禎子, 関谷めぐみ, 樺澤三奈子, 石原千晶, 坂田智佳子, 石田和子(2023.11): 高齢がん患者への意思決定支援における看護師の困難, 第7回新潟がん看護研究会学術集会(新潟)

5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・日本がん看護学会 代議員

【社会活動】

- ・第11回 ELNEC-J コアカリキュラム看護師教育プログラム in 上越 実施責任者、講師
- ・在宅酸素療法を受ける患者の医療機器関連圧迫創(MDRPU)に対する認識と対処の実際

【学内教育活動】

学 部: 成人看護学Ⅲ, 成人看護学Ⅳ, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ, 看護倫理, 成人看護学演習, 成人看護学実習, 総合実習

博士前期課程: がん高度実践看護実習ⅠⅡⅢⅣⅤ

博士後期課程: なし

【学内委員会等の活動】

国試・就職委員会委員

学年担任, ダンスサークルサークル顧問

【外部資金獲得】

- 1) 石田和子(研究代表者)

石田順子, 石岡幸恵, 神田清子, 石原千晶, 佐藤充子, 川田智美, 樺澤三奈子, 坂田智佳子(2022~2025): 大腸がん患者の健康管理行動を活性化する在宅型継続支援モデルの開発と効果, 科学研究費助成事業(基盤研究B)

2) 石原千晶(研究代表者)

石岡幸恵、石田和子、相澤達也(2020～2025)：分子標的薬治療による皮膚障害に対する生活支援マネジメントモデルの開発, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

相澤 達也

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(2件)

- 1) 相澤達也, 坂田智佳子, 酒井禎子, 樺澤三奈子, 山岸美奈子, 岡村典子, 高柳智子(2024. 3) : クリティカルケア看護における臨床推論力を育成するための教育実践の内容・方法とその効果に関する文献研究—国内外の看護基礎教育に焦点をあてて—, 新潟看護ケア研究学会誌, 10 (1) , pp32 - 39(査読有)
- 2) 樺澤三奈子, 相澤達也, 山岸美奈子, 酒井禎子, 岡村典子, 坂田智佳子, 高柳智子(2024. 3) : クリティカルケア看護における臨床推論の実態に関する文献レビュー—臨床推論力を高めるための看護基礎教育プログラムの構築に向けて—, 新潟看護ケア研究学会誌, 10 (1) , pp22 - 31(査読有)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(1件)

- 1) 石岡幸恵, 横川史穂子, 酒井禎子, 関谷めぐみ, 樺澤三奈子, 石原千晶, 相澤達也, 坂田智佳子, 石田和子(2023. 11), 高齢がん患者への意思決定支援における看護師の困難, 第7回新潟がん看護研究学術集会(新潟市)

5. その他の研究活動(1件)

- 1) 酒井禎子, 相澤達也, 坂田智佳子, 樺澤三奈子, 高柳智子, 山岸美奈子, 岡村典子, 堀江正男, 村松卓弥, 長井卓也, 境原三津夫, クリティカルケアにおける「臨床推論力」を育成する看護基礎教育プログラムの構築, 令和4年度新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

- ・第19回日本高齢者虐待防止学会上越大会

【社会活動】

- ・上越圏域看護部長会主催「高齢者の特徴を捉えたフィジカルアセスメント研修会」ファシリテーター
- ・A病院救急病棟看護師の臨床看護実践の状況における携帯用擦式アルコール消毒薬による手指衛生の認識

【学内教育活動】

学 部 : 成人看護学IV, 成人看護学演習, 成人看護学実習, 総合実習 (成人看護学) , 専門ゼミナールI, 専門ゼミナール

博士前期課程 : なし

博士後期課程 : なし

【学内委員会等の活動】

実習委員会委員, 入試・広報委員会委員, 看護研究交流センター地域社会貢献部門員
屋外球技サークルサークル顧問

【外部資金獲得】

1) 石原千晶(研究代表者)

石岡幸恵, 石田和子, 相澤達也(2020~2025) : 分子標的薬治療による皮膚障害に対する生活支援マネジメントモデルの開発, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

2) 本城由美(佐居由美)(研究代表者)

西本葵, 山田雅子, 中山和弘, 酒井禎子, 小高恵実, 桃井雅子, 相澤達也(2018~2023) : 実践知を基盤とした「安楽」をもたらす包括的コンピテンシー・プログラムの開発, 科学研究費助成事業(基盤研究B)

坂田 智佳子

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(2件)

- 1) 樺澤三奈子、相澤達也、山岸美奈子、酒井禎子、岡村典子、坂田智佳子、高柳智子(2024. 3) : クリティカルケア看護における臨床推論の実態「に関する文献レビュー —臨床推論力を高めるための看護基礎教育プログラムの構築に向けて—, 新潟看護ケア研究学会誌, 10 巻, pp22 - 31(査読有)
- 2) 相澤達也、坂田智佳子、酒井禎子、樺澤三奈子、山岸美奈子、岡村典子、高柳智子(2024. 3) : クリティカルケア看護における臨床推論力を育成するための教育実践の内容・方法とその効果に関する文献研究—国内外の看護基礎教育に焦点をあてて—, 新潟看護ケア研究学会誌, 10 巻, pp32 - 39(査読有)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(2件)

- 1) 石岡幸恵、横川史穂子、酒井禎子、関谷めぐみ、樺澤三奈子、石原千晶、相澤達也、坂田智佳子、石田和子(2023. 11) : 高齢がん患者への意思決定支援における看護師の困難, 第7回新潟がん看護研究会学術集会(新潟)
- 2) 樺澤三奈子、酒井禎子、坂田智佳子(2024. 2) : がん薬物療法中の高齢がん患者の動ける力を支えるための運動介入に関する文献レビュー, 第38回日本がん看護学会学術集会(神戸)

5. その他の研究活動(1件)

- 1) 酒井禎子、相澤達也、坂田智佳子、樺澤三奈子、高柳智子、山岸美奈子、岡村典子、堀江正男、村松卓弥、長井卓也、境原三津男 : クリティカルケアにおける「臨床推論力」を育成する看護基礎教育プログラムの構築, 令和4年度新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

- ・日本がん看護学学会 会員
- ・日本看護科学学会 会員
- ・日本看護シミュレーションラーニング学会 会員
- ・日本緩和医療学会 会員
- ・新潟がん看護研究会 会員
- ・新潟看護ケア研究会 会員
- ・第19回日本高齢者虐待防止学会/当日協力者

【社会活動】

- ・第11回ELNEC-J 運営

【学内教育活動】

学 部 : 成人看護学Ⅲ, 成人看護学演習, 成人看護学実習, 総合実習, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ
博士前期課程 : がん高度実践看護学実習ⅠⅡⅢⅣⅤ
博士後期課程 : なし

【学内委員会等の活動】

学生委員会委員
学年担任

【外部資金獲得】

- 1) 坂田智佳子(研究代表者)
石田和子(2022～2025)：在宅療養への移行をつなぐ終末期がん患者の地域包括型看護ケアプログラム構築, 科学研究費助成事業(基盤研究C)
- 2) 酒井禎子(研究代表者)
坂田智佳子、樺澤三奈子(2021～2024)：地方都市の高齢がん患者の「食べて動ける力」を支える集学的ケアモデルの臨床評価, 科学研究費助成事業(基盤研究C)
- 3) 石田和子(研究代表者)
石田順子、石岡幸恵、神田清子、石原千晶、佐藤充子、川田智美、樺澤三奈子、坂田智佳子(2022～2025), 大腸がん患者の健康管理行動を活性化する在宅型継続支援モデルの開発と効果, 科学研究費助成事業(基盤研究B)

佐藤咲子

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(なし)
5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

なし

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

学 部：成人看護学演習, 成人看護学実習, 総合実習, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ

博士前期課程：なし

博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

看護研究交流センター地域社会貢献部門員

【外部資金獲得】

なし

大久保 明子

1. 原著論文(1 件)

- 1) 原美穂, 大久保明子(2023. 12) : 小児がん患児のきょうだいへの情報提供における看護師のかかわりのプロセス, 日本小児看護学会誌, 32, pp159 - 167(査読有)

2. その他論文(1 件)

- 1) 大久保明子, 伊藤ひかる(2024. 3)
子育てにおける乳幼児への電子メディア使用に対する親の認識に関する文献レビュー, 新潟県立看護大学紀要, 13, pp16 - 21(査読有)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(なし)

5. その他の研究活動(1 件)

- 1) 山田恵子, 関陸美, 上田恵, 大久保明子 : 救急外来で突然に子どもの死を宣告された親のグリーフ, 令和3年度新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

- ・日本仏教看護・ビハーラ学会 理事・編集委員
- ・日本看護科学学会 会員
- ・日本小児看護学会 会員
- ・日本小児がん看護学会 会員
- ・日本家族看護学会 会員
- ・日本がん看護学会 会員
- ・日本小児保健協会 会員
- ・日本臨床死生学会 会員
- ・日本死の臨床研究会 会員
- ・新潟小児看護研究会 役員
- ・日本仏教看護・ビハーラ学会 第19回年次大会
- ・第24回新潟小児看護研究会

【社会活動】

- ・新潟県立上越特別支援学校 学校評議員
- ・上越市自立支援協議会 会長
- ・上越市子ども・子育て会議 副会長
- ・謙信公アカデミー評議会 評議員
- ・日本看護系大学協議会 会員校代表
- ・高等教育コンソーシアムにいがた 常任委員
- ・上越ファミリーサポートセンター 提供会員養成講座講師 第1回「身体の発育と病気」
- ・上越ファミリーサポートセンター 提供会員養成講座講師 第2回「身体の発育と病気」
- ・上越ファミリーサポートセンター 提供会員養成講座講師 第3回「身体の発育と病気」
- ・上越ファミリーサポートセンター 提供会員養成講座講師 第4回「身体の発育と病気」

【学内教育活動】

学 部 : ライフステージと看護, 小児看護学Ⅰ, 小児看護学Ⅱ, 小児看護学演習, 小児看護学実習, 家族看護論, 看護倫理, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ, 総合実習

博士前期課程：看護研究法

博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

自己点検・評価特別委員会委員長, ハラスメント防止特別委員会委員長, 教務委員会副委員長, 外部評価特別委員会委員, 情報ネットワーク特別委員会委員, 教学委員会委員
新潟県立看護大学 実習指導者研修会 講師

【外部資金獲得】

1) 稲垣応顕(研究代表者)

アントン・セビア, 坂井祐円, 大久保明子(2020~2023) : 「いのち教育」の理論とその実践方法に関する臨床教育学的考察, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

山田 恵子

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(2件)
 - 1) 山田恵子(2023. 8) : 予期せぬ傷害で子どもを亡くした親のライフストーリー, 第9回ライフストーリー研究会(山梨)
 - 2) 山田恵子(2023. 11) : 医療過疎地域における保育所保育士の小児一次救命処置技術に関する実態調査, 第25回日本救急看護学会(長崎)
5. その他の研究活動(1件)
 - 1) 山田恵子、関睦美、上田恵、大久保明子 : 救急外来で突然に子どもの死を宣告された親のグリーフ, 令和3年度新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

- ・日本救急看護学会 評議委員および査読委員
- ・日本救急看護学会学術集会 査読委員
- ・第25回日本救急看護学会

【社会活動】

- ・子どもグリーフサポート 代表理事
- ・乳幼児の体調不良時のホームケア 下門前保育園 (6/22)
- ・乳幼児の体調不良時のホームケア 上越市教育委員会 直江津地区公民館 (6/23)
- ・いざという時の日用品を使った応急手当 社会福祉協議会板倉支所 (7/11)
- ・いざという時の日用品を使った応急手当 御殿山若葉会 (8/8)
- ・乳幼児の体調不良時のホームケア 真行寺幼稚園 (10/4)
- ・乳幼児の体調不良時のホームケア 上越市八千浦地区公民館 (10/13)
- ・いざという時の日用品を使った応急手当 誰でも集えるじくの家 (10/30)
- ・いざという時の必需品を使った応急手当 城北「北進会」 (11/5)
- ・乳幼児の怪我の対応 上越市立高田幼稚園 PTA (11/20)
- ・乳幼児の怪我の対応 真行寺幼稚園 (1/31)
- ・乳幼児の体調不良時のホームケア NPO 法人すいみい (2/5)
- ・A 県内の病院における看護研究への取り組みに関する調査
- ・脳死下臓器提供の5つの段階における家族の反応と看護

【学内教育活動】

学 部 : 小児看護学Ⅰ, 小児看護学Ⅱ, 小児看護学演習, 小児看護学実習, 総合実習, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ
博士前期課程 : なし
博士後期課程 : なし

【学内委員会等の活動】

学生委員会委員, 図書委員会委員, 看護研究交流センター地域社会貢献部門長
学年担任

【外部資金獲得】

- 1) 山田恵子(研究代表者)
住吉智子、佐藤由紀子、高橋絹代(2022～2025)：臨床判断モデルを応用した保育士向け PBL 自主学习教材の開発, 科学研究費助成事業(基盤研究 C)
- 2) 関睦美(研究代表者)
表志津子、岡本理恵、山田恵子、野口裕子(2022～2026)：医療的ケア児の通常学校就学を可能にする学校看護師就労促進モデルの構築, 科学研究費助成事業(基盤研究 C)

伊藤ひかる

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(1件)

- 1) 大久保明子, 伊藤ひかる(2024.3): 子育てにおける乳幼児への電子メディア使用に対する親の認識に関する文献レビュー, 新潟県立看護大学紀要, 13, pp16 - 21(査読有)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(なし)

5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・日本看護科学学会
- ・日本小児看護学会
- ・看護実践学会

【社会活動】

- ・おふらいんキャンプ (ボランティアスタッフ)

【学内教育活動】

学 部：小児看護学Ⅱ, 小児看護学演習, 小児看護学実習, 総合実習, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ

博士前期課程：なし

博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

実習委員会委員

保健指導員, 100 徒歩サークル, いちよう食堂スタッフサークルサークル顧問

【外部資金獲得】

なし

小林 宏至

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(1件)
 - 1) 小林宏至, 田中美央(2023. 12) : 新潟県医療的ケア児の養育者における災害への備えの実態調査, 日本災害看護学会誌, 25(2), pp66 - 76(査読有)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(なし)
5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・日本新生児看護学会
- ・日本小児看護学会
- ・日本災害看護学会
- ・新潟小児看護研究会 会員
- ・新潟看護ケア研究会 会員

【社会活動】

- ・新潟県看護協会上越地区支部看護師職能委員
- ・「いのち教育」研究会(科学研究費 基盤研究C 研究代表者: 稲垣応顕) 第15回定例会講師
- ・令和5年度医療的ケア児と家族の地域防災シミュレーション主催メンバー
- ・医療的ケアが必要な方の災害時の備えを考えるシンポジウム主催メンバー

【学内教育活動】

学 部 : 小児看護学Ⅱ, 小児看護学演習, 小児看護学実習, 総合実習, 専門ゼミナールⅠ

博士前期課程 : なし

博士後期課程 : なし

【学内委員会等の活動】

看護研究交流センター地域社会貢献部門員

研究推進委員会「優れた研究計画書の作成過程」研修会講師

【外部資金獲得】

- 1) 小林宏至(研究代表者)
田中美央(2023~2026) : 複合災害禍における障害児とその養育者のための「防災ピアプログラム」の開発と評価, 科学研究費助成事業(基盤研究C)
- 2) 田中美央(研究代表者)
小林宏至, 遠山潤, 金子孝之, 住吉智子, 佐藤由紀子, 和田雅樹, 渡邊流理也, 斎藤智子(2021~2024)
: 新潟市における医療的ケア児の災害支援基盤強化の検討, その他(新潟市医師会地域医療研究助成)

常盤 洋子

1. 原著論文(2件)

- 1) 及川裕子、日比野直子、滝沢隆、常盤洋子(責任著者)(2023.10): 東日本大震災被災地に住む女性の被災体験 被災後7年後の語りから, 日本健康医学会雑誌, 32巻3号, pp368-377(査読有)
- 2) 八巻ちひろ・常盤洋子(責任著者)(2023.4): 看護職の月経随伴症状に対する保健行動への影響要因 月経随伴症状に対する保健行動因果モデルの検討, 母性衛生, 64巻1号, pp21-28(査読有)

2. その他論文(2件)

- 1) 堀越摂子・常盤洋子(責任著者)(2023.5): 【超少子化日本の家族形成とメンタルヘルス】乳児を持つ母親の育児に伴うストレスマネジメント, 精神科, 42巻5号, pp617-624(査読無)
- 2) 常盤洋子(2023.12): 【こころの声を聴く!支援に生かす!妊産婦・家族のためのバースプラン&バースレビュー 全国15施設からのレポート】総論 バースプラン・バースレビューの活用 母親・家族へのアプローチ, ペリネイタルケア, 42巻12号, pp1204-1211(査読無)

3. 著書(1件)

- 1) 江藤宏美(編)、常盤洋子・他(2024.2): 助産師基礎教育テキスト 2024年版 第6巻 産褥期のケア/新生児期・乳幼児期のケア 産褥期の適応とアセスメント, 日本看護協会出版会(東京)

4. 学会発表(4件)

- 1) 八巻ちひろ・西川美樹・常盤洋子(責任著者)(2023.5): 月経随伴症状に対するセルフケアと月経教育に関する文献レビュー—月経教育のあり方を考察—, 第25回母性看護学会学術集会(東京)
- 2) 西川美樹・八巻ちひろ・常盤洋子(2023.5): 地域で支える安全な分娩支援体制構築に向けた救急隊員への周産期救急教育に関する文献検討, 第25回母性看護学会学術集会(東京)
- 3) 五十畑麻奈美・境原三津夫・常盤洋子(2023.9): 分娩介助が助産師の気分状態に及ぼす影響, 第64回日本母性衛生学会学術集会(大阪)
- 4) M. Nishikawa, C. Yamaki, Y. Tokiwa(2024.3): A Study on the Learning Needs of Japanese Paramedics to Handle Out-of-hospital Deliveries, EAFONS 2024(HONG KONG)

5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・日本助産学会 代議員
- ・日本母性看護学会
- ・日本周産期メンタルヘルス学会
- ・群馬県看護学会
- ・第37回日本助産学会 東京大会 座長
- ・第23回群馬県看護学会 前橋大会

【社会活動】

- ・日本看護協会 代議員
- ・群馬県助産師活用推進協議会委員
- ・群馬県看護協会副会長
- ・日本母性看護学会 APN 将来構想プロジェクト委員会委員
- ・令和5年度沖縄県助産師職能企画研修 講師
- ・令和5年度新潟県助産師職能「助産師情報交換会」 講師
- ・令和5年度妊産婦メンタルヘルス対策研修会(越地域振興局健康福祉環境部主催) 講師
- ・令和5年度群馬県新人助産師研修会 講師

- ・令和5年度広島産婦人科超音波研究会 講師
- ・宮崎県立看護大学 非常勤講師（助産学研究Ⅱ）

【学内教育活動】

学 部：母性看護学Ⅰ, ライフステージと看護, 看護倫理：生殖にまつわる看護倫理, 家族看護論：周産期にある女性を取り巻く家族への看護, ウィメンズヘルス, 助産学概論, 助産管理学

博士前期課程：母性看護学援助論Ⅱ, 母性看護学特別演習, 看護学研究法

博士後期課程：看護学特別研究

【学内委員会等の活動】

倫理委員会委員長, 教学委員会副委員長, 教務委員会委員, 研究科委員会委員, 入学委員会委員

上越教育大学と新潟県立看護大学連携公開講座 講師

【外部資金獲得】

1) 國清恭子(研究代表者)

常盤洋子、深澤友子、齋藤明香、新井陽子(2022～2026)：出産体験の振り返りアセスメントツールを用いた看護介入モデルの考案, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

2) 荒井洋子(研究代表者)

常盤洋子、北原慈一(2021～2024)：不妊治療終結期にある女性へ「意味づけ」を支援する看護相談モデルの開発, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

3) 西川美樹(研究代表者)

八巻ちひろ・常盤洋子(2023～2023)：地域で支える安全な分娩支援体制構築に向けた救急隊員への周産期救急教育プログラム開発のための基礎研究, その他(2023年度笹川保健財団研究助成)

西川 美樹

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(6件)
 - 1) 西川美樹, 八巻ちひろ, 常盤洋子(2023.5): 地域で支える安全な分娩支援体制構築に向けた救急隊員への周産期救急教育に関する文献検討, 第25回日本母性看護学会学術集会(東京)
 - 2) 齋藤いずみ, 寺岡歩, 西川美樹, 大滝千文(2023.5): 総合周産期母子医療センターと産科混合病棟とにおける助産師のベッドコントロールに対する意識の比較, 第25回日本母性看護学会学術集会(東京)
 - 3) 大滝千文, 齋藤いずみ, 藤本佳奈, 和泉慎太郎, 三輪洋靖, 西川美樹, 井上京子, 寺岡歩(2023.6): マンツーマンタイムスタディを用いた大学病院外科病棟の日勤帯看護師の看護の可視化—超過勤務時間に焦点を当てて—, 第11回看護理工学会学術集会(兵庫県)
 - 4) 齋藤いずみ, 大滝千文, 寺岡歩, 西川美樹, 井上京子, 藤本佳奈, 和泉慎太郎, 三輪洋靖, 松野孝博, 平井慎一(2023.6): 「産科混合病棟・総合周産期母子医療センターの産科」の看護の可視化 位置・時間・看護行為情報から, 第11回看護理工学会学術集会(兵庫県)
 - 5) Miki Nishikawa, Chihiro Yamaki, Yoko Tokiwa(2024.3): A Study on the Learning Needs of Japanese Paramedics to Handle Out-of-hospital Deliveries, 27th East Asian Forum of Nursing Scholars(香港)
 - 6) Chifumi Otaki, Izumi Saito, Kyoko Inoue, Kana Fujimoto, Miki Nishikawa, Ayumi Teraoka, Shintaro Izumi(2024.3): Working Time Analysis of Day Shift Nurses in Internal Medicine Wards of University Hospitals Using Indoor Positioning System in Japan, 27th East Asian Forum of Nursing Scholars(香港)
5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・看護理工学会
- ・日本助産学会
- ・日本看護科学学会
- ・日本看護研究学会
- ・日本母性衛生学会
- ・日本医学看護学教育学会
- ・日本母性看護学会
- ・新潟母性看護学・助産学・遺伝看護学研究会 役員
- ・第11回看護理工学会学術集会 実行委員
- ・第1回新潟県母性看護学・助産学・遺伝看護学研究会

【社会活動】

- ・上越市男女共同参画審議会委員(第一号委員)
- ・第4回いきいきサロン講師 「華麗なる加齢を目指そう!女性だけでなく男性にも起こる更年期障害について」
- ・佐渡高校出前授業「命の大切さ—命と向き合う仕事 看護師・助産師—」

【学内教育活動】

学 部：妊娠期助産診断・技術学, 分娩期助産診断・技術学, 産褥・新生児期助産診断・技術学, 助産技術学
演習, 母性看護学演習, 母性看護学実習, 助産学実習

博士前期課程：なし

博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

入試・広報委員会委員, 実習委員会委員, 看護研究交流センター地域社会貢献部門員

【外部資金獲得】

1) 西川美樹(研究代表者)

(2023～2026)：ICT を活用した総合周産期母子医療センターの看護の可視化と助産師人員配置の検討, 科学研究費助成事業 (若手研究)

2) 西川美樹(研究代表者)

八巻ちひろ、常盤洋子(2023～2023)：地域で支える安全な分娩支援体制構築に向けた救急隊員への周産期救急教育プログラム開発のための基礎研究, その他 (笹川保健財団)

八巻 ちひろ

1. 原著論文(2件)

- 1) 八巻ちひろ, 常盤洋子(2023. 4) : 看護職の月経随伴症状に対する保健行動への影響要因—月経随伴症状に対する保健行動因果モデルの検討—, 母性衛生, 64(1), pp21 - 28(査読有)
- 2) Chihiro Yamaki, Miwa Sasaki(2023. 4) : Literature reviews on coping behavior of women with menopausal symptoms and menopausal disorders, journal of Rural Medicine, 18(2), pp126 - 132(査読有)

2. その他論文(1件)

- 1) 八巻ちひろ, 常盤洋子, 西川美樹(2024. 3) : 月経随伴症状に対するセルフケアと月経教育に関する文献レビュー—月経教育における課題の検討—, 日本母性看護学会誌, 24(2), pp49 - 55(査読有)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(3件)

- 1) 八巻ちひろ, 西川美樹, 常盤洋子(2023. 5) : 月経随伴症状に対するセルフケアと月経教育に関する文献レビュー—月経教育のあり方を考察—, 第25回日本母性看護学会学術集会(東京)
- 2) 西川美樹, 八巻ちひろ, 常盤洋子(2023. 5) : 地域で支える安全な分娩支援体制構築に向けた救急隊員への周産期救急教育に関する文献検討, 第25回日本母性看護学会学術集会(東京)
- 3) 西川美樹, 八巻ちひろ, 常盤洋子(2024. 3) : A Study on the Learning Needs of Japanese Paramedics to Handle Out-of-hospital Deliveries, 東アジア看護学研究者フォーラム(East Asian Forum of Nursing Scholars ; EAFONS2024) (香港)

5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

なし

【社会活動】

- ・群馬県消防学校分娩介助指導員(2023年12月)

【学内教育活動】

学 部 : 母性看護学Ⅱ, 母性看護学演習, 母性看護学実習, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ, 総合実習, 妊娠期助産診断・技術学, 分娩期助産診断・技術学, 産褥期・新生児期助産診断・技術学, 助産技術学演習, 助産管理学, 助産学実習Ⅰ, 助産学実習Ⅱ, 助産学実習Ⅲ, 助産学実習Ⅳ, 助産学実習Ⅴ

博士前期課程 : なし

博士後期課程 : なし

【学内委員会等の活動】

国家試験対策・就職委員会委員, 看護研究交流センター地域社会貢献部門員

【外部資金獲得】

なし

上田恵

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(1件)
 - 1) 上田 恵, 中島 通子(2023.9) : レズビアンが精子提供により, 子どもをもつことを意思決定するプロセスに影響を与える 要因, 第21回日本生殖看護学会学術集会(福井県福井市)
5. その他の研究活動(1件)
 - 1) 山田恵子, 関睦美, 上田恵, 大久保明子 : 2021年度新潟県立看護大学学内共同研究助成, 救急外来で突然に子どもの死を宣告された親のグリーフ

【学会等における活動】

なし

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

学 部 : 母性看護学演習, 総合実習, ジェンダーとセクシャリティ, 助産学実習, 母性看護学実習, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ

博士前期課程 : なし

博士後期課程 : なし

【学内委員会等の活動】

ハラスメント相談員, 看護研究交流センター看護職学習支援部門員
学年担任

【外部資金獲得】

- 1) 中島 通子(研究代表者)
上田 恵(2021~2023) : 助産学実習における助産師と教員の「医療事故回避教育プログラム」の開発と検証, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

伊藤 美由紀

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(なし)
5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・新潟母性看護学・助産学・遺伝看護研究会 委員
- ・新潟母性看護学・助産学・遺伝看護研究会

【社会活動】

- ・NICU 入院児の母親が抱く授乳や搾乳の不快感の現状と課題

【学内教育活動】

学 部：妊娠期助産診断・技術学, 分娩期助産診断・技術学, 産褥・新生児期助産診断・技術学, 助産技術学
演習, 助産学実習, 助産管理学, 助産学概論, 地域母子保健, ウイメンズヘルス, 母性看護学Ⅱ, 母性看護学演習, 母性看護学実習, 専門ゼミⅠ, 専門ゼミⅡ, 総合実習

博士前期課程：なし

博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

入試広報委員会委員, 看護研究交流センター地域社会貢献部門員

【外部資金獲得】

なし

五十畑 麻奈美

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(1件)
 - 1) 五十畑麻奈美, 境原三津夫, 常盤洋子(2023.10): 分娩介助が助産師の気分状態に及ぼす影響, 第64回日本母性衛生学会学術集会(大阪)
5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

なし

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

学 部：母性看護学演習, 母性看護学実習, 総合実習, 助産学演習, 助産学実習, 専門ゼミナール

博士前期課程：なし

博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

看護研究交流センター地域課題研究開発部門員

【外部資金獲得】

なし

黒崎 美月

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(なし)
5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

なし

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

学 部：母性看護学実習

博士前期課程：なし

博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

なし

【外部資金獲得】

なし

小長谷 百絵

1. 原著論文(4件)

- 1) 原等子, 小長谷百絵(2024. 3) : 要支援, 軽度認知症状態の人のセルフ・ネグレクト予防の支援ニーズ—介護家族への調査から—, 高齢者虐待防止研究, 20(1), pp103 - 110(査読有)
- 2) 岡田由美, 小長谷百絵, 原等子(2024. 3) : 介護老人保健施設での看取りにおける見守る行為の意味—事例からの考察—, 高齢者虐待防止研究, 20, pp96 - 102(査読有)
- 3) 野尻由香, 望月由紀子, 下園美保子, 吉岡幸子, 浜崎優子, 小長谷百絵, 坂本美佐子, 岸恵美子(2024. 3) : 不衛生な環境で生活するセルフ・ネグレクト状態の高齢者への有効な介入・支援方法の検討—A自治体の支援から—, 高齢者虐待防止研究, 20, pp35 - 40(査読有)
- 4) 岸恵美子, 下園美保子, 望月由紀子, 坂本美佐子, 野尻由香, 吉岡幸子, 浜崎優子, 小長谷百絵, 野村祥平(2024. 3) : 不衛生な環境で生活するセルフ・ネグレクトの人への支援の実態—条例を設定して対応してる A自治体の事例の分析より, 高齢者虐待防止研究, 20, pp63 - 76(査読有)

2. その他論文(3件)

- 1) 小長谷百絵 (2023. 12) : 【慢性看護学における事例研究法の進展】論文を作成する 事例研究論文作成の上で考えておくべき倫理的課題, 看護研究, 56(6), pp528 - 531(査読無)
- 2) 森田夏実 小長谷百絵(2023. 12) : 【慢性看護学における事例研究法の進展】論文を作成する 事例研究を用いて看護師をどう育成するか, 看護研究, 56(6), pp524 - 527(査読無)
- 3) 小長谷百絵(2024. 3) : 第19回日本高齢者虐待防止学会上越大会大会長講演, 高齢者虐待防止研究, 20, pp35 - 40(査読無)

3. 著書(1件)

- 1) 小長谷百絵(2024. 2) : 最新老年看護学 第4版 2024年版 第3章B・C, 日本看護協会出版(東京)

4. 学会発表(1件)

- 1) 岡田由美 小長谷百絵 原等子(2023. 9) : 介護老人保健施設における看取り期の見守る行為の事例検討, 日本高齢者虐待防止学会(上越市)

5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・一般社団法人日本高齢者虐待防止学会 理事
- ・一般社団法人日本難病看護学会 理事
- ・一般社団法人日本老年看護学会 代議員
- ・一般社団法人慢性看護学会 評議員
- ・一般社団法人日本高齢者虐待防止学会/大会長

【社会活動】

- ・NPO 法人 ALS/MND サポートセンターさくら会理事

【学内教育活動】

学 部 : 老年看護学Ⅰ, 老年看護学Ⅱ, 老年看護学演習, 老年看護学実習, 専門ゼミナールⅠ, 看護倫理, 専門ゼミナールⅡ

博士前期課程 : 専門分野別課題研究, 看護学領域特別研究

博士後期課程 : 看護学特別研究

【学内委員会等の活動】

教務委員会委員, 紀要委員会委員長, 教学委員会委員

【外部資金獲得】

なし

原 等子

1. 原著論文(3 件)

- 1) 原等子, 小長谷百絵(2024. 3) : 要支援, 軽度認知症状態の人のセルフ・ネグレクト予防の支援ニーズー介護家族への調査からー, 高齢者虐待防止研究, 20(1), pp103 - 110(査読有)
- 2) 青山拓夢, 原等子(2024. 3) : 新型コロナウイルス感染症に伴う活動制限による高齢者と家族の体験内容ーA 県の介護老人保健施設における面接調査よりー, 高齢者虐待防止研究, 20(1), pp48 - 60(査読有)
- 3) 岡田由美, 小長谷百絵, 原等子(2024. 3) : 介護老人保健施設での看取りにおける見守る行為の意味ー事例からの考察ー, 高齢者虐待防止研究, 20(1), pp96 - 102(査読有)

2. その他論文(3 件)

- 1) 原等子 (老健事業委員長 武地一) (2024. 3) : 認知症診断直後からの本人やその家族へのピアサポート活動実態調査 (調査①), 認知症診断直後からの本人やその家族へのピアサポート活動実態調査事業報告書, 令和 5 年度老人保健事業推進費等補助金 老人保健健康増進等事業, -, pp2 - 39(査読無)
- 2) 清水博美, 原等子(2023. 4) : 多職種協働で立ち上げた認知症ケア委員会の取り組み, 令和 4 年度看護研究交流センター活動報告書, 4, pp42 - 43(査読無)
- 3) 関真和, 山崎优美里, 原等子(2023. 11) : 身体抑制の低減に向けた実践ー看護師の年代別インタビューによる課題分析を踏まえた介入をとおしてー, 長岡赤十字病院院内看護研究発表会論文集, pp1 - 5(査読無)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(7 件)

- 1) 原等子, 尾之内直美, 江口恭子, 渋谷美和, 猪股祥子, 鎌田晴之, 鎌田松代, 武地一(2023. 6) : 認知症介護家族・経験者が考える「介護家族支援」とは(その 2)ー「認知症の人と家族の会」会員意見交換会にもとづく検討からー, 第 24 回日本認知症ケア学会大会(京都)
- 2) 尾之内直美, 原等子, 江口恭子, 渋谷美和, 猪俣祥子, 鎌田晴之, 鎌田松代, 武地一(2023. 6) : 認知症介護家族・経験者が考える「介護家族支援」とは(その 1)ー「認知症の人と家族の会」会員意見交換会にもとづく検討からー, 第 24 回日本認知症ケア学会大会(京都)
- 3) 原等子, 猪股祥子(2023. 12) : 中等度・重度認知症の人の介護家族の在宅介護継続への思いー介護家族アンケート調査から, 第 43 回日本看護科学学会学術集会(山口 (下関))
- 4) 東條紀子 1), 原等子 1)2), 江口恭子 2)3), 渋谷美和 2)4), 猪股祥子 2)5), 尾之内直美 2)6), 鎌田松代 2), 武地一 2)7) (2023. 11) : 中等度・重度認知症の人の在宅生活継続における医療とその選択に関する介護家族の困りごとと対処, 第 28 回日本在宅ケア学会学術集会(大阪)
- 5) 高橋麻衣子, 原等子(2023. 12) : 高齢患者の意思を尊重した日常生活上の看護援助方法ー自立度の低い A 氏への援助場面再構成からー, 第 43 回日本看護科学学会学術集会(山口 (下関))
- 6) 原等子(2023. 9) : 座談会「在宅継続支援」ー認知症の人と家族が安心して豊かに生きるためにー(座長, 演者), 第 19 回日本高齢者虐待防止学会上越大会(新潟 (上越))
- 7) 上原喜美子, 帆苅真由美, 原 等子, 中村圭子(2023. 9) : 中山間地の在宅糖尿病高齢者の支援を行う上で障害となる事柄, 第 18 回日本ルーラルナース学会学術集会(新潟 (津南))

5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・ Journal of Alzheimer's Disease
- ・ 日本老年看護学会会員, 査読委員
- ・ 日本認知症ケア学会会員, 査読委員
- ・ 日本老年社会科学学会会員, 査読委員

- ・日本認知症ケア専門士出題委員
- ・日本看護協会会員，日本看護学会査読委員
- ・POTT プロジェクト副理事長，北陸ブロック長
- ・日本看護科学学会会員
- ・新潟口腔ケア研究会世話人
- ・第12回POTT プロジェクト POTT オンライン学習会（2023/4/23）
- ・第19回日本高齢者虐待防止学会上越大会，新潟県立看護大学（2023/9/16）
- ・認知症関係当事者・支援者連絡会議，認知症で日本をつなぐシンポジウム2023「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」で認知症とともに歩むまちづくりを（オンライン）（2023/11/5）
- ・日本認知症ケア学会北陸・甲信越ブロック大会，上越文化会館（2024/9/28 予定）
- ・2024年度POTT北陸甲信越ブロック指導者研修会，新潟県立看護大学（2024/2/18）

【社会活動】

- ・国土交通省移動円滑化等評価会議委員
- ・上越市介護保険運営協議会委員
- ・上越市地域包括支援センター運営協議会副委員長
- ・上越市社会福祉協議会法人後見事業運営委員会委員
- ・医療法人知命堂病院認知症研修会「認知症の人と家族の支援」，上越市知命堂病院（2023/12/14，60分）
- ・上越市社会福祉協議会，令和5年度権利擁護推進事業ミニ講座「老いをどう受け止める？人生の終い方」，上越市総合福祉センター（2023/10/28，90分）
- ・長野県須坂市地域包括支援センター，2023年度須坂市高齢者虐待防止研修会「高齢者の権利擁護を実践するために支援者ができること」，須坂市生涯学習センター（2024/2/13，120分）
- ・看護研究交流センター出前講座「認知症のこと知りたい（ともに生きる編）」，上越市栄町秋葉会，栄町会館（2023/6/13，60分）
- ・看護研究交流センター出前講座「認知症のこと知りたい（ともに生きる編）」，上越市木田寿会，木田町内会館（2023/6/21，60分）
- ・看護研究交流センター出前講座「認知症の人と家族のこと もう少し詳しく知りたい（病気・暮らし・支援）」，上越市岩神町内会，岩神多目的集会施設（2023/7/22，90分）
- ・看護研究交流センター出前講座「認知症のこと知りたい（ともに生きる編）」，上越市金星クラブ，向橋町内会館（2023/9/26，60分）
- ・看護研究交流センター出前講座「認知症のこと知りたい（ともに生きる編）」，特別養護老人ホームさくら聖母の園（2023/10/25，60分）
- ・看護研究交流センター出前講座「認知症の人と家族のこと もう少し詳しく知りたい（病気・暮らし・支援）」，健康で心豊かに暮らす会，上越市オーレンプラザ（2024/2/28，90分）
- ・新潟県立看護大学看護研究交流センター「いきいきサロン」，「認知症のある生活に備える」（2023/5/18，60分）
- ・高校出前講座，高田北城高校，「看護と介護」（2023/7/26，90分）
- ・上越地域支え合い事業「すこやかサロン金谷」，認知症カフェミニ講座「認知症にやさしい金谷地区を目指して！」，金谷地区振興協議会金谷福祉の里，上越市福祉交流プラザ（2023/9/12，90分）
- ・中等度・重度認知症の人の在宅生活継続に関する調査を実施しました，ぼ〜れぼ〜れ，公益社団法人認知症の人と家族の会，(515)，2023.6.
- ・孤立しない環境づくり重要，朝日新聞，2023/10/21（朝刊）27
- ・公益社団法人認知症の人と家族の会 常任理事
- ・A県内の病院における看護研究実施状況および支援体制に関する実態調査
- ・民生委員・児童委員が捉える認知症の早期発見，早期受診に向けた支援（研究代表者 総合リハビリテーションセンターみどり病院志賀木綿子）

【学内教育活動】

学 部：ライフステージと看護, 家族看護論, 老年看護学Ⅰ, 老年看護学Ⅱ, 老年看護学演習, 老年看護学実習,
看護研究法, 総合実習, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ, ボランティア活動

博士前期課程：看護学領域別特別研究, 老年高度実践看護学実習Ⅰ, 老年高度実践看護学実習Ⅱ, 老年高度実
践看護学実習Ⅲ

博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

実習委員会副委員長, 国家試験対策・就職委員会副委員長, 入学委員会委員, 看護研究交流センター特別研究
部門員

認知症オレンジサークルサークル顧問

【外部資金獲得】

1) 上原貴美子(研究代表者)

加藤公則, 原等子, 中村圭子, 帆苅真由美(2020～2023)：中山間地在宅高齢2型糖尿病患者の治療実態
の改善に向けた新たなシステムの構築, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

2) 鎌田松代(研究代表者)

原等子, 三木敦子, 辻村康代, 武地一(2023～2023)：認知症の人や家族の心理的・社会的サポートに関
する調査研究事業, その他(令和5年度老人保健健康増進等事業)

東條 紀子

1. 原著論文(2件)

- 1) 東條紀子, 平澤則子, 川野英子(2023.8): 訪問看護師による高齢の療養者と介護者双方への在宅移行期における経時的な支援, The Kitakanto Medical Journal, 73 (3), pp213 - 220(査読有)
- 2) 前川絵里子, 野口裕子, 東條紀子(2023.12): 難病の親等をもつヤングケアラーに関する文献検討, 日本難病看護学会. 28(3), pp62 - 72(査読有)

2. その他論文(なし)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(3件)

- 1) 東條紀子, 河原畑尚美(2023.8): 代替オンライン実習による老年看護学総合実習における学生の学び～特別養護老人ホーム入所中の看取り期にある高齢者の事例を通じて～, 日本看護学教育学会(最優秀演題賞: 発展部門 受賞)(福岡)
- 2) 前川絵里子, 野口裕子, 東條紀子(2023.9): 難病の親等をもつヤングケアラーに関する文献検討, 第28回日本難病看護学会(新潟)
- 3) 東條紀子, 原等子, 江口恭子, 渋谷美和, 猪股祥子, 尾之内直美, 鎌田松代, 武地一(2023.11): 中等度・重度認知症の人の在宅生活継続における医療とその選択に関する介護家族の困りごとと対処, 日本在宅ケア学会(大阪・ハイブリッド)

5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・日本高齢者虐待防止学会 企画委員
- ・日本看護学教育学学会(会員)
- ・日本老年看護学会(会員)
- ・日本在宅ケア学会(会員)
- ・日本難病看護学会(会員)
- ・北関東医学会(会員)

【社会活動】

- ・日本高齢者虐待防止学会『ナースのためのアンガーマネジメント② 怒った人に振り回されない自分をつくる』(田辺有理子 著) 書評
- ・認知症対応型共同生活介護における医師不在時の ICT を活用した遠隔看取りの実際(地域課題研究)
- ・日本高齢者虐待防止学会 学術集会 抄録査読
- ・POTT プログラム指導者研修会 研修ファシリテーター・スタッフ(2024.2月)
- ・新潟県立看護大学大学院修了生ネットワーク役員

【学内教育活動】

学 部: 総合実習, 老年看護学演習, 老年看護学実習, 老年看護学Ⅱ, 老年看護学Ⅰ, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ

博士前期課程: 老年高度実践看護実習Ⅰ

博士後期課程: なし

【学内委員会等の活動】

実習委員会委員, 図書委員会委員

【外部資金獲得】

なし

青山 拓夢

1. 原著論文(1件)

- 1) 青山拓夢, 原等子(2024. 3) : 新型コロナウイルス感染症に伴う活動制限による高齢者と家族の体験内容
～A 県の介護老人保健施設における面接調査より～, 高齢者虐待防止研究, 20(1), pp48 - 60(査読有)

2. その他論文(なし)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(なし)

5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・日本老年看護学会 会員
- ・日本高齢者虐待防止学会 会員
- ・日本高齢者虐待防止学会

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

学 部 : 老年看護学Ⅰ, 老年看護学Ⅱ, 老年看護学演習, 老年看護学実習, 総合実習, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ

博士前期課程 : なし

博士後期課程 : なし

【学内委員会等の活動】

入試・広報委員会委員, 学生委員会委員
バドミントンサークルサークル顧問

【外部資金獲得】

なし

金井 香織

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(なし)
5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・日本高齢者虐待学会

【社会活動】

- ・さくらんぼくらぶ 上越妙高 (多胎児サークル)
- ・新潟県高校体育連盟：令和5年5月1、2日「春季長岡上越地区高校柔道大会」救護係
- ・新潟県高校体育連盟：令和5年9月9日「秋季長岡上越地区高校柔道大会」救護係

【学内教育活動】

学 部：老年看護学演習, 老年看護学Ⅰ, 老年看護学Ⅱ, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ, 老年看護学領域別実習, 老年看護学総合実習

博士前期課程：なし

博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

災害時看護特別委員会委員, 看護研究交流センター地域課題研究開発部門員

【外部資金獲得】

なし

谷本 千恵

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(2件)
 - 1) 谷本千恵(2024.3) : Challenges and Opportunities: A Qualitative Exploration of Community Mental Healthcare in Rural Japan, 27th EAFONS (East Asian Forum of Nursing Scholars) (香港)
 - 2) 谷本千恵、船山健二、大江真吾、河西千秋(2024.3) : Postvention for psychiatric nurses: a national cross-sectional survey of nursing directors in Japan, 27th EAFONS (East Asian Forum of Nursing Scholars) (香港)
5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・日本看護科学学会
- ・日本精神保健看護学会
- ・日本うつ病学会

【社会活動】

- ・新潟県精神保健福祉協会上越支部 理事

【学内教育活動】

学 部 : 国際看護論, 精神看護学Ⅰ, 精神看護学Ⅱ, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ
博士前期課程 : 看護研究法, 精神看護学援助論Ⅱ, 看護学領域特別研究
博士後期課程 : なし

【学内委員会等の活動】

FD 委員会委員長, 倫理委員会副委員長, 教務委員会副委員長

【外部資金獲得】

- 1) 谷本千恵(研究代表者)
河西千秋、大江真吾、船山健二(2019～2024) : 患者の自殺を体験した精神科看護師のメンタルヘルスケアプログラムの開発, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

佐々木 三和

1. 原著論文(2件)

- 1) 八巻ちひろ、佐々木三和(2023.4) : Literature reviews on coping behavior of women with menopausal symptoms and menopausal disorders(更年期症状・更年期障害を有する女性の対処行動に関する文献レビュー), Journal of Rural Medicine, 18(2), pp126 - 132(査読有)
- 2) 佐々木三和、熊地美枝(2024.1) : Experience of students who participated in psychiatric nursing educational program aiming at competency development(コンピテンシー育成を目指した精神看護学教育プログラムに参加した学生の体験), Journal of Rural Medicine, 19(1), pp24 - 32(査読有)

2. その他論文(なし)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(3件)

- 1) 辻川美穂、佐々木三和、佐藤日向(2023.11) : ひきこもり支援に関わる看護職の活動内容に関する文献検討, 第82回日本公衆衛生学会総会(つくば国際会議場)
- 2) 佐藤日向、辻川美穂、佐々木三和(2023.11) : SNS投稿からみえるリストカットに潜む思い, 第82回日本公衆衛生学会総会(つくば国際会議場)
- 3) 佐々木三和(2023.11) : 境界性パーソナリティ障害者への地域における支援に関する文献検討, 第82回日本公衆衛生学会総会(つくば国際会議場)

5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・第82回日本公衆衛生学会総会 座長

【社会活動】

- ・新潟県訪問看護ステーション協議会「ストレスとの上手な付き合い方」講師
- ・新潟県立高田高等学校への出前講義「ストレスや不安との付き合い方」講師

【学内教育活動】

学 部 : 精神看護学Ⅰ, 精神看護学Ⅱ, 精神看護学演習, 精神看護学実習, 統合実習, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ, 看護研究法, 看護倫理

博士前期課程 : 精神看護学援助論Ⅱ

博士後期課程 : なし

【学内委員会等の活動】

国家試験対策・就職委員会委員, 国際交流委員会委員, 入学委員会副委員長, 研究科委員会委員, 看護研究交流センター地域課題研究開発部門員

【外部資金獲得】

- 1) 佐々木三和(研究代表者)

(2022~2025) : 地域で境界性パーソナリティ障害者を支えるための訪問看護師への支援プログラムの開発, 科学研究費助成事業 (若手研究)

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(19件)

- 1) 船山健二(2023.6)：実習記録と実習展開 学生ファーストの実習記録を考える,看護教育, 64(3), pp272 - 278(査読無)
- 2) 船山健二(2023.6)：ストレングスモデルを伝える実習のかかわり,看護教育, 64(3), pp338 - 345(査読無)
- 3) 船山健二(2023.7)：メンタル不調者へのアプローチ 相手も自分も安心できる面談の方法 第1回 ふれてはならないこと：相手に踏み込まない方法,産業保健と看護, 15(4), pp356 - 359(査読無)
- 4) 船山健二(2023.7)：患者に導かれる学生、引き込まれる教員。精神看護の入口への誘い方 第1回 患者の内的世界にハマる,精神看護, 26(4), pp368 - 371(査読無)
- 5) 船山健二(2023.9)：メンタル不調者へのアプローチ 相手も自分も安心できる面談の方法 第2回 ふれなければならないこと：伝えなければならないことを伝える方法,産業保健と看護, 15(5), pp456 - 459(査読無)
- 6) 船山健二(2023.9)：患者に導かれる学生、引き込まれる教員。精神看護の入口への誘い方 第2回 型にはまらず沼にハマる,精神看護, 26(5), pp465 - 467(査読無)
- 7) 船山健二(2023.11)：メンタル不調者へのアプローチ 相手も自分も安心できる面談の方法 第3回 ふれてもよいこと：相手に踏み込む方法,産業保健と看護, 15(6), pp546 - 549(査読無)
- 8) 船山健二(2023.11)：身体科からの帰院時に精神科看護師が確認すること,精神看護, 26(6), pp493 - 495(査読無)
- 9) 船山健二(2023.11)：患者に導かれる学生、引き込まれる教員。精神看護の入口への誘い方 第3回 観察の奥深さにハマる,精神看護, 26(6), pp555 - 557(査読無)
- 10) 船山健二(2023.12)：発達障害やその傾向がある看護師とともに働くということ,Nursing BUSINESS, 17(12), pp1086 - 1093(査読無)
- 11) 船山健二(2023.12)：「問題提起行動」に応える解決に向けたヒント,Nursing BUSINESS, 17(12), pp1094 - 1100(査読無)
- 12) 船山健二(2024.1)：メンタル不調者へのアプローチ 相手も自分も安心できる面談の方法 第4回 全体像をとらえる,産業保健と看護, 16(1), pp66 - 71(査読無)
- 13) 船山健二(2024.1)：患者に導かれる学生、引き込まれる教員。精神看護の入口への誘い方 第4回 学生が抱いた「倫理的苦悩」に学ぶ,精神看護, 27(1), pp70 - 72(査読無)
- 14) 船山健二(2024.1)：船山's Eye 精神看護の延長線上にある「ケア」① ご存じですか!?!「プレコンセプションケア」,精神看護, 27(1), pp73 - 73(査読無)
- 15) 藤川君江, 五十嵐愛子, 船山健二, ウィンザー庸子, 上里彰仁(2023.12)：デンマーク視察報告-高齢者入居施設,薬物依存症者支援,看護大学,日本アディクション看護学会誌, 20(2), pp2 - 10(査読無)
- 16) 船山健二(2024.2)：日本の看護大学における司法精神看護の教授実態,日本フォレンジック看護学会誌, 10(2), pp21 - 28(査読有)
- 17) 船山健二(2024.3)：メンタル不調者へのアプローチ 相手も自分も安心できる面談の方法 第5回 自分を癒やすこと,産業保健と看護, 16(2), pp70 - 74(査読無)
- 18) 船山健二(2024.3)：患者に導かれる学生、引き込まれる教員。精神看護の入口への誘い方 第5回,精神看護, 27(2), pp158 - 160(査読無)
- 19) 船山健二(2024.3)：船山's Eye 精神看護の延長線上にある「ケア」② ご存じですか!?!「受刑者や刑務所出所者のヘルスケアニーズ」,精神看護, 27(2), pp161 - 161(査読無)

3. 著書(2件)

- 1) 船山健二(2024.3)：Nursing Education Online：現代版『オレム-アンダーウッドセルフケア理論』活用ガイド《1》活用ガイド編, (株)医学書院(東京)

- 2) 船山健二(2024.3) : Nursing Education Online : 現代版『オレム-アンダーウッド セルフケア理論』活用ガイド《2》学習ドリル (学びを深める5つの問い) , (株) 医学書院(東京)
4. 学会発表(2件)
 - 1) 船山健二(2023.5) : 刑務所出所者・医療観察法対象者の地域生活支援に向けた支援者研修の実際, 日本精神保健看護学会 第33回学術集会(神戸)
 - 2) 谷本千恵, 船山健二, 大江真吾, 河西千秋(2024.3) : Postvention for Psychiatric Nurses: A National Cross-Sectional Survey of Nursing Directors in Japan, 27th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) 2024 (Hong Kong)
 5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・日本フォレンジック看護学会 教育推進委員長
- ・日本フォレンジック看護学会 利益相反委員
- ・日本フォレンジック看護学会 渉外委員
- ・日本フォレンジック看護学会第10回学術集会実行委員

【社会活動】

- ・新潟保護観察所上越駐在官事務所 薬物再乱用防止プログラム ファシリテータ
- ・厚生労働省認定 心のサポーター養成研修指導者認定(認定番号: 23-00113)
- ・日本福祉大学社会福祉総合研修センター 性暴力被害者支援看護職養成プログラム 講師
- ・糸魚川市健康増進課主催 処遇困難事例検討会講師(2023, 5, 18)
- ・新潟TSネットワーク主催 拡大勉強会講師「モデル・理論を支援に活用する」(2023, 6, 9)
- ・高田西城病院看護部主催 臨床実習指導者研修会講師(2023, 6, 22)
- ・看護大・上教大連携公開講座「自分らしく、すこやかに生きるコツ講演② よく耳にする言葉から、その生きにくさ/生きづらさに気づきつきあう」講師(2023, 7, 8)
- ・新潟県立新潟西高等学校1年生対象 模擬講義「統合失調症」(2023, 7, 25)
- ・糸魚川市地域自立支援協議会相談支援部会主催 研修会講師「対人援助に必要なかわりの技法～支援者自身の安全のために～」(2023, 7, 31)
- ・糸魚川市健康増進課主催 処遇困難事例検討会講師(2023, 8, 18)
- ・新潟保護観察所上越駐在官事務所 薬物再乱用防止プログラム 個別処遇 講師(2023, 8, 30)
- ・新潟保護観察所上越駐在官事務所 薬物再乱用防止プログラム 個別処遇 講師(2023, 9, 28)
- ・新潟保護観察所上越駐在官事務所 薬物再乱用防止プログラム 個別処遇 講師(2023, 10, 5)
- ・新潟県上越地域振興局健康福祉環境部・上越市・妙高市主催 令和5年度働き盛りのためのメンタルヘルス研修会「職場におけるメンタル不調への対応」講師 (2023, 10, 23)
- ・厚生労働省事業 令和5年度心のサポーター養成研修会 講師 新潟市 (2023, 10, 24)
- ・新潟保護観察所上越駐在官事務所 薬物再乱用防止プログラム 個別処遇 講師(2023, 10, 26)
- ・看護職学習支援公開講座「看護師のためのセルフコンパッション-自身を癒し・労り・安らぐ-」講師 (2023, 11, 11)
- ・シャバの空気をおいしくする会主催 刑務所暮らしシャバ暮らしワークショップ「聴覚障がいと刑事司法」講演(2023, 11, 17)
- ・日本福祉大学社会福祉総合研修センター主催 性暴力被害者支援看護職養成プログラム2023「支援が行き届かない性暴力被害者の理解」講師(2023, 11, 25)
- ・新潟県立糸魚川高等学校1・2年生対象 講義「看護師が働く場所と役割」+模擬講義「統合失調症」(2023, 11, 29)
- ・新潟保護観察所上越駐在官事務所 薬物再乱用防止プログラム 個別処遇 講師(2024, 1, 16)
- ・糸魚川保健所主催 処遇困難事例検討会講師(2023, 1, 18)

- ・兵庫県臨床心理士会 司法・法務・警察領域委員会主催 研修会講師「加害者に携わる専門職連携」(2024, 2, 3)
- ・新潟保護観察所上越駐在官事務所 薬物再乱用防止プログラム 個別処遇 講師(2024, 2, 20)
- ・東日本矯正医療センター准看護師養成所 「矯正施設における准看護師への期待」講師(2024, 2, 22)
- ・新潟保護観察所上越駐在官事務所 薬物再乱用防止プログラム 個別処遇 講師(2024, 3, 19)
- ・日本フォレンジック看護学会 10周年記念誌 寄稿(第5回学術集会大会長)
- ・日本フォレンジック看護学会 10周年記念誌 寄稿(教育推進委員長)
- ・上越地区BBS(更生保護事業)
- ・2023年10月まで新潟TS(トラブルシューター)ネットワーク世話人(TS = 地域生活における障害児者等のトラブルを解決する全国組織)
- ・2023年6月まで日本精神保健看護学会 権利擁護・虐待防止プロジェクト メンバー

【学内教育活動】

学 部：精神看護学Ⅰ, 精神看護学Ⅱ, 精神看護学演習, 精神看護学実習, 総合実習(精神看護学), 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ

博士前期課程：なし

博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

ハラスメント防止特別委員会委員, 国家試験対策・就職委員会委員, 入試・広報委員会委員, 看護研究交流センター看護職学習支援副部門長

【外部資金獲得】

- 1) 船山健二(研究代表者)
(2019～2023)：刑余者のヘルスケアニーズ, 科学研究費助成事業(若手研究)
- 2) 谷本千恵(研究代表者)
河西千秋, 大江真吾, 船山健二(2019～2024)：患者の自殺を体験した精神科看護師のメンタルヘルスケアプログラムの開発, 科学研究費助成事業(基盤研究C)
- 3) 五十嵐愛子(研究代表者)
松下年子, 日下修一, 加藤隆, 船山健二, 田村勝弘(2020～2023)：刑の一部執行猶予制度下における薬物依存症者の地域連携支援に関する研究, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

安達 寛人

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(1件)
 - 1) 安達寛人, 長谷川雅美(2023. 5) : うつ病をもつ人における自殺再企図の経験, 日本精神保健看護学会(兵庫県)
5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・第19回日本高齢者虐待防止学会上越大会 市民公開講座の座長

【社会活動】

- ・上越保健所 令和5年度高齢者自殺予防研修会講師
- ・うつ病当事者の会ひなたぼっこ上越 運営

【学内教育活動】

学 部 : 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ, 総合実習精神看護学, 精神看護学Ⅰ, 精神看護学Ⅱ, 領域別実習精神看護学

博士前期課程 : なし

博士後期課程 : なし

【学内委員会等の活動】

実習委員会委員, 看護研究交流センター地域課題研究開発部門員

学年担任, 陸上サークルサークル顧問

【外部資金獲得】

なし

早藤夕子

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(なし)
5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・日本ライフストーリー研究会 運営委員 会計監査
- ・日本ライフストーリー研究会 特別研究会ワーキンググループメンバー

【社会活動】

- ・図書新聞 (2024年1月13日) 「精神科看護師の自己形成とは何であるか」 千々岩友子著 自己形成への道程 (春風社) の書評

【学内教育活動】

学 部：精神看護学Ⅱ, 精神看護学演習, 精神看護学実習, 総合実習 (精神看護学), 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ

博士前期課程：なし

博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

学生委員会委員, 看護研究交流センター地域課題研究開発部門員

【外部資金獲得】

なし

高林 知佳子

1. 原著論文(2件)

- 1) 池田由貴、平澤則子、高林知佳子(2023. 5) : A 県内市町村保健師の他職種・他機関との連携の困難に関する研究, The Kitakanto Medical Journal, 73, pp119 - 125(査読有)
- 2) 青木靖子、平澤則子、高林知佳子(2023. 9) : 地域包括ケア病棟における看護師の退院支援実践 自己評価と関連要因, 日本在宅ケア学会誌, 27(1), pp76 - 83(査読有)

2. その他論文(なし)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(なし)

5. その他の研究活動(1件)

- 1) 永吉雅人, Elderton Simon, 大久保明子, 高林知佳子, 野口裕子, 関睦美, 前川絵里子, 久保野裕子, 野村優希, 留目宏美 : 上越市における高校生・大学生を対象とした「香害」および環境過敏症に関する実態調査, 令和5年度新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

- ・日本看護科学学会
- ・日本地域看護学会
- ・日本公衆衛生看護学会
- ・日本難病看護学会
- ・日本公衆衛生学会
- ・日本ルーラルナーシング学会
- ・第19回日本高齢者虐待防止学会上越大会
- ・日本ルーラルナーシング学会第18回学術集会

【社会活動】

- ・新潟県国民健康保険団体連合会保健事業支援・評価委員会委員
- ・上越市健康づくり推進協議会委員
- ・妙高市健康づくり推進協議会委員
- ・妙高市こころと命のネットワーク会議委員
- ・令和5年度上越圏域採用4～5年目保健師研修会次第 講師
- ・富山福祉短期大学「精神看護援助論Ⅱ」非常勤講師
- ・神経難病療養者を担当する介護支援専門員が訪問看護師に期待すること
- ・妙高市自殺対策強化月間広報活動
- ・新任期保健師の育成に向けた意見交換会(1月、3月)
- ・新任期保健師指導者研修会(6月、12月)

【学内教育活動】

学 部 : 地域・在宅看護論Ⅰ, 公衆衛生看護学概論, 公衆衛生看護技術論, 対象別公衆衛生看護活動論Ⅱ, 健康医療政策論, 公衆衛生学, 公衆衛生看護管理論, 看護行政論, 公衆衛生看護学演習, 公衆衛生看護学実習, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ, 在宅看護論実習, 総合実習

博士前期課程 : 看護学研究法

博士後期課程 : なし

【学内委員会等の活動】

国家試験対策・就職委員会委員長, 教務委員会委員, 入学委員会委員, 教学委員会委員, R3 年度入学生保健師課程履修選考委員会委員, R4 年度入学生保健師課程履修選考委員会委員

【外部資金獲得】

- 1) 高林知佳子(研究代表者)
(2020～2023)：主観的幸福感をトリガーとした家族介護者における介護予防行動促進モデルの構築, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

野口 裕子

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(2件)

- 1) 前川絵里子, 野口裕子, 東條紀子(2023. 12) : 難病の親らをもつヤングケアラーに関する文献検討, 日本難病看護学会誌, 28 (3) , pp62 - 72(査読有)
- 2) 野口裕子(2024. 3) : 災害時要配慮者と日頃の関係者と一緒になって災害への備えを考える必要性～難病療養者の災害時個別避難計画に関する文献レビューから～, 危機管理レビュー, 15, pp55 - 69(査読無)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(1件)

- 1) 前川絵里子, 野口裕子, 東條紀子(2023. 9) : 難病の親等をもつヤングケアラーに関する文献検討, 第28回日本難病看護学会学術集会(新潟県新潟市)

5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・日本公衆衛生学会 会員
- ・日本災害看護学会 会員
- ・日本地域看護学会 会員
- ・日本子ども虐待防止学会 会員
- ・日本難病看護学会 会員
- ・日本看護科学学会 会員
- ・北関東医学会 会員
- ・日本公衆衛生看護学会 会員
- ・日本うつ病学会 会員
- ・日本ルーラルナーシング学会 会員
- ・日本ルーラルナーシング学会第18回学術集会 運営委員

【社会活動】

- ・上越市建築審査会委員
- ・上越市建築紛争調整委員会委員
- ・上越市開発審査会委員
- ・2023年度新潟県看護協会看護学会の論文査読1件

【学内教育活動】

学 部 : 公衆衛生看護学概論, 公衆衛生看護技術論, 対象別公衆衛生看護活動論Ⅲ, 公衆衛生看護管理論, 公衆衛生看護学演習, 公衆衛生看護学実習, 在宅看護論演習, 在宅看護論実習, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ, 災害看護活動論, 公衆衛生学, 地域・在宅看護論Ⅱ

博士前期課程 : なし

博士後期課程 : なし

【学内委員会等の活動】

災害時看護支援特別委員会副委員長, 国家試験・就職委員会委員, 学生委員会委員

【外部資金獲得】

- 1) 野口裕子(研究代表者)
表志津子, 岡本理恵, 平澤則子(2020～2024) : 乳幼児を持つ養育者の防災行動教育プログラムの開発, 科学研究費助成事業(基盤研究C)
- 2) 平澤則子(研究代表者)
野口裕子, 前川絵里子(2021～2024) : 難病患者が生活困窮に陥らないための伴走型就労・孤立予防チームの構築に関する研究, 科学研究費助成事業(基盤研究C)
- 3) 関睦美(研究代表者)
表志津子, 岡本理絵, 山田恵子, 野口裕子(2022～2026) : 医療的ケア児の通常学校就学を可能にする学校看護師就労促進モデルの構築, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

関 睦美

1. 原著論文(1件)

- 1) 関睦美, 近藤やよい, 近田真美子, 吉江由加里(2023.5): 在宅看護論実習における精神科訪問看護での看護学生の学び, THE KITAKANTO MEDICAL JOURNAL, 73 (2), pp127 - 133(査読有)

2. その他論文(なし)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(なし)

5. その他の研究活動(2件)

- 1) 永吉雅人, Elderton Simon, 大久保明子, 高林知佳子, 野口裕子, 関睦美, 前川絵里子, 久保野裕子, 野村優希, 留目宏美: 上越市における高校生・大学生を対象とした「香害」および環境過敏症に関する実態調査, 令和5年度新潟県立看護大学学内共同研究助成
- 2) 山田恵子, 関睦美, 上田恵, 大久保明子: 救急外来で突然に子どもの死を宣告された親のグリーフ, 令和3年度新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

- ・日本看護学教育学会
- ・日本看護研究学会
- ・日本家族看護学会
- ・日本在宅看護学会
- ・看護実践学会
- ・日本公衆衛生看護学会
- ・日本介護福祉学会
- ・日本ルーラルナーシング学会第18回学術集会

【社会活動】

- ・妙高市 介護保険運営協議会委員
- ・新潟県保健福祉部 看護学生公衆衛生・在宅・母性看護実習指導者研修会 講師
- ・福井市 ボランティアグループ「あいじつ」
- ・子どもを亡くした家族の会「小さいのち」
- ・看護師の退院支援モデル活用の効果と課題
- ・石川県 特別支援学校における医療的ケア対応看護師研修会 運営スタッフ

【学内教育活動】

学 部：地域・在宅看護論Ⅰ, 地域・在宅看護論Ⅲ, 在宅看護論演習, 在宅看護論実習, 看護研究法, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ, 総合実習

博士前期課程：なし

博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

実習委員会委員, 紀要委員会委員, FD委員会委員

【外部資金獲得】

- 1) 関睦美(研究代表者)

表志津子、岡本理恵、山田恵子、野口裕子(2022～2026)：医療的ケア児の通常学校就学を可能にする学校看護師就労促進モデルの構築, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

前川 絵里子

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(2件)

- 1) 前川絵里子, 野口裕子, 東條紀子(2023. 12) : 難病の親らをもつヤングケアラーに関する文献検討, 日本難病看護学会誌, 28(3), pp62 - 72(査読有)
- 2) 斎藤真樹子, 前川絵里子, 井上智代(2024. 3) : 人生の最終段階と説明を受けた患者の家族などの代理意思決定者の葛藤, 日本保健福祉学会誌, 30(2), pp1-9(査読有)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(2件)

- 1) 前川絵里子, 平澤則子(2024. 1) : 難病患者の伴走型就労支援・孤立予防を担う専門職の支援技術とチーム構築の要素, 第12回日本公衆衛生看護学会学術集会(北九州市)
- 2) 前川絵里子, 野口裕子, 東條紀子(2023. 9) : 難病の親等をもつヤングケアラーに関する文献検討, 第28回日本難病看護学会学術集会(新潟市)

5. その他の研究活動(1件)

- 1) 永吉雅人, Elderton Simon, 大久保明子, 高林知佳子, 野口裕子, 関睦美, 前川絵里子, 久保野裕子, 野村優希, 留目宏美 : 上越市における高校生・大学生を対象とした「香害」および環境過敏症に関する実態調査, 令和5年度新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

- ・第19回日本高齢者虐待防止学会・上越大会・当日協力者/受付
- ・日本ルーラルナーシング学会第18回学術集会・実行委員/学会の総合副司会

【社会活動】

- ・新潟県パーキンソン病友の会上越地区
- ・神経難病療養者を担当する介護支援専門員が訪問看護師に期待すること

【学内教育活動】

学 部 : 公衆衛生学, 公衆衛生看護技術論, 対象別公衆衛生看護活動論Ⅱ, 公衆衛生看護学演習, 公衆衛生看護学実習, 在宅看護論演習, 在宅看護論実習, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ, 総合実習

博士前期課程 : なし

博士後期課程 : なし

【学内委員会等の活動】

入試・広報委員会委員, 衛生委員会委員, 看護研究交流センター看護職学習支援部門員
学年担任

【外部資金獲得】

- 1) 平澤則子(研究代表者)

野口裕子, 前川絵里子(2021~2024) : 難病患者が生活困窮に陥らないための伴走型就労・孤立予防チームの構築に関する研究, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

久保野 裕子

1. 原著論文(1件)

1) 久保野裕子, 井上智代, 平澤則子(2024. 3) : 介護職の腰痛予防に関する支援ニーズ調査, 新潟県立看護大学紀要, 13, pp1 - 7(査読有)

2. その他論文(なし)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(なし)

5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

なし

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

学 部 : 公衆衛生学, 公衆衛生看護技術論, 地域・在宅看護論Ⅱ, 対象別公衆衛生看護活動論Ⅲ, 在宅看護論演習, 在宅看護論実習, 公衆衛生看護学演習, 公衆衛生看護学実習, 総合実習, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ

博士前期課程 : なし

博士後期課程 : なし

【学内委員会等の活動】

図書委員会委員, FD 委員会委員, ハラスメント相談員

【外部資金獲得】

なし

野村 優希

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(なし)
5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

なし

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

学 部：公衆衛生看護学演習, 公衆衛生看護学実習, 在宅看護論演習, 在宅看護論実習, 総合実習

博士前期課程：なし

博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

看護研究交流センター地域社会貢献部門員

【外部資金獲得】

なし

神田 清子

1. 原著論文(5件)

- 1) 西林 京子, 砂賀 道子, 神田 清子(2023.12) : がんサバイバーの語りからみる生成継承性の意味, The Kitakanto Medical Journal, 73(4), pp309 - 312(査読有)
- 2) 橋本 晴美, 今井 洋子, 本多 昌子, 京田 亜由美, 藤本 桂子, 神田 清子(2023.7) : がん患者の呼吸困難感に影響する要因, 日本看護研究学会雑誌, 46(2), pp153 - 164(査読有)
- 3) Kyota Ayumi, Senuma Maiko, Tsukagoshi Noriko, Kiyohara Aya, Koike Shun, Arakawa Hiroshi, Kobayashi Tomomi, Kondo Yuka, Kanda Kiyoko(2023.5) : Communication Education in General Hospitals and Nurses' Difficulties in Communicating with Patients at the Terminal Phase of Cancer, The Kitakanto Medical Journal, 72 (2) , pp135 - 142(査読有)
- 4) 前田 智美, 京田 亜由美, 飯嶋 友美, 神田 清子(2023.12) : 外来化学療法における看護師のがん治療継続を再考する時期の判断と行動, Palliative Care Research, 18 (4) , pp273 - 281(査読有)
- 5) Ayumi Kyota, Kiyoko Kanda, Maiko Senuma, Noriko Tsukagoshi, Tamae Futawatari, Yuka Kondo(2023.10), The perception of life and death of patients with the end-of-life stage cancer: A systematic review of qualitative research, European Journal of Oncology Nursing, 66:102354, ppDOI: 10.1016/j.ejon.2023(査読有)

2. その他論文(なし)

3. 著書(2件)

- 1) 日本がんサポーターケア学会(2023.6) : がん薬物療法に伴う末梢神経障害診療ガイドライン 2023 版, 第2章 総論 J 臨床における諸問題 4. CIPN における看護, 金原出版株式会社(東京)
- 2) 深井喜代子, 前田ひとみ編集(2023.12) : 基礎看護学テキスト EBN 志向の看護実践 改訂第3版, VI 治癒促進と症状緩和のケア技術 ⑫味覚異常のケア, 南江堂(東京)

4. 学会発表(3件)

- 1) Kiyoko Kanda, Ayumi Kyota, Taeko Kinjo, Mai Hosokawa, Daisuke Higuchi(2023.10) : Relationship Between Chemotherapy-Induced Peripheral Neuropathy and Physical Activity in Cancer Survivors, The 15th Asia Pacific Hospice Palliative Care Conference October 4 - 7, 2023 / Songdo Convensia, Incheon, (Incheon Korea)
- 2) 西林 京子, 砂賀 道子, 神田 清子(2023.5) : がんサバイバーの語りからみる生成継承性の意味, 群馬がん看護研究会(群馬県)
- 3) 吉田久美子, 神田清子, 生方敬美, 福島直子, 中川 裕(2023.12) : 外来化学療法を受けている大腸がん患者のセルフケア能力の影響要因, 第43回日本看護科学学会学術集会(山口)

5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・ 日本がん看護学会 査読委員
- ・ 日本看護科学学会 査読委員
- ・ 日本がん看護学会 利益相反委員会
- ・ 群馬がん看護研究会 顧問
- ・ 群馬県がん患者団体連絡協議会 顧問

【社会活動】

- ・ 群馬県個人情報保護審議会委員
- ・ 抗がん剤曝露対策協議会監事
- ・ 一般財団法人上越環境科学センター評議委員
- ・ 公益社団法人新潟県看護協会委員
- ・ がん看護 アドバイザー
- ・ 群馬県がん患者団体連絡協議会顧問
- ・ 群馬県がん看護研究会顧問
- ・ 新潟がん看護研究会 「第15回認定看護師・専門看護師懇話会」講師

【学内教育活動】

学 部 : 総合科目
博士前期課程 : なし
博士後期課程 : なし

【外部資金獲得】

- 1) 吉田 久美子(研究代表者)
中川 裕、福島 直子、神田 清子 (2023～2025) : 進行がん患者の希望とセルフケア能力をサポートする看護モデルの開発, 科学研究費助成事業(基盤研究C)
- 2) 石田 和子(研究代表者)
石田 順子、石岡 幸恵、神田 清子、石原 千晶、佐藤 充子、川田 智美、樺澤 三奈子、坂田 智佳子 (2022～2025) : 大腸がん患者の健康管理行動を活性化する在宅型継続支援モデルの開発と効果, 科学研究費助成事業(基盤研究B)
- 3) 神田清子(研究代表者)
砂賀 道子、樋口 大輔、大家 千枝子、福島 直子、京田 亜由美、瀬沼 麻衣子 (2022～2025) : 地域基盤型活動アプリ介入が乳がんサバイバーの心身の回復に及ぼす効果, 科学研究費助成事業 (挑戦的研究萌芽)
- 4) 藤本 桂子(研究代表者) ”
橋本 晴美、神田 清子、砂賀 道子、小沼 美加(2020～2023) : 発達段階に合わせた「親子で乗り越える乳がんプログラム」の開発と評価, 科学研究費助成事業(基盤研究C)
- 5) 神田清子(研究代表者)
京田 亜由美、細川 舞、樋口 大輔、小沼 美加、高屋敷 麻理子(2020～2023) : 末梢神経障害を伴うがんサバイバーの在宅基盤型活動支援プログラムの開発と評価, 科学研究費助成事業(基盤研究B)

各種委員会等の 活動報告

委員会活動報告掲載順

ハラスメント防止特別委員会	82
自己点検・評価特別委員会	83
情報ネットワーク特別委員会	84
国際交流委員会	86
災害時看護支援特別委員会	87
倫理委員会	88
教務委員会	89
実習委員会	92
学生委員会	94
研究推進委員会	97
FD委員会	99
国家試験対策・就職委員会	101
入試・広報委員会	103
図書委員会	105
紀要委員会	107
教学委員会	108
入学委員会	112

令和5年度 ハラスメント防止特別委員会活動報告

1. 委員会構成

委員：◎大久保 明子、○大竹 順司、岡村 典子、樺澤 三奈子、船山 健二、山岸 美奈子

相談員：葛城 美徳、小林 綾子、上田 恵、久保野 裕子

事務局：早川 隆、秋山 智章

2. 活動概要

(1) ハラスメント防止の啓発活動

新任の教職員、新入の学部生・大学院生を対象に、大学におけるハラスメント防止と相談対応についてガイダンスを実施し、リーフレットを配布するとともに、在籍中の学生及び教職員全員にもリーフレットを配布して周知を図った。また、ハラスメント防止の啓発ポスターを教員談話室や食堂等に掲示し、意識づけを行った。

教職員を対象に、「ハラスメント防止に活かすアンガーマネジメント」をテーマに研修会を開催した。また、今年度の新しい取り組みとして、男性教員を対象に女子学生の教育指導での悩みや配慮についてヒヤリングを行った。

(2) ハラスメント相談対応

ハラスメント相談員にアクセスしやすいように、相談員の連絡先を記した名刺サイズのカードを作成し、男女トイレ、学部生の男女更衣室、院生室、教員談話室に設置した。

また、ハラスメント相談がしやすい環境を整えるため、引き続き上越教育大学の教員に学外相談員を委嘱した。

3. 次年度に向けた課題

(1) 研修会アンケートの結果、研修会の内容について参加者からは高評価であり、研修会の継続を望む意見が多かった。次年度は、グループワーク等を取り入れるなど、研修会の内容や方法を検討する。

(2) 異性の学生に対する教員の教育指導上の配慮に関して、ヒヤリングを行う。

(3) 委員会にあげるまでには至らないが、学生及び教職員からの相談や通告があった。秘密を厳守しながら相談に対応する対応を取っており、ハラスメント防止を引き続きの課題とする。

令和5年度 自己点検・評価特別委員会活動報告

1. 委員会構成

委員：◎大久保 明子、○大竹 順司、市川 克己、石田 和子、岡村 典子、堀江 正男
事務局：秋山 智章

2. 活動概要

(1) 教員評価の実施（令和4年度業績に対する評価）

前年度末までに提出された教員活動業績の自己申告シート（教育研究活動業績入力フォーム）を基に教員業績評価を集計し、集計結果を学長に報告した。学長が7月の教授会で教員業績評価の集計報告及び学長表彰者を公表し、学長表彰者2名に5万円ずつ個人研究費の追加配分を行った。

(2) 令和4年度自己点検評価報告書の編集

自己申告シート及び各委員会の活動報告を前年度末までに提出いただき、エラーチェック、エラー修正、集計作業を行い、5月末に本学リポジトリに登録した。

(3) 著者・論文数、学会発表数の集計

令和4年度の各教員の著書・論文数、及び学会発表数を集計し、法人計画の令和4年度実績値として計上した。

(4) 自己申告シートの検討

自己申告シートの入力等に関する教員からの修正意見を検討し、適切に活動業績が評価できるよう修正した。

(5) 大学機関別認証評価に係る作業スケジュールの確認

令和6年度受審予定の大学機関別認証評価に係る作業スケジュールに従い、担当部署と連携しながら点検・評価報告書（案）を作成した。3月上旬に大学教育質保証・評価センターに事前相談を行い、その結果を点検・評価報告書（案）に反映し、令和6年度受審の準備を行った。

3. 次年度に向けた課題

令和5年度教育研究活動業績の評価・分析を行うとともに、大学機関別認証評価に係る点検・評価報告書を完成させ、令和6年度に大学機関別認証評価を受審する。

令和5年度 情報ネットワーク特別委員会活動報告

1. 委員会構成

委員：◎永吉 雅人、大久保 明子、堀江 正男
大竹 順司(事務局長)、早川 隆(事務局次長)、秋山 智章(教務学生課長)
事務局：岡本 剛(庶務係長)

2. 活動概要

(1) 情報セキュリティ対策に関する規程の見直し

「政府機関等の情報セキュリティ対策のための統一基準群（令和3年度版）」に則り、「公立大学法人新潟県立看護大学における電子情報の格付け及び取扱制限に関する基準」を策定し、教授会で周知した。

(2) 電磁的記録媒体取扱要領の一部修正

電磁的記録媒体取扱要領の一部修正を行い、情報セキュリティ責任者を明記し、教授会で周知した。

(3) 生成AIの暫定的な対応方針の策定

理事長の指示により、「大学教育における生成AI（ChatGPT等）の暫定的な対応方針」を主体となつて定め、メーリングリストにより周知した。

(4) Webフォームの利用方針の策定

理事長の指示により、「Webフォームの利用方針について」を主体となつて定め、メーリングリストにより周知した。

(5) 情報管理・倫理要綱の改正（様式1-3の押印廃止）

情報管理・倫理要綱の一部改正を行い、一般用の計算機資源利用申請書について押印を廃止し、教授会で周知した。

3. 次年度に向けた課題

情報環境が著しく変化し、迅速かつ安全なセキュリティ対策が必要とされる状況であるため、円滑かつ安全な情報環境の維持が図れる体制維持・整備が引き続き大きな課題である。

moodle出欠モジュール追加の検討については、moodleのバージョンアップ後に再度審議することとなっている。

令和5年度 情報ネットワーク特別委員会 情報ネットワーク実行部会活動報告

1. 委員構成

委員：◎永吉 雅人、早川 隆（事務局次長）、秋山 智章（教務学生課長）、岡本 剛（庶務係長）、
山崎 明彦（主任）、田村 美和子（嘱託員）
事務局：星野 由衣（主事）

2. 活動概要

(1) プリンター利用管理

プリンター出力件数の超過管理として毎月のプリンター出力を確認し、超過した学生に関して指導を行った。

(2) Wi-Fi ルータおよび盗難防止システム確認

Wi-Fi ルータおよび盗難防止装置としてのネットワークカメラの稼働確認を行い、無線 LAN 環境と物品の管理・保全につとめた。

(3) アドレス帳の更新

随時アドレス帳の更新を行い、学内ネットワークの保全につとめた。

(4) セキュリティ情報の周知

脆弱性を有するソフトウェアのアップデート依頼や不審メールなどの周知を行い、学内ネットワークの保全につとめた。

(5) どこカレの管理・運用

コース・カテゴリの管理者登録などの依頼に随時対応した。

令和5年度 国際交流委員会活動報告

1. 委員会構成

委員：◎伊豆上 智子、○Simon Elderton、渡辺 弘之、佐々木 三和、徐 淑子
事務局：梅山 香織、宮崎 達也(4～6月)、山崎 明彦(7月～)

2. 活動概要

(1) 研究水準の向上や国際的な視野を養える国際交流事業

国際交流セミナーを以下のとおり開催した。

- ① 6月26日(月)13:00～14:00 第2ホール
 - ・主題：やさしい日本語講座
 - ・講師：上越国際交流協会 外国人医療支援グループ じょんなび 倉辻 厚子 氏
 - ・参加者：計15名(学部生7名、教職員8名)
- ② 10月25日(金)14:30～15:30 第1ホール
 - ・主 題：日本から出て視野を広げることで見える景色
 - ・講 師：富山市役所環境部環境政策課主査 梶川 慶子氏
クライストチャーチホスピタル
急性期脳梗塞・血管外科病棟看護師 濱中 尚美 氏
(濱中氏の講演はオンライン会議システムを用いて現地から実施した。)
 - ・参加者：計85名(学部生67名、教職員18名)

(2) 海外大学との交流協定締結・学生及び教員の国際交流促進

- ① ニュージーランド看護研修
 - ・実施日：3月10日(日)～14泊(ホームステイ13泊・機中1泊)
 - ・参加者：計9名(1年次生5名、2年次生2名、引率教員2名)
 - Ara との連携に基づくニュージーランド看護研修を実施した。事故や罹病なく、全員がプログラムを完遂した。現地研修に先立ち、5回の事前学習にてニュージーランドの文化、保健医療制度、英会話、危機管理を学んだ。令和6年度前期に研修報告会を開催する。
- ② 国際交流における危機管理対策の強化
 - 海外研修実施に先立ち、感染症対応と、EAJ 社による留学生危機管理サービス「OSSMA」を盛り込んだ危機管理対策マニュアルおよび渡航安全ガイドブックの改訂を行った。現地研修中、国際交流委員会が EAJ 社・Ara との調整の窓口と参加者の安全確認を担った。
- ③ 地域の国際交流団体との協力体制の維持
 - 地域国際交流において協力関係にある JOIN および上越教育大学留学生支援センターとの交流継続に努めた。

3. 次年度の課題

Ara との国際交流協定に基づくニュージーランド看護研修の持続可能性の向上を図るために、参加者募集・学習成果・危機管理の観点から、本年度事業の検証を行い、精錬を図る。併せて、国際交流への学生・教員の参画を促進するための方策を継続する。

令和5年度 災害時看護支援特別委員会活動報告

1. 委員会構成

委員：◎堀江 正男、○野口 裕子、石原 千晶、川島 良子、金井 香織
事務局：岡本庶務係長、岡田主任、一薫職員

2. 活動概要

(1) 学生および教職員への訓練、研修及び啓発活動

① 安否確認システムについて

安否情報システムの活用では、学生および教職員のメールアドレスのシステムへの登録をサポートし、安否報告訓練を学生・教職員を対象に2回(5月、11月)実施した。訓練における返信率の向上を目指し、未返信の学生には登録メールアドレスの確認や返信の声かけを行うことにより返信率の向上に努め、11月訓練時の返信率100%を達成した。

令和6年1月1日に発生した能登半島地震では、上越市で震度5強の地震が発生したことを受け、本学で避難所を開設して34名の避難者を受け入れた。また学生教職員の安否を確認するため安否情報システムにより安否の返信を呼びかけた結果、1月4日までに全員の無事が確認された。

② 研修について

教職員に対する防災・減災教育、社団法人中越防災安全推進機構地域防災力センターの専門家による研修会を開いた(8月)。

③ 防災啓発活動について

学生に対する防災・減災教育として4月にオリエンテーションを行い、学内の防災設備と避難経路、防災への日頃の備え、災害発生時の行動及び大学への安否報告方法、および鴨島地区の指定避難所等を周知した。

教職員の緊急連絡網の随時更新と周知、危機管理初動対応マニュアル・震災対応マニュアルの周知を行った(4月)。

(2) 他団体との連携事業

① 上越市の指定避難所管理者として、上越市及び本学周囲6町内会との発災時の避難に関する事前打ち合わせを本学で行った(6月)。

② 新潟県防災局主催の避難所運営業務研修に参加し、避難所運営業務の役割や業務・知識の理解に努めた(7月)。

③ 新潟県看護系大学等災害支援連携協議会(以下同協議会)では会長校として定例会議を主催し、会員校、新潟県および新潟市間の意識共有を図った(6月、2月)。同協議会の代表として、6月にオンラインで行われた日本看護系大学等災害支援活動委員会中部ブロック会議に出席し、同協議会の活動について報告した。

④ 日本看護系大学協議会災害支援活動員会中部ブロックにおいて、本学は新潟県看護系大学の代表校として担当者会議に参加し、活発な意見交換を行った。

3. 次年度に向けた課題

ANPIC機能を活用するために、全学生と教職員のメールアドレスの登録サポートを継続するとともに、ANPIC運用マニュアルの周知およびマニュアルの有効性を検証する。避難所開設支援を含めた実践的な研修や訓練を継続あるいは発展させ、有事に備える。システムの具体的な運用を図りつつ、次年度も引き続き審査の効率化を目指していく。

令和5年度 倫理委員会活動報告

1. 委員会構成

委員：◎常盤 洋子、○谷本 千恵、石井 角保、樺澤 三奈子、徐 淑子
学外委員：村中 智彦、小林 優子、倉辻 厚子
事務局：早川 隆、山崎 明彦

2. 活動概要

(1) 倫理審査とその結果について

申請された倫理審査申請書（研究計画書）について、基本方針である「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」及び「公立大学法人新潟県立看護大学研究倫理規程」に則り審査を行った。

審査件数は総計 19 件（新規申請 15 件、変更申請 4 件）であり、令和6年3月末時点での承認件数は 15 件であった。

(2) 研究倫理研修会参加について

令和5年10月11日（水）に開催された文部科学省が主催する倫理オンライン説明会に、徐委員、樺澤委員、山崎主任が参加した。当説明会では、令和5年7月に施行された「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」の改正に焦点が当てられ、改正の意図と概要についての説明があった。説明会の後、改正内容を委員会で共有した。また指針改正について周知を図ることを目的に、改正の要点がまとめられた説明会資料を e-learning プラットフォーム（どこカレ）上に掲載するとともに、教授会において全教員に対し情報提供を行った。

(3) 倫理審査委員会の運営で取り組んだことについて

本学の研究倫理規程の一部改正について審議し、「研究者等」の定義を明確にし、教育研究審議会で承認され、教授会で報告した。また、別記4号様式（第10条関係）指摘事項修正確認票における記載例を作成し、e-learning プラットフォーム（どこカレ）内における倫理審査（オンライン申請）ページに掲載した。

また、研究倫理審査の円滑化を図るため、オンライン申請マニュアル改訂版の作成（倫理委員会案内スケジュールの掲載）と申請様式作成における留意事項を研究倫理審査のフローチャートに加筆し申請者に周知した。

3. 次年度に向けた課題

オンライン申請システムの具体的な運用を図りつつ、次年度も引き続き審査の効率化を目指していく。

1. 委員会構成

委員：◎岡村 典子、○大久保 明子、中村 義実、常盤 洋子、高林 知佳子、谷本 千恵、
小長谷 百絵、酒井 禎子
事務局：内山主事

2. 活動概要

(1) シラバスに関する事項（岡村委員、中村委員、事務局）

シラバスは、2023年度からの学務システムにおける掲載に伴い、従来のWordファイルによるシラバス作成から、学務システムへの入力となった。また、今年度より冊子での配布はなく、学務システムからの閲覧・確認となったが、学生、教員から特に意見等は聞かれなかった。ただ、学生の閲覧媒体を確保するため、学務システムだけでなく、どこカレにもシラバスを掲載した。また、教員のシラバス編集権限については、シラバス作成時のみとし、修正が生じた場合には教員から学生へインフォメーションすることとした。これについて、教員から権限付与等の要望はなかった。

次年度のシラバス作成については、昨年同様のスケジュールにて、10月より原稿依頼（システム入力）を開始した。原稿依頼中、入力にあたっての問い合わせが数件あった。入力締め切り後は、担当者らにて入力内容の確認を行った。確認の際に、幾つか統一した基準を設けた方が良い項目が判明したことから、次年度に向け“シラバス作成・入力要領”の修正を進めているところである。

(2) 時間割に関する事項（大久保委員、高林委員）

時間割希望申請方法を従来の紙面による申請から、授業担当教員が直接入力するエクセル表による時間割希望調査に変更した。時間割作成方法は従来どおり、原則として学外の非常勤講師の希望を優先し、その後本学の科目担当者の希望を考慮して作成した。4年次の時間割表の枠組みは助産課程が大学院に移行したため、看護師課程、看護師・保健師課程の2つの課程別とした。また、新カリキュラムと旧カリキュラムの移行期であり、令和6年度の時間割は、1～3年生が新カリキュラムに該当しており、授業単位数の変更や新規科目の配置等を考慮して作成した。時間割希望の調整は、毎年苦慮するところであるが、非常勤講師に関しては、事務局担当者の協力を得て時間割を完成した。

次年度は時間割の変更をリアルタイムに確認できるよう、紙媒体での時間割配布を廃止し、学務システムで時間割が閲覧できることを学生に周知する方針である。

(3) 専門ゼミナールの実施に関する事項（谷本委員、小長谷委員）

① 看護研究フィールド調整

昨年度に引き続き、上越市内4病院（県立中央病院・上越総合病院・上越地域医療センター病院・新潟労災病院）をフィールドとした研究を行わないことを確認した。学生対象の調査を行う研究計画があるかどうかについて、各領域の状況を確認し、学生対象の調査が複数ある場合は、学生の負担にならないように調整を行うこと、及び、学生に調査を実施する前には、ゼミ担当教員と「看護研究における倫理的配慮の自己チェックリスト」により、倫理チェックを行うとともに、学部長に研究計画書のチェックを受けることを確認した。

② 専門ゼミナール希望調査と振り分け

専門ゼミナール希望調査を第3希望までとして12月25日にオリエンテーションを行った。「2024年専門ゼミナール希望調査」の結果と「2024年度学生担当定員と配置案」をもとに各領域の配置人数について検討した。例年、一部の看護領域への第一希望の集中があるが、次年度の教員人事により、学生には配属先は希望に沿えない場合もある旨説明したが、精神看護学と地域看護学に第一希望が集中し、また全体の領域配置の中で定員よりも大幅に満たないところがあり、調整を要した。さらに総合実習での学生の配置状況も考慮し再調整を行い、3月の教務委員会で決定した。

(4) 看護研究発表会に関する事項（酒井委員、常盤委員）

12月12日（火）9:30～15:10に大学内4会場（第1合同講義室、第2講義室、第6/7講義室、第2合同講義室）にて看護研究発表会を開催した。今年度初めて対面での口演形式とし、計92名の4年次生が研究発表を行った。看護研究発表会当日の参加者数は学部生・教職員・学外関係者を含む計226名であった。教務委員の他、各領域の運営委員ならびに事務局の協力を得て、全体として大きなトラブルなく終了した。

当日の発表はZoomを介してレコーディングし、研究発表会に参加できなかった下級生や教職員等が動画を視聴できるように、12月18日（月）および12月26日（火）9:30～16:00を動画視聴日とした。計71名が発表動画を視聴した。アンケートから明らかになった次年度の課題として、発表会場の設営やタイムスケジュールの検討などが挙げられた。

(5) 教務ガイダンス・成績確認・実習先行要件の確認及び各教育課程履修学生の確認（大久保委員、岡村委員）

教務ガイダンスは、担当者を決め例年通り学年別に半期ごとに実施し、各学年の履修科目の特徴や学習上の留意点等、学年に応じた内容の指導を行うとともに、ディプロマポリシーの学年別到達目標の配布を行い、各学年における到達目標の意識づけを図った。

成績確認は、前期及び後期ごとに行い教授会に諮った。半期ごとのGPAが2.0未満の学生について、委員長が各クラス担任に学習支援を依頼し、指導状況の報告から適切に支援がなされていたことを確認した。また、3年次領域別実習の履修先行要件となる単位取得状況を正・副委員長で確認し、担当教員に周知するとともに学生にも掲示にて周知した。

看護師課程、看護師・保健師課程の履修者名簿および卒業要件を確認し、教授会で報告するとともに学生にも掲示にて周知した。

(6) 非常勤講師への対応及び採用、ゲストスピーカー申請の確認（岡村委員、事務局）

非常勤講師へは、初回講義開始前に辞令を交付するとともに、最終の試験監督を担えない場合は、教務委員と事務局が担当した。今年度は2つの科目を教務委員が担当し、それ以外の科目は事務局にて対応した。次年度の新規非常勤講師については、教務委員会、そして教育研究審議会にて審議し承認を得た。ゲストスピーカーの申請については、授業時数の1/3以内という規程、及び全体の予算額を確認・検討し、その結果を教育研究審議会と教授会にて報告した。

(7) 新カリキュラムにおける教育の取り組みと評価（大久保委員、中村委員、常盤委員、岡村委員）

新カリキュラムについては、2年目の今年度も法人計画にも掲げてあるPDCAサイクルを回すべく、適宜評価を行った。新カリキュラムに関する意見交換会を、昨年同様に9月及び3月の二回開催した。一回目は、地域志向科目のうち二科目の実践報告、及び事前・事後学習の設定内容や評価方法について意見交換を行った。参加者からは、「事前・事後学習について、いくつかアイデアを得ることができた。」、「評価方法については、多くの先生方が模索中ではあったが、事後学習を小テストとするなど参考にしたいと思った。」といった意見が聞かれた。二回目は、各領域にて教授している看護過程の内容を共有し、今後の教育方法や課題について検討を行った。今後も意見交換の機会を設け、教員間での情報共有及び課題の検討を引き続き行っていく。

また、新カリキュラムに該当する一・二年生のアンケート調査を実施した。

(8) 学年別到達目標に関する自己評価の把握（高林委員、酒井委員）

学生が看護専門職としての自己の成長と課題を明確化し、教育方法等の工夫と改善に資する基礎的資料を得ることを目的に、1～4年次生を対象に「学年別到達目標到達度 自己評価に関する調査」をMoodleにて実施した。回収率は、1年次生93名中83名89.2%、2年次生91名中24名26.4%、3年次生95名中88名92.6%、4年次生94名中41名43.6%と、2年次生の回収率が極端に低い結果となった。このうち新カリキュラムとなった1年次生は、DP7、DP5が高く、DP4、DP6が低い傾向にあり、2年次生は、DP1が高く、DP2、DP4が低い傾向にあった。一方、旧カリキュラムとなる3年次生は、DP1、DP4が高く、DP6

が他学年より低めであり、4年次生は全体的に到達度が高い傾向にあった。成長の実感では、全学年でほとんどの学生が成長を感じていた。またカリキュラムの満足感では3年次生は他学年生に比べ「やや不満足」と回答する割合が高かった。

(9) 学務システムへの移行に伴う履修届及び成績報告書登録（岡村委員、事務局）

今年度は、学務システムによる履修申請の完全導入となったが、問題なく実施できている。併せて、学務システムにおけるシラバス閲覧も開始となった。

また、後期より学務システムへの成績報告書の登録も開始となった。紙媒体と併用して実施したが、問題なく経過していることから、次年度より完全に移行する予定である。実施にあたっては、まずは前期科目において教務委員会メンバーの科目を試行登録し、確認を経たのちに後期科目の登録を開始するといった対策が功を奏したといえる。

(10) ふれあい実習への参加（岡村委員）

新カリキュラムにて、ふれあい実習は看護学実習に位置づけられたことから、看護系教員の参加が必須となっていた。令和4年度は、ふれあい実習のオリエンテーションに実習委員長が出席し、ふれあい実習の位置づけとともに実習にあたっての心構えを教授した。また、まとめの発表会には教務委員長が参加した。令和5年度からは、教務委員会の構成員が看護系教員として参加することとし、ふれあい実習のオリエンテーションには酒井委員が出席した。まとめの発表会へは、ふれあい実習の統括者より全教員に出席依頼のメールが配信され、多くの看護系教員が発表会に参加し質問や講評を学生へ伝えた。

3. 次年度に向けた課題

(1) 新カリキュラムに関するアセスメントの継続

新カリキュラム導入3年目を迎えることから、引き続きPDCAサイクルを巡回させ、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーを達成すべく、カリキュラム運営に取り組んでいく。具体的には、看護過程の領域を跨いだ教育内容の検討、3年生の看護学演習及び領域別実習の実施状況等をテーマに意見交換会を継続するとともに、新カリキュラムに該当する1から3年生を対象としたアンケート調査を継続する。

(2) 学務システムの運用

学務システムによる成績報告書登録が開始となり、問題なく活用できるか、検証するとともに、学生が経年的な自己評価に基づき成長と課題を明確化できるシステムの整備を進めていく。

令和5年度 実習委員会活動報告

1. 委員会構成

委員：◎酒井 禎子、○原 等子、関 睦美、西川 美樹、安達 寛人、東條 紀子、谷内田 潤子、
相澤 達也、伊藤 ひかる
事務局：内山 永遠

2. 活動概要

(1) 実習懇談会ならびに実習指導者研修会の開催

令和5年5月31日(水)に実習施設18施設46名、教職員43名の計89名が出席し実習懇談会を開催した。また、同日、「新カリキュラムにおける実習指導」をテーマとし、実習指導者研修会を開催、学外者・教員あわせて計94名が参加した。研修会では、大久保学部長よりテーマに即した話題提供がなされた後、実習領域や実習施設をふまえて10グループに分かれ、新カリキュラムの実習概要を共有するとともに、実習指導の現状や今後の課題について意見交換を行った。

(2) 領域別実習の実習配置表作成とオリエンテーションの企画・運営

令和5年度3年次領域別実習配置表の作成を行い、令和5年6月14日(水)に領域別実習の全体オリエンテーションを実施した。

(3) 総合実習希望調査と各コースの学生配置表作成

令和6年度総合実習に向けて、令和5年12月25日(月)に全体オリエンテーションを実施した。学生の希望調査をふまえて各コースへの学生配置を行った。

(4) 看護技術到達度リストの配布・集計ならびに改訂

看護技術到達度リストの1年生への配布を行うとともに、総合実習終了後に回収・集計をし、学生の技術習得状況を把握した。また、新カリキュラムに即した項目等の改訂を行った。

(5) 「臨地実習の概要」と実習要項の印刷

各実習要項を300部ずつ印刷した。「臨地実習の概要」を見直し、必要な改訂を行った。

(6) 継燈式開催における支援

7月15日(土)に第1・2ホールで2023年度継燈式を開催した。学生実行委員会を中心に企画・運営を行い、2年次生89名、保護者82名、教職員23名が参加した。

(7) 実習における新型コロナウイルス感染防止対策

新型コロナウイルス感染症が5類に移行した後も依然、臨地実習施設における感染管理を要していることから、令和5年5月8日付で「実習に伴う新型コロナウイルス感染防止対策について」「実習前の行動に伴う臨地実習停止に関する申し合わせ(教員用)」を改定した。

(8) その他

- ・1年生のユニフォーム購入支援や実習物品の購入を行った。
- ・各実習の進捗と実習環境整備の確認を行い、円滑な実習実施を支援した。
- ・「上越地域看護学実習連絡調整協議会」を9月21日(木)に開催した。

3. 次年度に向けた課題

新カリキュラムにおける実習指導体制の充実に向けた実習懇談会・実習指導者研修会の企画と開催並びに実習配置の調整を行うとともに、引き続き、実習における感染対策と技術到達度リストの効果的な活用に

向けた学生への指導が課題である。

1. 委員会構成

委員：◎高柳 智子、○エルダトン サイモン、渡辺 弘之、山田 恵子、野口 裕子、川島 良子、
坂田 智佳子、早藤 夕子、青山 拓夢
事務局：亀井 宣幸、山崎 潤一

2. 活動概要

(1) 学生自治会活動支援

① 運動会開催支援

6月17日(土)に自治会役員の運営により運動会(例年は球技大会)が開催された。学生の参加人数は119人であり、ドッジボール、玉入れ、借人競争、全員リレーなどの種目で実施した。例年は体育館のみでの実施であるが、玉入れ、借人競争、全員リレーは屋外で行ったため、自治会費で水分補給用の飲料を購入するとともに、テントを設置するなど熱中症対策を行った。また、グラウンドはドクターヘリの着陸場として使用されるため、事前に事務局から当日グラウンドへの着陸はできない旨を関係機関に伝達した。来年度以降の開催内容に関しては、1年生が話し合っ決めていくこととなった。

② 桜蓮祭開催支援

11月5日(日)に「NEW ERA&Be Real」をテーマに桜蓮祭を開催した。今年度は、学生・教職員とその家族、卒業生の参加の下、対面で開催した。実行委員企画1、サークル企画5、教職員企画2、同窓会企画1の計9企画から構成され、2事業所による食品販売も行った。来場者数は267名であった。会計報告において、一部領収証の不備が報告され、次年度への予防策を立てた。次年度の桜蓮祭実行委員会を令和5年12月に立ち上げ、月1回実行委員会を開催し次年度の準備を行っている。予算案については、現在検討中であり企画案をもとに作成する予定である。

③ 自治会運営支援

新型コロナウイルス感染症が5類になったことに伴い、自治会の各種活動は対面で行った。4月上旬に会計監査、4月13日に新入生歓迎レセプション、6月上旬にサークル長会議にて予算決定、6月14日に自治会総会を開催した。

また、自治会室の整理整頓や自治会運営に係る文書の管理について指導を行い、文書管理のため文書保管用の保管庫を購入、設置した。次年度、自治会規約を変更して機密文書の保管と廃棄の規定を定める予定である。謝恩会の会計についても、謝恩会係に予算案の提出と会計報告を義務付け、予算の執行内容を明確に記録することとした。

(2) 学生との意見交換会

令和5年12月15日(金)16:30~17:50に学生との意見交換会を対面で開催した。出席者は学生17名、教職員36名であった。学年別の課題や、授業、大学生活への要望、さらに学習時間について話し合われた。話し合われた内容の要約版は、教授会資料として教職員で共有するとともに、学生にはどこカレ掲示板への掲載と学生用掲示板への掲示にて周知した。

(3) 学生生活実態調査

令和5年9月から10月にかけて、全学年を対象に学生生活実態調査を実施した。

調査はオンラインアンケート形式を用い、授業やどこカレなどで回答協力の周知を行ったが、全体の回答率は39.1%(昨年比-21.6%)に留まり、回答率の向上が今後の課題として明確となった。

調査の結果については大判ポスター(調査結果簡易版)に印刷し学内に掲示した他、学内ホームページでも公表を行った。

(4) 学生の地域交流支援・学生のボランティア活動支援

- ・4年ぶりに行われた高田祇園祭民謡流しについて募集を行ったが、学生からの参加希望は0名であった。大学運営側の判断として、学生が参加しないのであれば大学としての参加を見送ることとなった。開催日が実習期間である学年が複数あるため、次年度は事前に高田まつり委員の参加意向を確認し、大学としての参加を意思決定することとする。
- ・ボランティア募集依頼が2件(パーキンソン病友の会、オフラインキャンプ)あり、計10名の学生がボランティアとして参加した。

(5) 新入生オリエンテーション

新入生オリエンテーションは、4月7日(金)に学内でのアイスブレイキングとインディアカを、4月8日(土)に歓談と学内探検ツアーを実施した。新入生93名が参加した。歓談と学内探検ツアーのガイドとして上級生24名が協力した。参加者アンケートから、新入生同士の交流とともに上級生とも交流し、大学生活をイメージする機会となったことがうかがえた。

令和6年度の新入生オリエンテーションについても、令和5年度のアンケート結果を参考に企画した。

(6) 学修支援・学生相談・教育環境の向上他

- ・オフィスアワーウィークを2回開催した。1回目は6月5日(月)～6月9日(金)に実施し学生3名の訪問があった。2回目は7月3日(月)～7月7日(金)に実施し、学生7名の訪問があった。昨年度は51名の利用があったが今年度は10名にとどまり、普段のオフィスアワー活用にも繋がっていない現状がある。次年度以降の取り組みについて、今後検討が必要と考えられる。
- ・学生相談関係者会議を6月と2月に2回開催し、学生相談に関わる学年担任やカウンセラー、保健室保健師などとともに学生の抱える問題を共有する機会を設けた。授業における配慮の申請フォーマットを修正した。

(7) 各種奨学金等

奨学金受給に係る申請等の手続きを行うとともに、必要に応じ奨学生への指導を行った(受給者合計188名)。

- ・日本学生支援機構：1年 43名、2年 45名、3年 45名、4年 28名
前年度の成績(GPA)を基準に対象者を選別し、「警告」の対象となった奨学生に対し、学年担任より個別指導を行った。(対象者4名)
- ・その他の奨学金：1年 8名、2年 4名、3年 6名、4年 9名

3. 次年度に向けた課題

(1) 学生自治会活動(桜蓮祭の対面開催、会計・文書管理などの支援)

① 桜蓮祭の対面開催

新型コロナウイルス感染症流行により、令和2～3年度はオンライン開催、令和4年度は学生・教職員のみの対面開催とした。今年度は新型コロナウイルス感染症が第5類に移行し、昨年度の参加対象者に学生・教職員の家族と卒業生を加えた対面開催とした。今年度の開催方法については、地域の方々が桜蓮祭を心待ちにしており参加者制限を設けない開催を検討してほしい旨、学長より申し入れがあった。桜蓮祭実行委員会で検討した結果、今年度は参加者を限定する方針で準備が進んでおり、次年度にコロナ禍以前の開催方法に戻せるよう、今年度開催以降に準備していくことで学長に了承を得た。一般客を招く桜蓮祭は4年ぶりであることに加え、感染リスクについても未だ予断を許さないことから、実行委員会の過度な負担にならないよう配慮するとともに安全な開催に向け、サポートしていく必要がある。

② 学生自治会活動支援

会計・文書管理など不十分な点が散見し指導を要したが、次年度も引き続き、学生が安定した自治会運営ができるよう支援していく。

(2) 学生生活実態調査の回答率向上のに向けた取り組み

調査方法を紙媒体からオンラインに変更して以降、回答率は低迷している。質問項目の厳選・削減や調査協力の周知強化を行ってきたが、今年度は昨年度よりも回答率が低下し、特に1、2年生の回答率が低く認知度の低さがうかがえた。本調査結果は学生との意見交換会の検討資料にも活用しており、学生支援を改善していく上で貴重なデータであるため、調査の意義を学生に十分理解してもらい結果にも関心を持てるよう、取り組みを工夫していく必要がある。

(3) 「授業における配慮の申請」試行延長と評価

「授業における配慮の申請」の検討・評価については、学生相談関係者会議で行っているが、学生委員会が本会議を開催していることから、改定版作成(第2版)を本会議に参加している学生委員で担った。次年度1年間は第2版を試行していくこととなったが、運用上の課題(障害を理由とする差別の解消に関する教職員対応要領による配慮申請との運用区分、規程上の所在がないまま試行している状態など)も山積していることを学生相談関係者会議でも確認済みであり、併せて検討していく必要がある。

1. 委員会構成

委員：◎石井 角保、○葛城 美徳、樺澤 三奈子、徐 淑子
事務局：岡田 優佳、廣瀬 志保子

2. 活動概要

(1) 教員の研究計画立案能力向上に向けた支援（Research Proposal Consultation 以下「R.P.C.」）について

本年度科研費のスケジュールが前倒しとなったことを受けて、前年度よりも早期に進め、応募した1名が支援を受け、令和6年度科学研究費助成事業の交付内定を受けた。また、令和6年3月15日にR.P.C.のコンサルタントを育成するための研修会を行い、29名の参加があった。さらに、当日不参加者5名より研修会の動画視聴の申し込みがあり対応した。研修会終了時点で、R.P.C.の次年度以降のコンサルタント就任の内諾を12名から得た。令和5年度当初は3名であったが、令和6年度以降コンサルタントの大幅な増員が見込まれる。

令和6年3月5日午後に講師・助教・助手を対象とした研究計画立案に関わる学習機会を提供するR.P.C CAFÉを開催し、6名の参加を得た。参加者自身の研究遂行に関わる様々な問題を共有し、その克服に関しファシリテーターも交えたグループディスカッションを行った。事後アンケートの結果、参加者からは高い満足度を得られた。

(2) 研修会の開催について

令和6年3月5日午前に研修会「優れた研究計画書の作成～研究助成金獲得に向けて～」を開催した（午後はR.P.C. CAFÉ、(1)参照）。今年度新規に科研費が採択された学内の3名の教員が講師となり、科研費申請書作成上のノウハウについて講演が行われた。参加者した教員は28名であった。事後アンケートの結果、参加者の高い満足度がうかがわれた。

(3) 科研費申請に関する説明会の開催について

令和5年7月26日に科研費申請に関する説明会を開催した。後日希望者が視聴できるようにするため、説明会の録画も行なった。

(4) 学内共同研究助成について

- ① 令和5年度学内共同研究助成を募集した結果、1件の応募があった。委員会にて審査を行い、委員会意見として学長へ報告し、1件について研究助成を行うことが決定された。
- ② 令和6年2月15日に研究成果報告会を開催し、42名の参加があった。令和4年度採択の1件と、令和3年度採択で研究期間延長が認められていた1件について報告が行われた。その後、この2件については提出期限内に研究成果報告書の提出を受けた。

(5) 研究活動の活性化に資する本学図書館蔵書の展示について

図書委員会との合同企画「研究活動のためのおすすめ資料展示」を令和5年6月21日から令和5年9月2日まで実施した。研究活動推進のための関連図書を図書館に展示・紹介し、44点の貸し出し実績があった。また、既存の図書に加えて研究能力向上や研究助成金獲得に資する図書を新規に9冊購入した。

(6) Researchmapへの登録促進と学内HPへのリンク作成について

入試広報委員会と協力して、大学HP内の各教員の紹介ページからリンクを作成してあるResearchmapに業績等を記載して内容の充実をはかるよう要請を行った。

(7) 英語論文投稿支援制度について

学内英語教員2名の協力のもと、英語論文投稿支援制度の運用を行い、31件の利用があった。

(8) 研究相談アワーについて

若手教員が研究について困っている事柄について個別に相談する「研究相談アワー」を新たに企画し、10月から半年間で4名が制度を活用した。

(9) 研究成果公表制度について

特筆すべき研究成果をメディア向けにプレスリリースしたり本学ホームページに掲載したりする制度を、研究成果公表制度として2月に確立した。

(10) 令和5年度・令和6年度科研費の新規申請件数と採択件数について

(2024年3月31日現在)

区 分	R5 申請件数	R5 採択件数	R6 申請件数	R6 採択件数
基盤研究 (S)	0	0	0	0
基盤研究 (A)	0	0	0	0
基盤研究 (B)	0	0	0	0
基盤研究 (C)	12	4	16	5
挑戦的研究 (開拓)	0	0	0	0
挑戦的研究 (萌芽)	0	0	1	0
若手研究	3	1	2	1
合 計	15	5	19	6

3. 次年度に向けた課題

研究支援制度としては令和5年度までで十分確立されたと考えられる。次年度は新制度も含めて着実に運用し、改善すべき点を検討していく。

1. 委員会構成

委員：◎谷本 千恵、○石原 千晶、酒井 禎子、関 睦美、山岸 美奈子、久保野 裕子
事務局：山崎 明彦

2. 活動概要

(1) 学生による授業評価アンケート

例年と同様に前期と後期に各 1 回ずつ講義・演習、実習の全科目について授業評価アンケートを実施した。今年度よりアンケートへの回答システムがどこカレ (Moodle) から学務システムへ変更された。

【全体集計結果】

前期科目の総合評価 (満足度) は講義・演習科目 4.6 ± 0.6 、実習 4.8 ± 0.5 で、いずれも法人計画目標値(4.2)ならびに昨年度(4.4 ± 0.8 、 4.4 ± 1.1)を上回った。

【回答率向上の取組】

昨年度に引き続き、教員と学生への協力呼びかけの徹底、QR コードによるスマートフォンからの回答方式の導入、全科目の回収率の教員へのフィードバック等の取組を行った。加えて、学生と教員が円滑に新システムに適応できるようガイダンスや学年メール、どこカレ掲示板等を活用し周知を徹底した。また新システムによるFDアンケートが円滑に行われるよう学務システム担当の教務係と連携し、作業手順と役割分担についてマニュアル化した。

(2) FD 研修会

2023 年 8 月 25 日 (金) 14:00~16:00 に慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科特任教授の岩本隆先生を講師に迎え、「DX の基礎知識と看護教育への応用」をテーマとした研修会を実施した。研修会は Zoom により行い 39 名の教員が参加した。後日オンデマンド配信も行った。事後アンケートでは、テーマや内容に関心が高い教員が多かったことが伺われ、「やや難しかった」という意見もあったが、「刺激を受けた」「引き続き学んでいきたい」等、DX の理解と関心が高まった研修となったと考えられた。

(3) 授業公開

2023 年 10 月 16 日 (月) ~11 月 10 日 (金) の 1 か月間を授業公開期間とし、当該期間に開講している外部講師以外の全ての科目を公開するように働きかけた。賛同した教員により、16 科目 45 コマが公開され、昨年度よりも科目数、コマ数ともに増加した。授業公開期間終了後、全教員を対象とした事後アンケートを実施した。企画については「良かった」「まあまあよかった」を合わせて 100%、また企画内容については、今年度から実施した「事前申し込み不要、中途参加・中途退出可」に関して「良かった」がほぼ 100%であり、参観者が参観しやすい状況になったと考える。その他自由記載には「実習中であり多忙で参観したい授業に参観できなかった」との意見や、授業を公開した教員からは「ポジティブな意見をもらってモチベーションになった」などの意見もあった。

(4) 広報誌発行

昨年に引き続き本学のFDの取り組みを保護者に向けた内容で構成し、3月8日に第7号を発行した。今年度は発行時期を12月から3月に移行したため、後期で行ったFDの取り組み内容についても記事に十分反映させることができた。後援会だよりとともに郵送したため、郵送費は発生しなかった。

(5) 「本学の強みと魅力について考える会」の開催

2024 年 3 月 19 日 (火) 14:30-15:30 に、本学の独自性や強みを明らかにすることを目的とし、教職員でグループワークを行った。出席者は 42 名 (教員 37 名、事務局 5 名) で、学長・副学長は全体を見守った。本学の強みとして「単科大学なので教員と学生の距離が近い」、「学生間のつながりが強い」「実習施設が近い」「公立のため学費が安い」「自然豊かな環境で学習に集中できる」などが挙げられた。グル

ープの代表者による発表に加え、各グループのまとめの写真を共有フォルダに保存し、成果を全体で共有した。

3. 次年度に向けた課題

(1) 学生による授業評価アンケート

2020年度に紙媒体での調査からオンライン調査（どこカレ）に移行して以来、回答率の大幅な低下が続いていることが課題である。特に非常勤講師の科目や特定の学年において回答率の低さが顕著であるため、今後これらに対する改善策を検討する必要がある。

後期の科目がすべて終了するのは2月後半であるので、集計作業が終了するのは3月末となり、結果のフィードバックは次年度（4月）となる。

(2) FD 研修会

研修会の開催時期や開催方法（Zoom）は、参加しやすく、教員のニーズにあっていたと考えられるが、研修会の所要時間については60～90分間での開催も視野に入れて検討する必要がある。また、アンケートで得られた意見から、他領域の講師や研修方法としてグループワークを希望する意見も考慮し、多様な研修企画を検討していくこと、今後の研修テーマとして個々の教員の教育実践力を高める内容や、本学の大学全体の教育改革と今後の大学運営に関わる内容などを考慮することが課題である。

(3) 授業公開

授業公開の期間設定や、全教員から授業公開の協力が得られるように働きかけることが課題である。

(4) FD 通信

FD 通信は写真を多く用いていることから、光沢紙の使用が適していると考えるが、予算の都合上今年度も普通紙での発行となった。今後も魅力ある紙面づくりのために紙質の検討が必要である。

(5) 本学の強みと魅力について考える会

今回のグループワークの成果を、大学のPRや大学の将来像（ビジョン）にどのように活かしていくかについて検討が必要である。

1. 委員会構成

委員：◎高林 知佳子、○原 等子、佐々木 三和、野口 裕子、川島 良子、船山 健二、八巻 ちひろ、
谷内田 潤子、石岡 幸恵
事務局：山崎 潤一

2. 活動概要

(1) 国家試験対策の企画および実施について

① 国家試験対策講義

国家試験対策講義は、昨年度の対策講義終了後に学生から挙げられた意見をふまえ、今年度も7月～10月の実施とした。その内容は、23回にわたる講義を行い、かつ、学生が講義に集中できるよう1日2コマ限定とした。さらに、また、学生の不得手領域や保健師国家試験科目のさらなる充実を図り、科目構成を見直して実施した。また、ゼミ担当教員と国家試験対策・就職委員が常に連携しながら学生の学習状況を把握し、必要に応じて学習指導を行った。国家試験のガイダンスにおいては、3年生向け看護師国家試験のガイダンスの導入編、4年生向け保健師国家試験のガイダンス、3年生向け看護師国家試験のガイダンスの対策編を実施した。さらに学生への国試対策指導を充実させるため、本学教員を対象としたセミナーを実施し、出題基準の改定、最近の国家試験の動向や出題傾向などに関して共通理解を深めた。

② 国家試験模擬試験のサポート

業者模試および委員会作成の模試を、看護師は計9回、保健師は計4回、助産師は計3回実施した。模試の結果は、ゼミ担当教員および国家試験対策・就職委員会で継続的にフォローし、必要に応じて学習指導を行った。

③ 国家試験激励会および国家試験受験状況及び結果

今年度卒業生全員（94名）が看護師国家試験を受験した。保健師国家試験は80名が受験、助産師国家試験は4名が受験した。

国試受験者が受験票を受け取りに来る機会を使い、受験生を激励する会を開催した。

今年度の国試結果は以下のとおりである。

		受験者数	合格者数	合格率	全国合格率 (新卒のみ)	全国合格率 (既卒含む)
看護師	新卒	94名	92名	97.9%	93.2%	87.8%
保健師	新卒	80名	78名	97.5%	97.7%	95.7%
助産師	新卒	4名	4名	100.0%	99.3%	98.8%

(2) 進路指導について

昨年度のキャリアガイダンスでのアンケート結果で明らかになった学生のニーズを考慮し、学生がキャリア形成の意義を理解し自らの進路が決定できるよう学年別キャリアガイダンスを実施した。各キャリアガイダンスの事前事後にはアンケートを実施した。1年生に対しては、4年生や大学院生に自身の就職活動の経験を語ってもらう機会を設け、進路を決定した先輩との情報交換やアドバイスが受けられるよう工夫した。2年生に対しては、本学の卒業生（卒後2～3年の県内外で活躍する看護師、助産師、保健師、養護教諭）と本学大学院生によるスピーチを聴き、その後質疑応答を行った。3年生に対しては、ガイダンス後に4年生の就職活動経験を聞きながら質問に答えてもらう場を設け、直前の就職活動への具体的な不安や行動につながる相談や助言を得るピア活動の機会を提供した。4年生に対しては、学生が集まりやすい卒業式予行練習後の開催とし、就職後のリアリティショックを緩和し、円滑に職場に入ることを支援するため、就職後1年程度の卒業生による講演会及び意見交換会、ナースセンター職員による卒後研修、キャリアアップ、再就職支援の説明を行った。

また、月1回の委員会では、進路（就職・進学）届の確認や委員同士の情報交換を行い、進路状況に課

題がある場合はゼミに持ち帰り、学生対応を行った。また、年度初めの教学オリエンテーションにおいてはそれぞれの学年に応じた説明を行い、国家試験対策・就職委員会メンバーを紹介するとともに、各学年掲示板 (Moodle) において掲示し、学生が相談しやすい体制を周知した。

今年度の進路状況は、就職 88 名 (県内 48.9%、県外 51.1%)、進学 6 名 (県内 33.3%、県外 66.7%) であった。

(3) 求人訪問対応と進路情報の提供

昨年度は、新型コロナウイルス感染症対策により、直接来学しての求人訪問が 13 件と少なかったが、今年度は 37 件の求人訪問があり、求人訪問に来校する施設の責任者、就職担当者とは、その都度、本学学生の就職に関する情報の提供や、先方との情報交換を行った。

(4) 進路状況調査

進路ガイダンス、国家試験手続き、ゼミを通じて学生に周知した。

(5) 就職活動実態調査

4 年生を対象として就職活動に関する調査を実施した (回収率 61.7%)。今期の 4 年生の就職活動は、8 月までには就職試験を受けており、特に県外就職を希望する学生は 4 月から採用試験が開始されていること、受験先選択時に困ったことがあった、やや困ったことがあったと回答した学生が 10 名であった。また、委員会のサポートを活用できている学生もいる一方で、そうではない学生もいることが示唆された。

3. 次年度に向けた課題

- ・学内の看護部長経験者による面接サポートは学生にとって有用であり、今後も積極的に活用していく。
- ・国家試験対策のボトムアップ、気がかりな学生への対応方法、受験間近になってからの成績低下者への対策について引き続き検討していく。
- ・各学年のキャリアガイダンスの周知と参加の促しについて工夫する。
- ・国家試験対策講義後のアンケート結果をふまえ、開催時期、科目等について協議しながら、看護師保健師国家試験対策講義の周知を積極的に行う。

令和5年度 入試・広報委員会活動報告

1. 委員会構成

委員：◎中村 義実、○堀江 正男、○伊豆上 智子、石井 角保、永吉 雅人、西川 美樹、舩山 健二
前川 絵里子、相澤 達也、伊藤 美由紀、青山 拓夢、池田 よし江
事務局：秋山 智章、関口 詩織、宮崎 達也

2. 活動概要

(1) 入試実施本部会議に関する事項

【令和6年度入学試験の実施】

学校推薦型選抜・社会人選抜（11/18）、一般選抜〔前期日程（2/25）、後期日程（3/12）〕を実施した。追加合格者1名を含め、総計100名が選抜され、定員と同じ95名（辞退者5名）が入学手続きを行った。推薦の志願倍率は1.55倍（実質倍率1.48倍）、一般の志願倍率は4.25倍（実質倍率2.14倍）だった（前年度、前々年度を含めた詳細は下表参照。）。

推薦及び一般選抜従事者のための学内説明会（推薦11/10、一般前期・後期2/7）、入試実施本部会議における合否判定（推薦11/29、前期3/1、後期3/19）、合格発表（推薦12/1、前期3/4、後期3/21）を実施した。その他、科目等履修生入学試験、聴講生選考の概要の提案を行った。

令和6年度入学者選抜実績（令和6年3月31日現在） **R6(上段)/R5(中段)/R4(下段)**

	募集人員 (人)	志願者数 (人)	志願倍率 (倍)	受験者数 (人)	受験率 (%)	受験倍率 (倍)	合格者数 (人)	実質倍率 (倍)	入学者数 (人)
							(辞退者数)		
学校推薦型 選抜	40	62	1.55	62	100	1.55	42	1.48	42
	40	65	1.63	65	100	1.63	40	1.63	40
	35	80	2.29	80	100	2.29	36	2.22	36
社会人選抜	若干名	1		1			0		0
	若干名	0							0
	若干名	0							0
一般選抜 (前)	45	105	2.33	94	89.5	2.09	47 (4)	2.00	43
	45	68	1.51	61	89.7	1.36	45 (3)	1.36	42
	50	233	4.66	212	91.0	4.24	52 (7)	4.08	45
一般選抜 (後)	10	129	12.9	28	21.7	2.80	10 (1)	2.80	9
	10	141	14.1	24	17.0	2.40	14 (4)	1.71	10
	10	263	26.3	86	32.7	8.60	15 (2)	5.73	13
一般選抜 (計)	55	234	4.25	122	52.1	2.22	57 (5)	2.14	52
	55	209	3.80	85	40.7	1.55	59 (7)	1.44	52
	60	496	8.27	298	60.1	4.97	67 (9)	4.45	58
追加合格							1		1
							1		1
							1		1
総計	95	296	3.12	184	62.1	1.94	100 (5)	1.86	95
	95	274	2.88	150	54.7	1.58	100 (7)	1.50	93
	95	576	6.06	378	65.6	3.97	104 (9)	3.63	95

(2) 大学入学共通テストの実施に関する事項

大学入学共通テスト（1/13、1/14）を実施した。試験従事者説明会およびリスニング説明会（12/22）を実施した。

(3) 入試問題の作成、管理、実施に関する事項

「入学者選抜におけるミス防止マニュアル」に基づいて各入学試験を実施した。チェック体制を強化し、ミス防止に万全を尽くした。大学入学共通テストに関しては、問題の受け取り、仕分け、保管などを厳正な管理のもとに行い、全ての業務に関して厳正かつ適正に行った。いずれの試験においても、問題ミスや大きなトラブルが発生することなく無事に終了した。

(4) 学生募集に関する事項

① オープンキャンパス、出前講義、大学説明会、学内見学について

対面型オープンキャンパスは、8/4（金）、8/5（土）、9/9（土）の計3回実施し、それぞれ、158名、162名、86名（うち高校生98名、99名、50名）が参加した。

Web オープンキャンパスは、4月から常時ホームページ上で開設し、模擬講義、授業風景のコンテンツを拡充し、閲覧者数は3,213名（4/1～2/25）に達した。

出前講義は、25講義の登録があり、年度を通して延べ8回の講義が実施された。進学説明会には19回の参加（うちオンライン参加5回）、学内見学の受入れは3回行った。

② 高校訪問について

高校訪問を9月～10月にかけて計49校を訪問した。上越7校、中越18校、下越22校、長野県2校にて、本学のPR、ならびに高大連携の強化を図った。

③ 夢ナビへの参加について

前年度に引き続き本学教員2名が大学の研究・教育をオンラインで発信する「夢ナビ」プログラムへ参加した。7月の講義ライブ（講義動画を視聴）では、計98名、研究室訪問（講義動画を見てZoom上で直接教員に質問する）では、計95名の高校生が参加した。

④ 大学案内・広報誌の作成

受験生用に大学案内（キャンパスガイド）を作成し5月に発行した。また、学生・一般向けに広報誌（ポルティコの広場）第41号を10月に発行した。

⑤ 大学のホームページに関する事項

入試関連の情報を随時更新するなど、大学ホームページの管理及び運営を行った。SNS（インスタグラム）の大学アカウントでは、授業風景の他、運動会、継灯式、オープンキャンパス、桜蓮祭、海外留学等の大学行事を紹介した。

3. 次年度に向けた課題

令和6年度入試（以下R6）では、志願者数が急激な落ち込みを見せた前年度からの回復傾向が示されたが、依然堅調とは言えない状況にある。志願者数に着目すると、R3→4→5→6の順で、推薦は67→80→65→62名と減少が続き、一般前期は66→233→68→105名と前年度より増加した。一般後期は117→263→141→129名と減少が続いたが、受験者数は前年度を上回った。結果として、実質倍率の総計は、R5→6で1.50→1.86倍と上昇を示した。また一般前・後期とも、R5に下降した合格最低点の得点率がR4レベルに回復したことは成果と言える。

入学者は県内82名、県外13名で県内比率86.3%は過去最高値だった（R3→4→5：73.4→66.3→78.5%と推移）。R5に導入した定員変更（推薦5名増、一般前期5名減）の影響が、R5以上に強く示されたと考えられる。

県内82名入学者数の内訳は、上越28、中越22、下越32名で、それぞれの割合は32.9、28.0、39.0%だった。R3→4→5の数値（上越：22.5→20.6→17.8%、中越：32.5→33.3→31.8%、下越：45.0→46.0→45.2%）と比較すると、上越の増加が顕著で、中越・下越とも減少した。とりわけ推薦では、R5→6で、上越5→17名（12.5→40.5%）、下越24→13名（60.0→31.1%）と勢力図が大きく変化した。

令和6年度の入試実績の向上は、上越地区受験生の志願者増に救われた側面が強いとも言える。今後、上越地区の高校との連携をより強化していくとともに、県内看護系の新設2大学が県内の入試全体にもたらした影響をより精密に分析していく必要がある。

公立大学としての強みを活かし、新潟県全体の医療看護の発展に向けて貢献する教育実践、それらの営みを主軸に位置付けていく入試広報活動が、本学への信頼を揺るぎないものにしていくと考える。

1. 委員会構成

委員：◎堀江 正男、○石田 和子、山田 恵子、久保野 裕子、東條 紀子
事務局：亀井 宣幸、吉原 貴子

2. 活動概要

(1) 管理運営

① 利用統計

入館者数、貸出冊数、文献依頼件数、上教大及び上越市立図書館との連携による文献複写・現物貸借数、データベース及び電子ジャーナル利用回数などの利用統計を月別にまとめ分析した。

② 各種協議会・研修会等への参加

- ・新潟県大学図書館協議会総会（オンライン）（吉原専門司書）
 - ・新潟県大学図書館協議会研修会（オンライン）（安田囑託員）
 - ・公立大学協会図書館協議会 総会（オンライン）（吉原専門司書）
 - ・公立大学協会図書館協議会関東・甲信越地区館会議（書面審議）
 - ・上越市立図書館・上越教育大学附属図書館との実務担当者会議（吉原専門司書）
 - ・千葉大学アカデミック・リンク/ALPS プログラムシンポジウム（オンライン）（吉原専門司書）
 - ・オープンアクセスリポジトリ推進協会ウェビナー（オンライン）（吉原専門司書）
- 上記のほか、各種電子リソース講習会に図書館職員が参加した。

③ 三者連携事業

上越教育大学附属図書館、上越市立図書館と本学図書館との三者連携事業として、以下の取組を実施した。

- ・上越市立図書館との蔵書交換展示会
期間：5月29日～7月24日
交換展示図書：100冊
- ・上越教育大学附属図書館との蔵書交換展示会
期間：10月2日～11月30日
交換展示図書：100冊
- ・「どこでも返却預かり」9月開始
- ・図書館資料の相互貸借、レファレンス
- ・おすすめブックリストの作成

④ 蔵書点検

図書館2月14日～2月20日、研究室1月12日～26日に実施した。

⑤ 電子ジャーナル及びデータベース契約の見直し

大幅な値上がりが見込まれる電子ジャーナル及びデータベース契約について、利用状況、利用者ニーズ及び費用対効果等を確認した上で、契約を見直し、1タイトルの電子ジャーナルを削減した。

また、利用者ニーズをより正確に把握するため、学内教員及び大学院生にアンケート調査を2回実施し、うち1回は、各領域の希望を聴くための意見交換会として3月4日に開催した。

(2) 図書館のちからプロジェクト

図書館の利用促進を図るプロジェクトとして、新入生歓迎イベント（5月22日）を実施した。1年生1名の参加があった。イベント直前の1年生の授業がオンラインで行われたため登校者が少なかった。上級生からの説明が有意義であった。

(3) 広報活動

「新潟県立看護大学図書館 Library Newsletter」No47 を11月に発行した。学生・教職員のほか県内

大学図書館・病院を中心に81箇所に配付した。

(4) 図書館ホームページ

教員推薦図書「おすすめの一冊」として、学内教員に原稿執筆を依頼し掲載した。

(5) 図書購入

① 教員選書図書及び推薦図書

予算 630,000 円で選書図書及び推薦図書を募った。結果、図書・DVD146 冊購入した。

② 学生リクエスト図書

学生からのリクエストは無かった。

③ ブックハンティング (11月10日)

学部生5名が市内の書店で直接選書を行い47冊購入した。購入した図書は学生作成のPOPを付けて館内展示した。

(6) 雑誌購入

通年で利用状況調査を実施し、その結果に基づき購読雑誌の見直しを行った。

(7) 蔵書の更新・除籍に関すること (R6.2月末現在)

① 寄贈図書：図書153冊、DVD1巻

② 除籍：図書337冊

(8) リポジトリ

リポジトリへの登録を全教員に呼びかけ、さらに学会誌に論文を発表した教員に対して個別に登録を依頼した。その結果、学術論文は7件登録し、累計70件となった。また、博士論文1件、本学紀要論文3件、学内発行物を7件登録した。

(9) その他

① 新型コロナウイルス感染症対策としての利用制限見直し

- ・新型コロナウイルス感染症の5類移行を踏まえ、閲覧席利用制限及び学外者利用制限を解除する等の見直しを行い、入館者数の増加に努めた。

(令和5年度入館者数：18,928人(令和4年度：10,472人))

② 企画展示

- ・研究推進委員会との合同企画展示

図書の展示あるいは蔵書紹介をとおして、研究計画策定、ことに科研費調書作成に資する情報の共有や、意欲の喚起を図るため、6月21日～9月2日まで研究推進委員会との合同企画展示を行った。

- ・認知症を知ろう！世界アルツハイマーデー

「認知症の人と家族の会」との共催で「認知症を知ろう！世界アルツハイマーデー」の展示を8月23日～9月30日に実施した。

③ その他

新入生に向けた「看護大生のためのスタートブック」のリストを印刷配布した。

3. 次年度に向けた課題

- ・電子ジャーナル及びデータベース契約について、アンケートおよび意見交換会の結果を踏まえ、ニーズに合った契約内容となるよう見直しを行う。
- ・新規購入図書のスペースを確保するため、古い雑誌、古い図書の除籍をさらに進める。
- ・図書館のちからプロジェクトを今後も継続する。

1. 委員会構成

委員：◎小長谷 百絵, Elderton Simon, ○小林 綾子, 関 睦美
事務局：亀井 宣幸, 吉原 貴子

2. 活動概要

(1) 新潟県立看護大学紀要第13巻発行

2024年3月の発行に向け年間計画を4月に立案し、本学大学院ガイダンス、教授会、本学ホームページで原稿を募集した。昨年、投稿原稿の査読後再提出期間を2週間から3週間に変更したことに伴い、6月12日(月)から7月10日(月)までを投稿期間とした。

期間内に3編の投稿があり、本学紀要査読要項に従って査読者を選出して採否を検討し、3編の論文(報告2編、資料1編)の掲載を決定した。紀要第13巻は電子ジャーナルとして発行するため本学リポジトリ(にこナース)に登録して令和6年3月6日に公開した。

(2) 新潟県立看護大学紀要投稿要項の改定

令和4年度にAPA方式に基づき紀要投稿要項の大幅な改訂がなされ、本年度は2023年3月に出版された「APA論文作成マニュアル第3版(医学書院)」におけるp236～p390を参照し改定を行なった。

(3) 新潟県立看護大学紀要査読要項並びに投稿要項の改定

本学の研究活動推進を受け紀要への投稿論文の増加を目的として、原稿種類(報告、資料)のそれぞれの枚数を増やし、査読後の修正期間内での著者による原稿修正を可能にした。

(4) その他

令和5年1月から12月の本学紀要(第1～12巻)のダウンロード数は18,584件だった。

3. 次年度に向けた課題

新潟県立看護大学紀要第14巻を発行予定である。投稿原稿の掲載率は向上しているが、投稿数と投稿原稿枚数の増加に伴い予算内での発行が課題となる可能性がある。例年どおり投稿原稿を募集し、査読者と投稿者の査読過程における対話の中で質の向上を目指したい。

令和5年度 教学委員会活動報告

1. 委員会構成

委員：◎石田 和子、○常盤 洋子、高柳 智子、大久保 明子、岡村 典子、伊豆上 智子、
高林 知佳子、谷本 千恵、小長谷 百絵
事務局：亀井図書学生係長 星野主査

2. 活動概要

(1) 年間活動計画

令和5年度大学院の教務運営に関して研究科委員会と連動した年間活動計画を立て活動した。また、本委員会の記録については、亀井図書学生係長と星野主任が交互に担当することとされた。

令和5年度の教学委員会内の役割分担を検討した。以下のとおり決定した。

役 割	担 当
教育環境整備	○石田教授 常盤教授
論文発表会（修士）	○高林教授 高柳教授
公開論文発表会（博士後期）	○石田教授 常盤教授 事務局
学生便覧	○岡村教授 伊豆上教授 小長谷教授 石田教授
シラバス	○伊豆上教授 谷本教授 小長谷教授 石田教授
時間割	○大久保教授 事務局
博士後期課程専任教員審査	○石田教授 高柳教授 常盤教授 小長谷教授 学長
大学院教育課程検討委員会	石田教授 高柳教授 常盤教授

(2) 教育環境整備

① 遠隔授業

大学院博士前期課程は、共通必修科目についてはオンライン授業（対面可）として、学生が不利にならないようにした。

大学院博士後期学生は入学者がなかった。2年生の科目は看護教育概論についてはオンライン授業とした。

② 大学院博士前期課程における教育研究組織の編成

ア 助産師コースの開設

令和5年度より開設準備を進めていた助産師コースについて、文部科学省より認可された。令和6年度からの開設に向け実習施設の確保など準備が進められた。

イ がん看護専門看護師コース（38単位）の更新

令和6年度にがん CNS 課程の更新申請を行うことから、申請書類作成に係る作業スケジュールや作業担当者の決定し、申請書類の整備を進めた。

イ 大学院博士前期課程9月修了（前期修了）

次年度開講の博士前期課程助産師コースについては、履修期間が2年間とされ長期履修制度は適用除外とされている。助産師コースの学生が2年間で修了できない場合、さらに1年間の履修が必要になり学生の負担が大きくなることから、前期修了の可否について検討し、博士前期課程に前期修了制度を導入することとした。

③ 大学院博士後期課程における教育研究組織の編成

ア 長期履修期間の短縮および9月修了について

博士後期課程の長期履修期間の短縮は、現行の規程では2年次の1月末までに申請することとされているが、2年次の1月末までに論文完成の見通しをつけて短縮を申請することは難しいことから、「2年次の1月末」に限らず短縮を申請できるように規程を改正することとした。また、博士後期課程についても前期修了制を導入することとした。

イ 大学院博士後期課程9月修了（前期修了）

博士前期課程において前期（9月）修了が承認されたことに伴い、博士後期課程においても前期修了の可否について検討を行い、博士後期課程も同様に前期修了制度を導入することとした。

④ 履修規定について

ア 履修規定の改正

令和6年度から院生が行う履修登録については学務システムで行うこととし、それに必要となる履修規程の改正を行った。

イ 博士後期課程「看護学教育論」「保健医療福祉政策論」の履修年次の変更

「看護学教育論」と「保健医療福祉政策論」は現在2年次履修科目であるが、研究計画書に取り組み始める2年次にこの2科目を履修することは院生にとって負担が大きいため、1年次履修科目とすることとした。

⑤ 大学院専門看護師コースの実習状況

新型コロナウイルス拡大により、がん看護専門看護師コースでは、がん看護学高度実践実習Ⅰが予定（10月）に予定通り行えた。それに伴い、がん看護学高度実践実習Ⅱはコロナ感染症が5類になったのを受けて神奈川県立がんセンターを実習施設として実習を再開した。令和6年2月に神奈川県立がんセンター1名、新潟県立がんセンター新潟病院2名に実習を実施した。がん看護学高度実践実習Ⅲ・Ⅳ・Ⅴは1名、予定通り行えた。老年看護専門看護師コースにおいては対象者はいなかった。

⑥ 大学院新入生および学年ガイダンス

入学式当日、博士前期課程1名に対してガイダンスを行い、同日、D2およびD3・M2生に対してもガイダンスを実施した。D3 M2生に対しては論文提出および審査日程の確認について資料を用いて説明を行った。なお、博士後期課程の新入生はいなかったためガイダンスは実施していない。

⑦ 大学院シラバス

博士前期課程及び博士後期課程におけるシラバスの見直しを行った。成績評価基準についても委員会にて見直しを行った。博士後期課程シラバスにおいて授業科目に英語表記を加えた。大学院博士前期課程の学生からシラバスは学務システムで確認できるように変更した。教学委員会シラバス担当から次年度シラバスの見直しを行い、学務システムにおけるシラバスの入力マニュアルを作成し入力を行った。入力上の不備が多く、再度内容の確認を行い必要な修正を行った。

⑧ 大学院学生便覧の修正

学生便覧においては、便覧担当教員と事務局教務係で協力し、不備な点などを点検し修正および加筆を行った。

⑨ 大学院時間割

博士前期課程において時間割に入力するのは基盤看護分野と共通基盤分野の科目とする。作成する際には以下の科目を優先し、他の科目が重ならないようにした。

前期 (4/1～9/30)	後期 (10/1～3/31)
看護学研究法…火曜日 1限	看護教育学…火曜日 1～2限
看護倫理特論…火曜日 2～4限	看護理論…火曜日 3限
看護管理学特論…金曜日 3限	臨床薬理学…金曜日 1～4限
	看護コンサルテーション論…金曜日 1～4限
	(病態生理学とフィジカルアセスメントは不定期の予定)

優先科目については時間割の完成後、誤操作によるデータの削除や置き換えを防ぐため、教務係が時間割のデータに編集制限をかける。また、完成後、教務係がカレンダーに転記する。

博士後期課程における時間割は、看護学研究法は土曜日 1～2時限開講とする。

(3) 学位論文審査および発表会

① 博士前期課程学位論文審査と論文発表会

博士前期課程学位論文提出5名（内訳は研究コース4名、CNSコース1名）あり、論文審査委員会を組織して論文審査・口頭試問を行った。結果、全員合格と認定され修了要件を確認して研究科委員会の審議を経て全員修了の運びとなった。

学位論文発表会は令和6年3月1日に行われた。今年度はオンラインでの発表は行わず、教職員、

大学院生のみが出席し、対面で実施した。

② 博士後期課程学位論文審査と公開審査

博士後期課程学位論文提出1名（内訳は老年看護学領域1名）あり、予備審査および本審査、博士論文公開審査を行った。その結果、全員合格と認定され修了要件を確認し研究科委員会の審査を経て全員修了の運びとなった。

(4) 高度な看護の専門性を高めるための教育

① 大学院生向け特別セミナーの開催

大学院特別セミナーの講師について、9月教学委員会で決定した講師は都合がつかなかったため、新たに大阪大学大学院 薬学研究科 仁木 一順 助教に依頼することとした。セミナーの実施日は令和6年2月27日(火)14:00、オンライン形式で行い、多数の参加があり好評であった。

② 大学院研究指導計画について

大学院生の指導の進捗を管理する必要性について説明があり、進捗を記録する「研究指導計画書および指導状況報告書」の検討を行い、作成した。この作成された「研究指導計画書および指導状況報告書」は令和6年度大学院入学生および在生も使用することとした。

③ 特任講師実践活動報告会の実施

令和5年10月21日に特任講師実践活動報告会を実施した。老年看護専門看護師1名およびがん看護専門看護師3名で行った。参加者は40名であり好評であった。

④ 令和6年度特任講師の選定

教学委員会にて4名（がん看護学3名、老年看護学1名）の特任講師を推薦し、研究科委員会で承認を得た。

(5) 大学院看護学研究科博士前期・後期課程を担当する教員選考

大学院博士前期課程および博士後期課程における専任教員選考基準の見直しを大学院教育課程検討委員会にて実施し、大学院看護学研究科博士前期課程・後期課程を担当する教員選考内規・大学院看護学研究科前期課程・後期課程を担当する専任教員の選考に関する申し合わせ資料の見直しを行い、大学院研究科委員会で承認を受け実施した。また、学院看護学研究科博士前期・後期課程を担当する教員選考を2月に実施していたが、定期は10月ごろとし、教員人事（新任・承認）においては採用人事と同時に大学院専任教員審査を行うこととした。

10月に大学院看護学研究科博士前期・後期課程を担当する教員選考審査を行ったが教員の希望する職位になることができず、大学院博士前期課程助産師コース開設に必要な教員が確保できなかったことがあり、学長および運営評議会にて承諾を得て、令和6年2月に第2回の学院看護学研究科博士前期・後期課程を担当する教員選考審査を実施した。

① 大学院看護学研究科博士後期課程を新たに担当する教員の選考

大学院博士後期課程を新たに担当する教員の選考に関する申し合わせに基づいて、博士後期課程専任教員審査委員会（神田学長、石田研究科長、高柳教授、常盤教授、小長谷教授）を開催し、博士後期課程研究指導教員1名、博士後期課程研究補助教員4名の選任について、研究科委員会で承認された。

② 大学院博士前期課程を新たに担当する教員の選考

大学院看護学研究科修士課程を担当する専任教員の選考に関する申し合わせに基づき教学委員会にて検討した。

3. 次年度に向けた課題

- (1) 社会人が学習しやすい環境を整える目的で、博士後期課程の「看護研究法」を土曜日開校とした。その評価を行う。
- (2) 社会人が学習しやすい環境を整える目的および学生確保に向けた取り組みとして博士前期課程の時間

割の検討（現在火曜日・金曜日・土曜日の1日）

- (3) 大学院博士前期課程がん看護専門看護師コース 38 単位の更新申請を6月までに行える準備をする。
（ワーキング）
- (4) 大学院論文博士における申請について、見直しを行う。
- (5) 大学院カリキュラムマップの作製を行う。
- (6) 大学院入試委員会と連携して、博士後期課程の面接評価基準の見直しを行う。

1. 委員会構成

委員：◎高柳 智子、○佐々木 三和、石田 和子、中村 義実、高林 知佳子、常盤 洋子、原 等子
事務局：星野 史

2. 活動概要

(1) 入学者の選考に関する事項

① 令和6年度大学院入学者の選抜試験の実施

大学院博士前期課程の入学者選抜試験：8月入試(令和5年8月31日)は5名が受験し全員が合格した(そのうち4名が入学手続きを済ませた。)。1月入試(令和6年1月25日)は8名が受験し上位7名を合格とした(合格者全員が入学手続き)。その結果、令和6年度の入学者は11名となった。なお、次年度開設の助産師コースは、学内推薦での志願者は0名、一般選抜での志願者は8月入試2名、1月入試1名であった(3名とも合格し2名が入学手続きを行った。)

大学院博士後期課程の入学者選抜試験：今年度より8月入試と1月入試の年2回の入試に変更した。8月入試(令和5年8月31日)は1名が受験し合格した(入学手続き)。1月入試(令和6年1月25日)は6名が受験し上位3名を合格とした(合格者全員が入学手続き)。

② 令和6年度科目等履修生入学者選抜の実施

令和6年度大学院博士前期課程と大学院博士後期課程の科目等履修生を募集したところ、大学院博士後期課程2名(2科目・1科目)の出願の希望があり、2名とも合格した。また、次年度より開始する、学部4年生対象の科目等履修制度については、志願者0名であった。この要因として、科目等履修生入学者選抜のタイムスケジュールでは出願資格審査が3年次看護学実習期間中であることが挙げられた。次年度からは学部生については、4年次前期の8月入試に準拠したタイムスケジュールに変更した。

(2) 大学院(博士前期課程・後期課程)入学定員充足と周知への取り組み

① 大学院説明会の実施

入学定員充足と大学院周知目的で、大学院博士前期課程と後期課程ならびに科目等履修に関する大学院説明会を、6月と10月に対面・オンラインの併用にて実施した。

第1回説明会では、大学院修了生2名による大学院での学びに関する体験談、大学院の概要説明・英語試験の解説・助産師コース概要説明・教員紹介・個別面談を行い、参加者は19名(うち5名はオンライン参加)であった。第2回説明会は、専門看護師実践活動報告会と同日開催で行い、参加者は15名(うち8名はオンライン参加)であった。

次年度開設の助産師コース学内推薦選抜説明会を第1回説明会同日の午前に行い、11名(2年生8名、3年生1名、4年生2名)の学部生が参加した。学部生科目等履修制度説明会を第2回説明会同日の午前に予定していたが、参加者はいなかった。

② 大学院の周知活動

大学院博士前期課程と後期課程のリーフレットならびに学生募集要項とともに新潟県内外の関係諸機関に配布した。さらに、看護研究交流センター事業に参加した看護職や大学院修了生・在学生への周知活動を強化した。具体的には、学部1～4学年の新学期ガイダンスならびにキャリアガイダンスで説明を行い、大学の同窓会には同窓会ホームページに大学院説明会案内の掲載ならびに大学院進学相談窓口として6名の修了生の協力を得た。また、看護研究交流センター事業の看護職を対象とした事業の際に、大学院のPRを行った。

③ 大学院博士前期課程の授業体験の取り組み

県内の看護職ならびに看護学生を対象に、チラシ配布やホームページ等による周知を図った。前期受入科目の参加者は1名(1科目)であり、オンラインでの参加であった。後期受入科目での参加申込はなかった。

④ 博士前期課程入学者の選抜方法の見直し

「令和4年度法人評価結果への取組方針」の中で「(1)大学院における社会人学生の確保に向けた対応 ①志願者の更なる負担軽減に向けて入試制度について検討する」について、入学委員会で検討するよう9月に運営評議会より指示があった。文科省の2年前予告ルールに則り、今年度3月末までに本学ホームページに掲載できるよう、令和8年度(令和7年度実施)入学者選抜からの変更を目標に検討した。2月入試本部会議ならびに研究科委員会で変更案を提示し、パブコメを募った。2月委員会でパブコメ2件を検討した結果、原案からの変更は行わないこととした。パブコメへの回答を作成し、3月入試本部会議ならびに研究科委員会で上記について報告した。3月25日、本学ホームページに「新潟県立看護大学大学院看護学研究科看護学専攻(博士前期課程)入学者選抜方法の変更について(予告)」を掲載した。

(3) 大学院入試ミスの発生防止に係る取り組み

本学大学院入学者選抜における試験問題の出題・採点ミスのガイドラインに基づき、作問～採点までの過程を実施した。博士前期課程1月入試 看護専門科目のうち全受験者が解答する看護共通において、以下の出題ミスがあった。

〈ミスの内容〉

5つの選択肢のうち正しい選択肢1つ解答させる問題において、同内容の選択肢が2つあった(正答はそれ以外の選択肢3つのうちの1つであった)。

〈ミス発見～訂正までの対応〉

試験開始後に出題委員2名がチェックリストにより試験問題の確認を行った際に、上記ミスを発見した。試験開始10分後に、受験生に対し問題訂正があることを試験監督者が口頭説明の上、訂正内容を板書にて伝達した。入試当日の緊急入試本部会議で協議した結果、当該問題は受験生全員が解答する問題であり試験時間中に訂正内容を伝達しているから、得点調整は行わないこととした。

〈公表〉

試験当日に文科省に入試ミス報告書を提出し、翌日に本学ホームページにて公表した。

〈今後の対応〉

同様のミスが生じないように、今回のミス発生の経緯を分析し、再発防止に向けチェック体制や内容の見直しを行う。

(4) 予算の執行状況について

今年度より、大学院説明会で協力いただく修了生2名への謝礼や交通費は運営費からの支出となったため、予算額50,400円の執行額は0円であった。また、助産師コース開設に伴い、博士前期課程リーフレットを令和6年度分から変更するが、この費用は大学院経費で充当することとなった。

3. 次年度の課題

(1) 大学院入学者選抜における試験問題の出題・採点ミス防止を徹底して講ずる。

今回の出題ミス発生の経緯を分析し、再発防止に向けチェック体制や内容の見直しを行い、文科省に報告する。また、令和6年度に実施する入試に上記を適用し、検証を継続して行う。

(2) 大学院入学定員充足と受験者の増加に向けて、引き続き取り組みを行う。ホームページやリーフレット、大学院説明会や授業体験などを通して広く周知を図るとともに、令和8年度(令和7年度実施)入学者選抜からの博士前期課程入学者選抜方法の変更(出願資格・試験科目の変更)に向け準備を進める。

(3) 博士後期課程入学者選抜における面接(口述試験)及び提出書類での評価方法を見直すため、研究科長を中心にワーキングを立ち上げて検討予定である。